



神奈川県
県立図書館

KANAGAWA

神奈川県立図書館

60年の歩み

60th 神奈川県立
図書館



2014（平成26）年

神奈川県立図書館 60年の歩み
—最近10年間を中心に—

2014（平成26）年



神奈川県立図書館の開館60周年によせて

神奈川県知事

黒岩 祐治

横浜港を一望できる高台の紅葉ヶ丘に、神奈川県立図書館が開館して、今年で60年、人に例えれば還暦を迎えることになりました。開館以来、今日まで、県立図書館の運営にご支援、ご尽力をいただきました皆様に、心から感謝し、深く敬意を表します。

県立図書館は、1954年（昭和29年）に、県立音楽堂とともに、当時としては、県内の数少ない文化施設として開館し、これまで神奈川の文化の発展の一翼を担ってきました。

開館以来、県民の皆様が多様な生涯学習のニーズに応えるため、調査・研究に適した専門的な資料の収集や、神奈川県に関わる郷土資料や行政資料の収集、さらには、司書が利用者の皆様からの相談にお答えするレファレンスサービスの充実に努めるなど、専門図書館としての役割を果たしてまいりました。

また、市町村が図書館を次々と設置するようになってからは、県内の公立図書館相互で図書・資料を貸借できる仕組みを構築し、利用者の皆様が身近な図書館で、図書・資料の受取・返却ができるサービスを開始するほか、市町村立図書館の司書の育成に取り組むなど、広域図書館としての役割も担ってまいりました。

一方、インターネットの急速な進展などにより、さまざまな情報が手軽に入手できるようになったことなどを背景に、県立図書館の利用者は年々減少しており、また60年の歳月の中で、施設の老朽化が顕著になるなど、県立図書館は、今、大きな転換期にあります。

こうした中、県立図書館が果たしてきた専門図書館、広域図書館としての役割に加えて、新たな利用者を惹きつける「魅せる図書館」としての機能や、利用者同士の交流を促進する機能などに配慮し、さらに紅葉ヶ丘地区の文化的なにぎわいづくりを担っていけるよう、尽力してまいりたいと存じます。

このたびの開館60周年を契機に、神奈川の知の拠点として、また、生涯学習社会を支える県内の中核的施設として、さらには、文化施設が集まる紅葉ヶ丘地区の中心的施設として、魅力にあふれ、マグネット力のある図書館となるよう、力を尽くしてまいりますので、関係の皆様におかれましては、引き続き温かいご理解とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。



開館60周年を迎えて

神奈川県立図書館長

高 嶋 薫

神奈川県立図書館は、このたび60周年を迎えることとなりました。

これもひとえに、県民の皆様や県内図書館、関係機関など、多くの方々のご支援、ご協力の賜物であり、深く感謝申し上げます。

県立図書館では、これまでも10年の節目ごとにそれまでの歩みを振り返り、記念誌を発行してまいりました。本誌では、『神奈川県立図書館50年の歩み』以後の、最近10年を中心に記述しました。

ICT（情報通信技術）の進展は、業務の電算化による効率化や利便性の向上、県域全体の図書館をつなぐネットワークづくりに貢献しました。一方、インターネットの普及は、来館者数やレファレンス件数の減少を招きました。また、県財政の悪化などによる図書館資料購入費の減少や職員の雇用の多様化も進みました。

こうした中で、県立図書館は、寄贈などによる資料の増強、講座や展示、ホームページ等による図書館のアピール、館種を越えた県域全体の図書館サービスの向上などに力を注いでまいりました。また、生涯学習サポート機能の集約化や、望ましい県立図書館のあり方についての議論、他機関との協働による新たな取り組みを進めてまいりました。

取り巻く環境の様々な変化の中で、今、県立図書館のあるべき姿が改めて問われています。県立図書館は、その果たすべき役割は着実に果たしつつ、変わるべきところは、大胆かつ柔軟に変えていかなければなりません。

60年をかけて築きあげてきた県民の皆様や県内図書館からの信頼に応え、魅力的な「知」の森へすべての皆様を誘ない、新たな「知」を育む場となる図書館、神奈川の文化と産業の発展、社会づくりに寄与する図書館を目指してまいります。

今後とも、皆様の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

神奈川県立図書館 60年の歩み

目 次

知事挨拶

館長挨拶

第1章 神奈川県立図書館60年の歩み	1
第1節 開館から50年	1
1 開館当初	
2 文化資料館の設置	
3 資料の収集	
4 自動車文庫事業	
5 閲覧業務、レファレンス・サービスなど	
6 協力事業	
7 神奈川資料の収集	
8 視聴覚資料の収集と提供	
9 業務の電算化	
10 再編整備計画	
11 課題解決支援サービス	
第2節 最近10年間	3
1 10年間の特徴など	
2 人材育成、業務改善等	
第2章 蔵書を充実させるー最近10年①ー	5
第1節 予算削減の中で蔵書を増やす	5
1 資料購入費の推移	
2 資料充実のための工夫	
(1) 住民生活に光をそそぐ交付金の獲得	
(2) 購入以外の資料の収集	
第2節 分担収集の推進と特色づくり	6
1 人文・社会科学系資料の収集	
2 分担収集の徹底	
3 核となる資料としての神奈川資料	
(1) 神奈川資料の収集	
(2) 神奈川県関係文献情報ファイルの作成・整備	
4 特別コレクションの充実	
5 「重要テーマ」の設定	
6 収集要綱等の改訂(2004～2014年度)	
(1) 神奈川県立図書館資料収集要綱	
(2) 資料選定基準	
(3) 神奈川県立図書館資料収集会議要領	

第3節 蔵書管理・データ整備・修理・保存	9
1 蔵書管理	
(1) 書庫の狭隘化 (2) 資料総点検	
2 書誌データの整備	
(1) 書誌データ作成ツールの利用 (2) 分類 (3) 年代記号	
3 資料の永年保存と修理	
第4節 逐次刊行物	11
1 非売資料の収集	
(1) 大学紀要・学術報告 (2) 神奈川資料「Z C」	
2 雑誌等の県内公共図書館分担保存・活用の促進	
3 県内雑誌・新聞総合目録の整備	
第5節 映像・音楽資料の収集	14
1 郷土映像資料の保存	
2 新たなコレクション	
(1) 佐藤コレクション (2) 須賀田礒太郎自筆楽譜	
第6節 書庫スペースの確保と収蔵庫の変遷	15
第3章 蔵書をアピールするー最近10年②ー	16
第1節 見せる＝魅せる工夫	16
1 図書館大公開	
2 神奈川デジタルアーカイブ	
3 展示	
4 トピックスコーナー	
5 ミニ展示（かながわ資料室）	
6 ホームページからの発信	
(1) 「司書の出番！」 (2) 「クリッピング！」	
第2節 配架の工夫とコーナーの新設	17
1 法律情報コーナー	
2 ビジネス情報コーナー	
3 地方史コーナー	
4 調査報告書コーナーほか	
5 国際資料室	
6 神奈川資料の配置と工夫	
7 視聴覚資料室のレイアウト変更	
8 受賞作コーナーと本館2階閲覧室のレイアウト変更	
9 館内サイン計画	
第3節 蔵書を活かす	20
1 課題解決型リサーチ・ライブラリーのレファレンス	
(1) レファレンス・サービスの状況 (2) レファレンス協同データベースの活用	
(3) 外部データベースの利用促進	

- 2 資料を活かすための情報提供
 - (1) 『かながわ資料室ニュースレター』 (2) 『ビジネス関係資料ガイド』
 - (3) 『トピックスのとびら』 (4) 『社史と伝記にみる日本の実業家』 (5) 『Mゾーン』
- 3 非来館型サービス
- 4 県職員の利用促進を図る取組み
- 5 国立国会図書館配信「歴史的音源」の視聴提供
- 6 国立国会図書館デジタル化資料送信サービス
- 7 16ミリ映写機操作技術認定講習会の実施
- 8 障害者サービス
- 9 神奈川県子ども読書活動推進フォーラム

第4章 県内図書館のネットワーク拡大と人材育成ー最近10年③ー	25
第1節 K L-N E Tの運営・更新	25
1 第3次(2005年)システムの開発・更新	
(1)機器更新の内容 (2)開発の内容	
2 第4次(2010年)システムの開発・更新	
(1)機器更新の内容 (2)開発の内容	
第2節 公共図書館、大学図書館、専門図書館とのネットワーク拡大	26
1 県内ネットワークの拡大	
2 情報誌『こあ』	
第3節 市町村立図書館との協働、職員研修	28
1 市町村図書館等職員研修事業	
2 職員交流など	
第4節 高等学校図書館への支援	29
1 「県立の図書館と県立高等学校による連携・協力モデル事業」から事業本格実施へ	
2 事業の現状と今後	
第5節 図書館関係諸団体及び会議等の運営	30
1 神奈川県図書館協会	
2 関東地区公共図書館協議会	
3 関東甲信越静地区別研修	
4 神奈川県視聴覚教育連盟と紙芝居文化推進協議会	
第5章 生涯学習情報センターの創設から現在	32
第1節 生涯学習情報センターの沿革	32
1 開設までの状況	
(1)開設前史 (2)開設に向けて	
2 オープン	
(1)オープニングセレモニー (2)オープン時の施設の運営	
(3)オープン1周年記念イベント	
3 2年目から現在に至る主な出来事	

第2節 事業の展開	34
1 生涯学習情報の提供	
(1) ホームページ「PLANETかながわ」による情報提供	
(2) 生涯学習情報誌『PLANETかながわ』の発行	
(3) 刊行物情報閲覧提供コーナーとパソコン・インターネット検索コーナーの運営	
(4) その他の媒体による情報提供	
(5) 調査研究等	
2 生涯学習相談	
3 生涯学習指導者等の研修	
4 学習成果活用への支援	
(1) 指導者・ボランティア登録制度	(2) 団体・グループ登録制度
(3) 学習成果の発表・提示活動への支援	(4) 生涯学習ボランティアとの協働
(5) 体験活動・ボランティア活動の推進	
5 生涯学習の拡大促進	
(1) かながわ生涯学習ネットワーク推進協議会による取組み	
(2) 「かながわオープン・カレッジ」の推進	(3) 社会参加活動支援の強化
(4) かながわ大学生涯学習推進協議会による取組み	
6 その他	
(1) 県立の図書館の図書の貸出・返却、図書館利用者登録業務（図書カードの発行）	
(2) 初心者向けパソコン講座の開催	
第6章 新たな県立図書館に向けた動き	40
第1節 県立図書館はどうあるべきかの論議	40
1 重ねた内部での検討（2003～2005年度）	
2 「県立の図書館のあり方検討委員会」の報告（2005～2006年度）	
3 「県立の図書館のあり方検討プロジェクトチーム」等の設置（2007～2011年度）	
4 神奈川県「緊急財政対策」の影響（2012～2013年度）	
5 明日の県立図書館づくりプロジェクトチーム（2013年度）	
第2節 多くの叢智を結集して一変わる県立の図書館	43
本文編 参考文献	44
資料編	
年表	45
資料	54

本 文 編

本文編は、全6章で構成されている。

第1章「神奈川県立図書館60年の歩み」では神奈川県立図書館の60年の歴史を概観した。

第2章から第4章では主にこの10年間の当館の動きを記した。第2章「蔵書を充実させるー最近10年①ー」では資料の受入・整理・保存に関する状況を、第3章「蔵書をアピールするー最近10年②ー」では資料の提供に関する状況を、第4章「県内図書館のネットワーク拡大と人材育成ー最近10年③ー」では県内の図書館への支援、研修等に関する事項を記述した。

第5章は「生涯学習情報センターの創設から現在」とし、1997年10月に生涯学習情報センターが創設されてから、2014年4月に神奈川県立図書館内に「生涯学習サポートコーナー」が設置されるまでの変遷を記した。

第6章「新たな県立図書館に向けた動き」では、2003年度以降重ねられた、当館がどうあるべきかの論議、及び2012年度から2013年度にかけての神奈川県「緊急財政対策」における県立の図書館の見直しに関する動きと、それを踏まえた当館の新たな図書館づくりに向けた胎動を記した。

第1章 神奈川県立図書館60年の歩み

第1節 開館から50年

1 開館当初

1954(昭和29)年10月1日、「神奈川県立図書館条例」が施行され、神奈川県立図書館(以下「当館」)が設置された。10月31日には神奈川県立図書館・音楽堂が落成し、11月4日に音楽堂ホールで開館式を挙、11月10日から一般閲覧業務を開始した。県立図書館としては、1974年に開館した兵庫県立図書館を除けば、全国でも最も遅いスタートであった。

後に国会図書館を手掛けることになる前川國男が設計した当館は、開放的な全面ガラス張りのモダンな建物の中に2万冊の公開書架を擁し、豊富な資料費とレファレンス・サービス機能の重視を特色とする、先進的なサービスを行った。

1958年11月には2館目の神奈川県立の図書館である川崎図書館が設置され、以後現在に至るまで2館体制で県民へのサービスを行っている。京浜工業地帯の発展を背景に、自然科学及び工学に関する資料に重点を置く川崎図書館が設置されたことを受け、それまで総合的な資料収集を進めてきた当館は、次第に人文系、社会科学系の収集に重点を置くようになった。

2 文化資料館の設置

1972年3月31日、県立文化資料館が完成した。この建物は現在当館の新館となっている。文化資料館は、神奈川県史編集室が『神奈川県史』全30巻を編集する過程で収集した、神奈川に関する膨大な資料の受け皿として同年8月1日に設置された。1993年11月に文化資料館が廃止され、資料や機能のほとんどが県立公文書館に移行されるまでの間、文化資料館は当館の組織の一部として活動を続けた。文化資料館廃止後の新館は、3階を「新聞・雑誌室」及び「国際資料室」、4階を「かながわ資料室」として使用することになった。

3 資料の収集

1954年9月に県立図書館開設準備事務局が作成した「神奈川県立図書館・基本方針及収書基準」は、一般基本図書の実を図るとともに、貿易、産業、観光・移民、

国際文化資料、郷土資料の収集に留意することとしている。開館当初は、資料購入費が比較的潤沢であり、その後高度経済成長期には県財政も好調で、資料購入予算についても増加傾向を示していた。しかし、1973年の第4次中東戦争を契機に始まった石油危機による不況の影響を受け、1975年度以後は、資料購入予算の減少を余儀なくされる。その後も、県の財政状態の好不調が資料購入費の多寡を左右している。

4 自動車文庫事業

当館創立時の基本方針の1つに「市町村立図書館その他の読書施設を育成し、県内図書館網を組織して各図書館の機能が十分に発揮できるように指導と助言を与え、適切な資料提供を行う。」があり、開館当初から館外奉仕に力を入れていた。1949年度から県教育委員会が実施してきた貸出文庫(移動図書館)事業を引き継ぐ形で、1955年5月10日から自動車文庫業務を行ってきた。資料購入費も、来館者用とは別に、館外奉仕(自動車文庫)用図書費を確保していた。次第に県内の市町村立図書館が整備されると協力車の巡回事業を開始した。1977年10月から試験的に、1980年4月からは本格的に運行を開始し、事業が軌道に乗るに従って自動車文庫事業は徐々に縮小し、1984年3月末には終了した。館外奉仕用に収集した図書は、1984年度に一旦館内用図書に繰り入れられた後、1985年度に払い出された。

5 閲覧業務、レファレンス・サービスなど

閲覧業務は1954年11月10日に開始した。当時の閲覧室は、1階が一般閲覧室、青少年室、2階が一般閲覧室、特別研究室であった。1956年11月21日からは一般閲覧室において、翌1957年6月1日からは青少年室において個人貸出しを開始した。

レファレンス・サービスは、開館当初は中央カウンターで行っていたが、1956年4月に2階の一般閲覧室に参考図書と郷土資料の一部を移し、ここでレファレンス・サービスを行った。1958年4月には青少年室を改造して「相談室」を設置し、レファレンス・サービス専任職員を置いた。この時、特別研究室を青少年室とした。レファレンス・サービス専任職員は、口頭・電話・手紙によ

る質問に対応する他、所蔵伝記資料索引等各種のレファレンス・ツールの作成などを行った。1972年には文化資料館設置に伴う工事のため、4月21日以降一旦相談室を閉鎖したが、8月16日には相談室を拡張してサービスを再開した。1984年4月、相談室を更に拡張して調査相談室と逐次刊行物室が開設された。1990年4月の神奈川県図書館情報ネットワーク・システム（以下「KL-NET」）の一部稼働以降は、調査相談室のカウンター上に所蔵資料検索や外部データベース検索のためのコンピュータを設置し、レファレンス・サービスに対応している。

複写サービスは1968年10月5日に開始した。2001年にはコイン式複写機が導入された。

6 協力事業

1980年4月から協力車運行事業は本格的に実施された。同年5月15日には『協力車だより』が創刊された。これは、当館と市町村立図書館間の情報交換のためのニューズレターであり、現在も発行している『こあ』（1984年4月10日創刊）に継承されている。『協力車だより』の創刊号には、「本の照会」欄があった。市町村立図書館から当館にリクエストがあった資料のうち、県立の図書館で所蔵がないものについて、県内の市町村立図書館に呼びかけて所蔵調査と借用を依頼するものである。この欄はその後独立し、『WANTED』（1984年4月創刊）となった。印刷体の『WANTED』は、KL-NET稼働後はその機能を次第にKL-WANTEDに移すことになる。

1984年4月に調査部協力課が設置され、協力車の運行、『協力車だより』の発行、市町村立図書館職員に対する研修なども担当した。

7 神奈川資料の収集

当館では、開館当初から郷土資料の収集を使命の一つと考え、方針を立て収集してきた。1960年3月に発行した『郷土資料解説目録』には、1959年11月末までに整理を完了した約3,500冊の郷土資料が、解説、索引と共に掲載されている。

1972年8月に文化資料館が設置され、当館が郷土資料として収集していた資料はほとんどが文化資料館に引き継がれた。文化資料館は、その後特に県の行政資料の収

集に力を入れることになった。

1987年に公文書館法が公布されたことを背景に、1989年10月、「公文書館（仮称）構想懇話会」の公文書館設置に関する提言がなされた。1993年11月1日に文化資料館が廃止され、県立公文書館が二俣川に開館した。この際、起案文書などの「文書資料」は公文書館に移管した。「図書資料」のうち「行政資料」は公文書館に移管し、副本は当館に残した。「図書資料」のうち「郷土資料」は当館に残し、副本は公文書館に移管した。

当館と公文書館の資料の分割状況

区分		神奈川県立 図書館	神奈川県立 公文書館
文書資料			すべて移管
図書 資料	行政資料	副本所蔵	正本移管
	郷土資料	正本所蔵	副本移管

文化資料館廃止後の施設は当館の新館とし、4階に独立した「かながわ資料室」を設けることになった。

8 視聴覚資料の収集と提供

当館の視聴覚資料関係のサービスは、それまで神奈川県視聴覚ライブラリーが所蔵していた16ミリ映画やスライド、紙芝居、レコードなどでスタートした。その後は、16ミリ映画、レコード、カセットテープなど、メディアの変化に合わせて、収集を継続してきた。視聴覚資料を提供する他、16ミリ映写機講習会の開催、映画の上映などを行っており、現在に至っている。

1984年8月には、これまで音楽堂附属施設であった音楽資料室が、当館の視聴覚センターに移管された。この時レコードや楽譜などが視聴覚センターの資料となった。

1986年4月からCD、1991年4月からLDの収集を開始した。1991年4月16日ビデオテープの館外貸出しを開始し、同年10月1日CDの館外貸出しを開始した。

1999年12月には、視聴覚センターを拡大・整備した。

9 業務の電算化

1988年4月1日調査部内に「情報システム開発担当」が設置された。KL-NETの稼働に向け、1989年5月16日

から6月12日まで、資料総点検及び電算システム導入のためのバーコード貼付作業を実施した。電算化以前に蓄積された書誌データは、1989年からの5年間に遡及入力を行った。1990年4月のKL-NETの一部稼働、翌年4月の本格稼働以降、資料の整理・貸出し・返却、レファレンス・サービスといった図書館業務のほとんどを、コンピュータを利用して行っている。

2000年3月1日にはKL-NET第2次システムの運用を開始した。この時インターネットを経由しての当館OPAC(Online Public Access Catalog オンライン蔵書検索)の公開、メールレファレンスなどが実現した。

10 再編整備計画

1991年3月、県立の図書館(紅葉ヶ丘・川崎)の再編整備のための調査検討が第2次新神奈川計画・改定実施計画に位置づけられ、県立の図書館の館長・副館長、生涯学習部長等を含む再編整備検討委員会が立ち上げられた。検討結果を基に外部学識経験者等からなる検討委員会による「県立図書館(紅葉ヶ丘・川崎)再編整備基本構想報告書」(1992年3月 野村総合研究所)、県立の図書館の館長・副館長、生涯学習部長等により策定された「県立図書館(紅葉ヶ丘・川崎)再編整備の基本的考え方」(1993年12月)、高山正也慶應義塾大学教授を委員長とする検討委員会による「県立図書館(紅葉ヶ丘・川崎)再編整備基本計画検討報告書」(1994年3月)及び「県立図書館(紅葉ヶ丘・川崎)再編整備実施基本計画検討報告書」(1995年3月)がまとめられたが、新図書館という形では実現しなかった。その骨子はリニューアル計画へと受け継がれた。

11 課題解決支援サービス

1990年代の再編整備計画、リニューアル計画の流れの中で課題解決型のリサーチライブラリーへの改革が模索された。その一環として資料のクラスタ配置がある。

1997年4月、調査相談室内に「法令・判例コーナー」が設置された。これが現在の法律情報コーナーに繋がっている。2000年2月には、調査相談室内に「ビジネス・経済統計コーナー」が設置された。これは、現在は中央カウンター近くのビジネス情報コーナーとなっている。

当館の法律情報コーナーやビジネス情報コーナーの設置は、その後全国に広がった課題解決支援サービスを先取りするものであった。

第2節 最近10年間

1 10年間の特徴など

最近の10年間で目立ったことは、県の財政状態の悪化による資料購入費の減少と非正規職員化である。資料編55pの表に見るとおり、ここ10年間の資料費の予算・決算額は住民生活に光をそそぐ交付金(ビジネス支援図書館推進費)が措置された2011年度及び2012年度を除き減少しており、それに伴い購入図書冊数は減少している。

ここ10年間の職員数の推移を4pの表に示した。2010年度から横浜駐在事務所(現生涯学習サポート課)が当館の組織の一部となったこともあり、職員の総数は若干増えているが、非正規職員の割合が増加した。2004年度には2人の再任用職員を含め常勤職員は65人60.7%であったが、2014年度には再任用職員14人を含め52人49.1%である。2004年度に約4割であった非正規職員の割合は、2014年度には5割を超えた。

資料のデジタル化が進んだ10年でもあった。2005年度にスタートした「かながわデジタルアーカイブ」は、当初は当館の単独事業であったが、2012年3月からは県立公文書館と連携した「神奈川デジタルアーカイブ」となり、両館が所蔵する神奈川資料をデジタル化して公開している。

電算関係の事項としては、国立国会図書館レファレンス協同データベースへの参加(2005年7月7日から)、第3次KL-NET稼働(2005年4月15日)、第4次KL-NET稼働(2010年4月12日)などがある。

2010年4月1日に横浜駅西口近くのかながわ県民センター内にあった生涯学習情報センターが生涯学習課から移管され、同時に図書館業務も開始した。当初は県立の図書館の資料の貸出し・返却業務のみであったが、同年10月1日からは図書館カードの発行も行うようになった。2014年3月には生涯学習情報センターを廃止するとともに、4月以降は当館に集約し、新館1階の視聴覚資料室内に生涯学習サポートコーナーを設置した。なお、4月以降もかながわ県民センター9階に県立図書館横浜西口

カウンターを設け、予約図書の貸出、返却、利用登録を行っている。

2011年3月11日14時46分東日本大震災が発生した。当館は開館中であったが、交通機関の運行が不安定なこともあり、15時30分で閉館することになった。館内は新館4階のかながわ資料室や書庫内で、書架から落下した資料が散乱した。翌12日土曜日は、9時から開館した。かながわ資料室、新聞・雑誌室は閉室、レファレンス・サービスは9時の時点では停止していたが12時50分に再開を決定、図書や視聴覚資料の貸出し・返却を中心としたサービスを行った。13日の日曜日からは通常開館した。

2 人材育成、業務改善等

職員のスキルアップのため、館内整理日である毎月第二木曜日に職員研修及びミニレクチャーを行っている。職員研修は全職員が参加するもので、館長講話、事故・不祥事防止、外部研修参加者の報告、産業医講話などが主な内容である。ミニレクチャーは1990年代から不定期に行われていたが現在は毎月第二木曜日に行っている。職員を講師とし、レファレンス・サービスを中心とした講義を行っている。参加する職員にとっては当館の業

務に関する知識が得られ、講師となる職員の勉強にもなっている。

当館は全国的にも早い時期から自己評価に取り組んできた。文部科学省主催の検討協力者会議による「これからの図書館像」（2006年3月）にも事例として取り上げられている。2003年3月にまとめた「神奈川県立図書館の活動評価 平成13年度」以来毎年自己評価を続け、現在は年度当初に数値目標を定め、自己評価と共に当館のホームページ上に公表している。

職員の日頃の研究成果の発表の場である『県立図書館紀要』は1985年3月に創刊し、現在まで11号を数えている。近年はほぼ隔年のペースで発行している。

1955年3月に発足した図書館協議会は2000年度をもって廃止し、現在はアドバイザー・レクチャーとして年に数人の有識者から運営に関する助言等を得ている。

その他の事柄として、祝日開館に加え2008年4月1日から月曜祝日開館を実施したこと、2009年3月1日から元紅葉ヶ丘高等職業技術校を収蔵庫として利用開始したこと、2010年5月20日日本館屋上に太陽光発電装置を設置したこと、2012年度に前川國男の建築デザインである本館外壁ブロックを解体・復元したことなどがある。

職員数の推移(2004～2014年度)

年度	常勤職員（再任用含む）		臨任職員		非常勤職員		日々雇用職員		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
2004	65	60.7%	7	6.5%	35	32.7%	0	0.0%	107	100.0%
2005	67	64.4%	3	2.9%	34	32.7%	0	0.0%	104	100.0%
2006	60	58.8%	2	2.0%	40	39.2%	0	0.0%	102	100.0%
2007	54	54.5%	1	1.0%	44	44.4%	0	0.0%	99	100.0%
2008	50	50.5%	4	4.0%	45	45.5%	0	0.0%	99	100.0%
2009	50	50.5%	5	5.1%	43	43.4%	1	1.0%	99	100.0%
2010	62	54.9%	6	5.3%	44	38.9%	1	0.9%	113	100.0%
2011	60	54.1%	6	5.4%	45	40.5%	0	0.0%	111	100.0%
2012	57	50.4%	7	6.2%	49	43.4%	0	0.0%	113	100.0%
2013	52	46.4%	10	8.9%	50	44.6%	0	0.0%	112	100.0%
2014	52	49.1%	9	8.5%	45	42.5%	0	0.0%	106	100.0%

*2010年度より横浜駐在事務所（現生涯学習サポート課）が組織の一部になった。

*出典：各年度の事業要覧

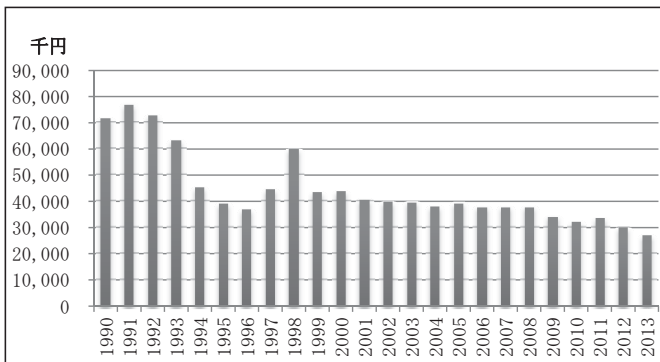
第2章 蔵書を充実させる—最近10年①—

第1節 予算削減の中で蔵書を増やす

1 資料購入費の推移

当館の資料購入費予算額（図書、逐次刊行物、視聴覚資料を含む）は、バブル最終期1991年度の76,670千円をピークに、その後は不況による税収減少などを反映して漸減し、2003年度には39,487千円、2013年度には26,856千円となった。2013年度の予算額は川崎図書館と合わせて47,186千円で、これは県民一人当たりでは5.29円と全国最低水準である。（47都道府県の平均額は20.83円、同規模以上の東京都は25.18円、大阪は13.98円）（「日本の図書館」による）

資料費（予算額）の推移（1990-2013）



購入図書の冊数と平均単価から見ると、1991年度の購入図書は13,289冊、平均単価（図書購入費決算額／購入冊数）は5,067円、2003年度は5,995冊で平均単価4,377円、2013年度は4,759冊で平均単価は3,787円となっている。逐次刊行物の継続購入タイトル数（新聞・雑誌・官報/法規を含む）も2003年度の480タイトルから2013年度の345タイトルへと、この10年で大きく減少した。（決算額、冊数は「日本の図書館」による。2013年度については業務用資料による）

2 資料充実のための工夫

(1) 住民生活に光をそそぐ交付金の獲得

資料購入費減少への対策のひとつとして「住民生活に光をそそぐ交付金」を申請し、2011年度から2012年度にかけて合計6千万円が交付された。「ビジネス支援図書館推進費」の費目で、用途はビジネス関係図書の購入と整理に限定されていた。一時的、限定的な資金とは言え、

通常予算では購入できなくなっていた『明治後期産業発達史資料』などの高額な基本図書や参考図書、マニュアル類を潤沢に揃えることができた。交付金で購入した資料は2011年度1,218冊、2012年度2,849冊で、このうち規格等の1,287冊は川崎図書館に配置した。

ビジネス支援図書館推進費による購入図書冊数

		県立図書館	川崎図書館	両館合計
		冊数（冊）	冊数（冊）	冊数（冊）
2011年度	備品	15	86	101
	消耗品	978	139	1,117
	合計	993	225	1,218
2012年度	備品	95	100	195
	消耗品	1,692	962	2,654
	合計	1,787	1,062	2,849
総合計		2,780	1,287	4,067

(2) 購入以外の資料の収集

購入以外の図書受入には寄贈受入、管理換受入（県刊行物や県機関からの資料の受入）、編入受入（当館刊行物や所蔵雑誌・新聞を製本して図書扱いとしたものの受入）、その他受入（弁償本等の受入）の4通りがある。図書購入費の減少による受入冊数の減少を補う必要から、寄贈や管理換による受入冊数を充実させる工夫を続けてきた。

① 管理換と定常流入システム

当館は収集の特色の1つとして市場ルートに乗らない非売資料、中でも官公庁発行の行政資料の収集に力を入れてきた。神奈川県各部署で新規に刊行された資料は、県政情報センター経由で当館に届いている。

このルートとは別に1997年に導入された「定常流入システム」は、公文書館に集約される保存期限の切れた官公庁出版物を当館と川崎図書館が選別し、必要な資料を受入れる仕組みである。2007年度以降は実施していないが、発行所属からの納入の励行など、行政資料の網羅的な収集に努めている。現在も継続している議会図書室からのルートもある。議会図書室で不用となった議会関係資料等についてリストから選定し、選んだ資料を通送便等で受領している。行政資料を補充するのに効率的な収集システムである。

② 寄贈受入

大口寄贈者として神奈川新聞社と神奈川近代文学館がある。神奈川新聞社からは、不用となった「書評用図書」が年5～6回寄贈される。新刊図書が中心だが、神奈川の同人誌なども含まれる。神奈川近代文学館からも年数回新刊図書が届く。出版社から寄贈され、近代文学館では不用と判断された図書である。当館では、寄贈される可能性のあるものは選定時に保留にしておき、一定期間経過後も寄贈されなかった場合に補充購入している。

また、寄贈された図書は、すべて受入れるのではなく選別して受入れる。選別の結果受入れなかった図書は、一時保管しておき、当館や青少年センターを会場とした研修の終了後、研修参加館（公共図書館、高等学校図書館など）に紹介し、希望する館に譲渡している。また、年に1度、公益財団法人日本科学協会にまとめて譲渡し、協会からアジア近隣諸国の大学等に寄贈される。

県関係の寄贈としては、毎年、青少年課からの依頼で「優良推薦図書」の予備調査に協力しているが、調査終了後に、使用した現物図書が寄贈される。

生涯学習課からは年1回「人権・同和関係図書」が現物で寄贈され、管理換受入をしている。同和問題に限らず広く人権に関する図書の中から当館が選定してリストを作成し、生涯学習課からリストに基づいて寄贈される。

個人からの大口寄贈の申込みも年数回あるが、リストをもらって選別し、必要な図書だけを受領する。

自費出版資料の寄贈受入については、判断基準を客観的にするため、2013年10月に「自費出版資料の寄贈の受入れに関するガイドライン」を作成した。

③ 「この本を探しています(ご寄贈のお願い)」

2005年度から当館のホームページに「この本を探しています(ご寄贈のお願い)」というサイトを開設し、亡失除籍や絶版による入手不能の図書のうち、補充しておきたい図書の寄贈を募集している。これにより寄贈された図書は、サイト開設から現在までに百冊を超え、入手の難しい貴重な神奈川資料の補充などに成果を上げている。

④ 地域資料交換会

毎年、当館主催で地域資料交換会を開催している。当館及び県内の市町村立図書館や県の関係機関に寄贈された資料のうち、当該機関で受入れない地域資料を対象と

した交換会である。実施日前の一定期間に交換会用資料を当館に集約し、当館を会場として実施している。

1983年に「資料交換会」の名称で文化資料館が主催したのが始まりで、郷土・行政資料を中心に扱った。その後、1993年度に文化資料館が公文書館に移り、当館の調査部地域資料課が事業を引継いだ。この頃から徐々に不用資料の有効活用を目的とする会に性格を変え、地域資料より一般図書の方が多く集まるようになっていった。在庫量や新たな集積量の増加から業務の負担が増大したため2007年度に見直しを行い、本来の趣旨に立ち戻って地域資料に限定して開催することとし、名称も「地域資料交換会」とした。2010年度から図書課が担当している。

この事業により、供出した機関は保管していたスペースを有効活用することができ、資料を取得した機関は、蔵書を補完・充実することができる。実施日を市町村立図書館対象の研修の日に当てるなど、できるだけ多くの機関が参加できるよう工夫している。当館にとっても、未所蔵の神奈川資料や欠号を補充する機会となっている。

資料交換会の統計

年度	実施日	提供館数	提供冊数	選択館数	選択冊数
2009(平成21)	2009.11.26	19	2,225	18	782
2010(平成22)	2010.11.18	19	2,871	21	1,054
2011(平成23)	2012.1.19	21	3,261	32	1,451
2012(平成24)	2012.11.29	14	1,185	29	540
2013(平成25)	2013.11.13	14	1,501	21	671

*業務用資料(報告書等)から引用

第2節 分担収集の推進と特色づくり

1 人文・社会科学系資料の収集

当館は早くから人文・社会科学系の資料の収集に力を入れてきたが、1996年策定の「県立図書館(紅葉ヶ丘・川崎)リニューアル計画」により、「社会科学、人文科学及びそれらと自然科学の融合領域の資料・情報に特色を持つ」「課題解決型のリサーチ・ライブラリー」という方向性を確立した。2006年度の当館の事業概要では「収集図書全体に対する社会科学、人文科学の構成比率を、購入、寄贈とも80%以上に維持する」と記し、2007から2009年度の事業概要では「90%以上」としている。その後は数値的な目標は示していないが、2013年度の統計を

みると日本十進分類法（以下「NDC」）1～3門及び6～9門の一般図書購入冊数は4,184冊で購入全体の92.9%、寄贈では同じく2,007冊で89.0%である。（神奈川資料を含まない全体冊数と購入冊数により算出。『平成26年度 神奈川県立図書館事業要覧』より）

2 分担収集の徹底

購入図書選定の際、県内図書館との「役割分担を踏まえ、主として調査研究に資するものを収集する」との基本方針が「神奈川県立図書館資料収集要綱」に記されているが、2012年から一段と徹底するようになった。

県立の2館では、川崎図書館が自然科学・工学系、当館が人文・社会科学系という分担収集はすでに定着していたが、境界領域や参考図書、年鑑類も含めて重複資料を持たない方針を一層徹底した。このため、両館の受入担当者は、情報交換を以前よりも密に行うようになった。

県内市町村立図書館との分担収集としては、市町村立図書館が受入対象とするような一般図書は選定しないことを、より強く意識するようになった。代わりに「必要ではあるが高額で予算的に厳しい」「専門的な内容で多くの利用者を見込めない」などの理由で市町村立図書館が選定しにくい図書を当館ができるだけ多く収集し、市町村立図書館の求めに応じて提供できるよう配慮している。

県内図書館とのネットワークが充実し、相互貸借システムが情報面、物流面ともに良好に運営されていることにより、分担収集の強化が可能となっている。

保健福祉大学図書館や女性センター図書館との分担収集についても工夫している。両館の収集範囲の図書は、新刊時すぐに選定せず保留リストに載せておき、後日確認して、両館で購入されなかった図書だけを当館が購入するという方法を2012年度から実施した。

3 核となる資料としての神奈川資料

(1) 神奈川資料の収集

当館は、開館当初から地域資料を重要な収集対象としてきた。2013年度から事業要覧などの記述を「神奈川資料」に統一し、改めて当館の「核となる資料」と位置づけた。

神奈川資料の収集については、購入資料は書店経由、

直販を問わず、漏らさず選定するよう努め、寄贈資料については県刊行の管理換資料はもとより、県内市町村刊行の行政資料や自費出版の資料にも十分に目配りして積極的に収集している。

市町村の刊行物や、会社・団体の出版物、個人の出版物は刊行情報を得ることが難しいが、JAPAN/MARC（国立国会図書館が収集した図書の書誌情報）や新聞記事、新聞書評を欠かさずチェックし、丹念に調査したうえで積極的に寄贈依頼をしている。

(2) 神奈川県関係文献情報ファイルの作成・整備

神奈川県関係文献情報ファイル（以下「K文献」）は、神奈川県に関する文献（新聞記事、雑誌論文・記事、図書の特定部分）を県民が迅速かつ広範に入手できることを目的とするオンライン索引で、当館の神奈川資料を活かすための有力なツールとなっている。

川崎図書館と共同で作成しており、当館では新聞記事については地域情報課、雑誌記事については情報整備課、図書については図書課が、継続的に新規の索引データを入力している。また、電算化以前に作成していた冊子体「神奈川県関係新聞記事索引」のデータ入力作業を、緊急雇用事業を活用して進め、2013年11月に1976年以降のデータ化が終了した。2014年6月末のデータ件数は298,336件（文献43,223件、記事255,113件）である。

更に、2013年2月にホームページのトップ画面に「神奈川県関係記事・文献情報検索」のメニューを新設し、資料検索における利便性の向上を図った。有効活用されるよう、県民公開講座等でPRし、利用促進に努めている。

4 特別コレクションの充実

当館の特別コレクションはホームページで紹介している。図書の特別コレクションのうち、現在も収集が続いているのは、「ベストセラーズ文庫」「全国市町村史資料」「児童図書コレクション」「報徳思想関係図書」である。また、この10年で大きな変化があったのは、「飯田九一文庫」である。横浜市出身の日本画家である故飯田九一氏の旧蔵資料は、1973年から寄託されていたが、2008年にご遺族から寄贈された。芭蕉、其角、蕪村等の真跡を含む俳諧関係の短冊等のコレクション「飯田九一文庫」は、専門家の間でも質の高さを認められている。

図書の特別コレクションの収集状況(2013年度末)

名称	創設年	点数	利用方法
ベストセラーズ文庫	1966	1,860	閲覧
戦時文庫	1985	1,570	閲覧
全国市町村史資料	1954	*1,906	閲覧・貸出
児童図書コレクション	1984	42,966	閲覧・貸出
ACC文庫	1967	10,796	閲覧・貸出
ブース文庫	1959	664	閲覧
尾崎文庫	1973	28,000	閲覧
報徳思想関係図書	1951	975	閲覧
飯田九一文庫	2008(1973)	6,384	閲覧

*「全国市町村史資料」の点数欄は、冊数ではなくタイトル数

特別コレクションについて

開館以来、当館は特別コレクションを構築してきた。

1966年10月に実施された展示会「明治・大正・昭和、本のベストセラーズ展」を機に収集を始めたのが「ベストセラーズ文庫」である。現在は、毎年の書籍売り上げ上位20位までを収集している。

1967年3月2日、横浜アメリカ文化センターから主に洋書を中心とする資料が寄贈された。これが「ACC文庫」となった。同年10月川崎市産業文化会館で展示会「雑誌にみる明治百年展」を開催した。これを契機に「雑誌創刊号コレクション」の収集が始まった。

その他、第二次世界大戦下に発行された戦意高揚図書コレクションである「戦時文庫」が1984年11月21日に、音楽評論家故野村光一氏の音楽関係資料である「野村光一文庫」が1989年5月16日に設置された。

5 「重要テーマ」の設定

購入できる冊数が減少している状況下での収集の工夫として、2008年度から、年度ごとに時宜に適った重要テーマを定め、関連の図書を厚く収集した。この時定めたテーマは、2008年度「神奈川開港150周年」と「源氏物語千年紀」、2009年度「歴史的経済危機と克服への道」と「地球温暖化をはじめとする環境問題」、2010年度「書物文化の現在—2010国民読書年にちなんで」、2011年度「知の地平—WWW創設20年」であった。テーマによっては刊行される資料が少なかったり、川崎図書館の収集と重複する分野であったため収集が難しく、2011年度でこの事業は終了した。

神奈川資料については、2011年度は、大席の管理換受

入を契機とした「マリア・ルス号事件」関係、2013年度は、世界文化遺産を目指す鎌倉、日本ジオパークに認定された箱根関係資料を重点収集する方針を定めた。

6 収集要綱等の改訂(2004~2014年度)

(1) 神奈川県立図書館資料収集要綱

2003年4月1日施行の要綱を2006年1月1日施行及び2014年4月1日施行と2度改訂した。2006年改訂での大きな変更点は、第15条(選定の手続き)の項で、それまで2本立てであった「神奈川県立図書館図書資料選定会議要領」と「神奈川県立図書館視聴覚資料選定会議要領」とを1本にしたことと、特別コレクションに関する第12条の項目から「(5) 研究用児童図書」を外したことの2点である。2014年改訂では、第2条(資料収集の基本方針)で、ビジネス資料を重点収集項目から削除し、「神奈川資料」を加えた。また、第4条(図書の種類)で「専門図書」を「一般図書」より上位に置いた。文言の変更としては、実情に合わせ、「地域資料」を「神奈川資料」に、特別コレクションの「報徳教関係図書」を「報徳思想関係図書」に改めた。逐次刊行物、視聴覚資料の収集の個別方針では、映像、音楽、音響関係資料の収集を神奈川資料中心とすることを打ち出した。

(2) 資料選定基準

2000年11月1日施行のものを2006年11月16日施行及び2014年4月1日施行と2度改訂した。2000年の基準は「図書選定基準」「地域資料選定基準」「逐次刊行物選定基準」「視聴覚資料選定基準」「電子出版物選定基準」の5本に分かれ、それぞれに詳細な内容であったが、2006年に内容を整理し、一本化した。2014年の改訂は、収集要綱の改訂に準じた。実情に合わせて、選定のための資料を「日本全国書誌・週刊版」(プリント版)から「JAPAN/MARC」(オンライン提供)に記述を変更した。

(3) 神奈川県立図書館資料収集会議要領

この10年で3回の改訂があった。2003年4月1日施行のものを、2005年4月1日改訂で、予備選定会議の構成員に視聴覚資料課担当職員を新たに加えた。2010年4月1日改訂では組織改編により、構成員が、座長、副座長を含めて14人から10人となった。また、「図書資料選定会議」の名称を「資料収集会議」とし、それまで別建

てであった視聴覚資料選定会議に関する項を追加して1本にした。「図書資料予備選定会議」は「図書資料選定会議」と改称した。会議の開催頻度は、資料収集会議が月1回から3ヶ月に1回、図書資料選定会議が週1回から2週間に1回となった。2014年4月1日の改訂では、資料収集会議の構成員に生涯学習サポート課長が加わり、視聴覚資料選定会議の構成員に調査閲覧課担当職員が加わった。これらの改訂の他に、除籍基準や資料亡失とその損害弁償に関する規定などもこの10年のうちに1～2回改訂された。

第3節 蔵書管理・データ整備・修理・保存

1 蔵書管理

(1) 書庫の狭隘化

蔵書の増加に伴い、書庫スペースの不足が深刻になっている。図書については、2013年度末の所蔵は816,960冊で、毎年1万冊前後を新規に受入れている。蔵書のうち約10万冊が公開されており、公開書架の図書を書庫入れする際、それを配架するスペースを書庫内に確保することが困難な状況である。新聞、雑誌、視聴覚資料等も含めた年間の増加量は約3万冊である。

2006年度から事業概要にも「狭隘化」が問題として挙がるようになり、2010年度からは毎年、「永年保存の範囲の検討」、「重複資料の除籍」が提起されている。このうち、重複資料の除籍は、2011年度末に児童書について実施した。

収蔵庫には、比較的出納の頻度の少ない資料を置いているが、書庫出納に時間を要するため改善が望まれる。現在、当館の建替えまたは改修の方向性が示されていないが、それまでの期間のスペース確保が必要である。

(2) 資料総点検

毎年年度始めに実施している資料総点検のための休館期間は、「神奈川県立の図書館の利用等に関する規則」では2週間であるが、実際には年々短くなっている。2002年度まではほぼ15日間休館していたが、2003、2004年度は9日間、KL-NET更新期の2005年度は14日間、2006年度以降は、KL-NET更新期の2010年度12日間を除き、7日間である。

休館中に、資料点検の他、書架移動と清掃、開館準備、

職員研修などを実施するが、休館7日間のうち実働は5日間で、すべての作業をこなすには時間が不足し、館内整理日(第2木曜日)に補うなどのやりくりをしている。

資料点検は、公開スペースの資料は毎年すべて対象としているが、書庫内資料については一部しか点検できない。2012年度までは長期の計画がなく、できる量に見合う分野を点検対象に選んでいたが、その結果10年経っても書庫内を一巡できないペースになっていた。2012年度に、7年間で書庫内の全資料を点検できる「書庫内蔵書点検計画」をまとめ、2013年度点検よりスタートした。

資料総点検7年計画

	年度	資料点検期間内			その他の期間		年度総計 (冊)
		点検対象	点検冊数	小計(冊)	点検対象	点検冊数	
1	2013	370-399	27,155	86,421	岩波文庫	7,488	105,793
		9門(除:F)	59,306		9門(F)	11,884	
2	2014	6門	33,200	69,500	-	-	69,500
		7門	36,300				
3	2015	旧県川	32,382	80,523	8門	7,604	88,127
		5門	25,031				
		1門	23,110				
4	2016	児童書	33,323	60,815	-	-	60,815
		洋書	23,658				
		コレクション	3,834				
5	2017	0門	23,334	79,591	-	-	79,591
		2門	56,257				
6	2018	4門	20,597	70,164	-	-	70,164
		3門(4割)	49,567				
7	2019	3門(6割)	74,351	74,351	-	-	74,351

2 書誌データの整備

(1) 書誌データ作成ツールの利用

書誌データの作成では、購入資料についてはNS-MARC(日販図書館サービス(株)提供)を、官公庁、団体等刊行の非売資料についてはJAPAN/MARCを主に使用してきた。NS-MARCは購入資料の選定ツールである冊子『ウィークリー出版情報』と連動しており、MARC番号を活用して効率的に発注作業ができる。2008年度からは図書の内容紹介を取り込むこととし、OPACによる情報提供や職員の購入資料選定のための調査に役立てている。JAPAN/MARCは2012年1月にJAPAN/MARC MARC21に変更され、無償で利用できるようになった。

2000年3月のKL-NET第2次システム稼働時より、古い資料についてはJ-BISC(明治期以降の書誌データを蓄積したJAPAN/MARCのCD-ROM版)、洋書については

NACSIS-CAT（国立情報学研究所提供）のデータを使用した
が、J-BISCは、2010年に利用を終了した。現在は古い
資料のデータ作成にはNDL-OPACからのダウンロードが
利用できるが、手間がかかるため、実際にはJAPAN/MARC
を参照しながらオリジナル・データを作成している。

NACSIS-CATは2007年度までは400件前後利用してい
たが、2009年度末に国際資料室を閉室してからは洋書の
受入冊数が減ったため、その後の利用は激減している。

神奈川資料は、一般図書とは別のサブシステムで地域
資料課が書誌データを作成していた。KL-NET第2次シ
ステム稼働時（2000年3月）に、一般図書のサブシステム
と統合したことにより、一般図書と同様にJAPAN/MARCや
NS-MARCを利用できるようになった。2009年度の組織改
編で、神奈川資料の受入整理業務は、地域資料課から図
書課と情報整備課に移り、一層標準化が進んだ。

データ作成ツールの利用状況(件数)

年度	オリジナル		コピー		J-BISC	NACSIS
	和	洋	和	洋		
2004	25	43	448	68	644	642
2005	199	32	261	68	766	523
2006	528	100	466	79	1,502	666
2007	623	151	573	105	980	774
2008	350	169	915	86	186	665
2009	155	235	178	147	299	1,106
2010	920	101	786	72		363
2011	1,024	67	1,368	23		15
2012	327	50	803	43		13
2013	411	14	1,004	97		29

* 2012・2013年度の光交付金による購入分は含まない

(2) 分類

分類は、一般図書は原則としてNDC9版による。神奈
川資料については、当館のオリジナルの「神奈川県立図
書館地域資料分類表」(以下「KDC」)により分類している。

(3) 年代記号

「年代記号」は、配架場所（公開／書庫）の識別手段
として1976年7月に誕生し、2009年12月まで使用した
当館独自の工夫である。公開図書のラベル4段目に受入
年(2005年12月からは刊行年)をアルファベットで記入
し、書誌データにも入力した。カード目録を使用した時
期には鉛筆で記載し、書庫入れ時に消去した。年代記号
順に一括して書庫入れ作業を行うことを前提とした仕組
みであった。

電算化後は、コンピュータでの配架場所の確認が容易
になったこと、蔵書点検の期間短縮などを背景に1999年
頃から一括書庫入れが行われなくなったことなどから、
当初の年代記号の機能は失われた。

果たすべき役割を終えた年代記号を2009年12月末で、
廃止した。但し、新鮮さの目安としては便利であるため、
装備面でのみ、ラベルの4段目に受入年（西暦）の下2
桁を記入することとした。

年代記号付きラベルと廃止後の公開図書ラベル

《年代記号付ラベル》

《年代記号廃止後》



1993年刊行

2007年受入

2010年受入

3 資料の永年保存と修理

当館では原則として一度受入れた資料は永年保存とし
ているため、経年劣化や使用による汚破損で修理や保存
対策の必要な資料が年間8千～9千冊出てくる。利用者
による書込みの消去やラベルはがれの修理等、比較的簡
易な修理はカウンターを担当課が対応し、ラベルの書換
えや複製本、背文字作成などは図書課が対応している。
無線綴じ、保存箱の作成など手間や時間のかかるものが
年平均3千冊程度あり、計画的な修理に努めているが、
常に修理本を抱えている状態である。2011年3月の東日
本大震災では書架からの落下も多く、修理本の対応に追
われた。

修理の際は、資料の利用を将来にわたって保障するた
め、できるだけ元の形を残す、閲覧・貸出しに便利な状
態で保存するなどの観点から1冊ごとに検討し、修理方
法を決める。修理しない（手を加えない）方がよい資料
は保存箱を作って保存する。職員の手で継続的に修理で
きるようマニュアルを作成して技術を伝承しており、県
内図書館の職員や一般県民を対象とした研修や講座も開
催している。

第4節 逐次刊行物

1 非売資料の収集

(1) 大学紀要・学術報告

当館は社会科学・人文科学分野の各種逐次刊行物を収集し、最新情報や専門情報を提供することにより、県民のニーズの高度化、多様化に 대응している。そのため、大学や研究所が研究成果を収録し定期的に刊行する論文集や、官公庁・企業・団体が刊行する雑誌を、開館当初から調査研究に役立つ資料として積極的に収集してきた。

そういった雑誌には書店で扱われず非売品となっているものも多い。そのため、国立国会図書館発行の『全日本出版物総目録』等を参考に定期的に選定を行い、個別に寄贈依頼を実施することで所蔵資料の充実に努めてきた。『全日本出版物総目録』が1976年版を最後に終刊となった後は、同じく国立国会図書館発行の『日本全国書誌』により選定を行った。なお、『日本全国書誌』は2012年1月から「全国書誌提供サービス」としてWeb上の「NDL-OPAC」でのみ提供されており、現在はこのサービスを利用して選定を行っている。

大学紀要・学術報告については、大学院の設立や大学機構の改編等で一時的に新刊のタイトル数が増加することはあるが、近年急速に進んでいる電子化の影響で、全体的に紙媒体での刊行は減少傾向にある。そのような状況に当館としてどう対応していくか、今後の課題である。

(2) 神奈川資料「ZC」

神奈川県内で発行されている、もしくは神奈川県に関連する資料を、当館は郷土資料として重点的に収集している。基本的には図書扱いで受入れているが、パンフレットやリーフレットといった、紙媒体の資料ではあるが軽易な形態のもの（ポスターは除く）は、雑誌（請求記号ZC）として収集している。地域住民や市民団体が発行する資料は一般に流通しにくいいため、資料収集のための情報は、大学紀要・学術報告と同じく「全国書誌提供サービス」による他、職員による独自調査なども実施している。2011年度には、神奈川資料としての雑誌活用をより促進するため本格的な整備を開始し、2013年度は各タイトルのZCに個別の請求記号を付与した。

寄贈雑誌新規受入タイトル数推移(単位:タイトル)

年 度	一般雑誌 (国際資料含む)	神奈川資料 (ZC)	寄贈継続 タイトル総数
2004年度	83	25	3,432
2005年度	213	5	3,530
2006年度	71	3	3,529
2007年度	107	19	2,896
2008年度	71	70	3,571
2009年度	32	24	3,491
2010年度	81	7	3,466
2011年度	66	17	3,125
2012年度	95	29	2,764
2013年度	54	5	2,721

2 雑誌等の県内公共図書館分担保存・活用の促進

神奈川県内の公共図書館等では、相互に協力して雑誌提供能力を高めるとともに、書庫スペースの狭隘化を緩和し、もって図書館サービスの充実を図ることを目的に、2004年4月1日から「神奈川県内公共図書館等における雑誌の分担保存に関する申し合わせ」（以下「申し合わせ」）(p.13参照)に基づいた分担保存事業を行っている。

分担保存の方法は2通りある。①指定された館が永年保存する方法、②市町村立図書館等の保存期間終了後、当館が引き継いで永年保存する方法である。

①では、申し合わせに参加した公共図書館等（参加館）が分担保存するタイトルを協議により選定し、それぞれのタイトルについて永年保存館を2館以上指定する。指定された館は、当該タイトルについて責任を持って保存することが求められる。事業が開始された2004年度当初に3館以上が重複して永年保存していた113誌を分担保存対象タイトルに選定し、各タイトルにつき2館の永年保存館を指定して申し合わせ「別表1」(p.13参照)としてまとめた。②では、市町村立図書館が期間を限定して保存している雑誌のうち37誌について、保存期間終了後、当館が引継いで永年保存タイトルとすることを確認し、申し合わせ「別表2」(p.13参照)としてまとめた。

この申し合わせの事務局は当館資料部情報整備課内に置かれ、実施に関する必要な事項については、神奈川県逐次刊行物実務担当者会議において年1回以上協議を行うと定められている。事業開始から約5年が経過した2008年度の会議では、必要事項の見直しを行った。分担保存対象タイトルの見直しの他、永年保存館に指定され

た館から、書庫スペース不足や購入中止などにより指定の解除を求められたことによる代替館の調整などを実施した。参加館の受入状況の変化を踏まえたものであり、その後も適宜見直しを行うことで、公共図書館等全体のさらなるサービスの充実に努めている。

「神奈川県内公共図書館等における雑誌の 分担保存に関する申し合わせ」の経緯

年月日	内容
2001年 11月8日	逐次刊行物実務担当者会議にて、雑誌の分担保存について検討していくことを提案。各館の代表者を選出する。 2001年度第1回逐次刊行物実務担当者代表者会議を開催。
2004年 4月1日	「神奈川県内公共図書館等における雑誌の分担保存に関する申し合わせ」による雑誌の分担保存を開始。「別表1」(113タイトル)、「別表2」(37タイトル)を定める。
2008年 12月18日	逐次刊行物実務担当者会議にて、雑誌の分担保存タイトル・保存館の見直しを実施。「別表1」(114タイトル)、「別表2」(42タイトル)となる。
2013年 6月7日	前回の見直しから5年が経過したため、逐次刊行物実務担当者会議にて、再度雑誌の分担保存タイトル・保存館の見直しを実施。「別表1」(116タイトル)、「別表2」(42タイトル)となる。

3 県内雑誌・新聞総合目録の整備

県内公共図書館等における雑誌・新聞の相互利用を推進するため、当館はその基本的資料となる『神奈川県市町(村)図書館現行受入雑誌総合目録』を1990年度から隔年ごとに冊子体で発行してきた。しかし、冊子体に掲載された情報にはタイムラグが生じること、検索対象は雑誌名に限られるといった問題点があった。

問題点を改善するために、2002年度に冊子体での刊行を終了し、2003年度からWeb(HTML)版として一般公開した。だが、各館が「訂正票」にて報告する所蔵状況の変更を、事務局が一括して更新する方法を採用していた

ため、データ更新のタイムラグの問題は依然残されていた。そのため2009年度からは国立情報学研究所により開発されたNetCommons版の検討を行い、2010年度にNetCommons版「Web版神奈川県内公共図書館購入継続雑誌・新聞総合目録」の運用を開始し、一般に公開した。

NetCommons版に移行した結果、事務局は当館資料部情報整備課内に置かれてはいるが、所蔵状況の更新や新規雑誌の登録を各館の担当者が行えるようになり、データ更新のタイムラグが解消された。また、検索機能を備えたデータベースであるため、雑誌名だけでなく、出版社、所蔵館名等の一部分でも検索することが可能となった。目録には改題情報を含めた各タイトルの書誌情報の他、永年保存館(所蔵状況)、短期保存館(保存期間)が掲載されている。

ただしこのWeb版総合目録は、新聞については所蔵タイトルすべてを対象としているが、雑誌については原則として購入資料でかつ現在も継続して受入れている資料のみを対象としている。また、神奈川資料として収集・整理している雑誌は原則対象外となっている。目録の収録範囲の拡大は、今後に向けた課題である。

県内雑誌・新聞総合目録の経緯

年度	内容
1990年度	冊子体「神奈川県市町(村)図書館現行受入雑誌総合目録」発行。その後隔年で刊行。
2002年度	Web(HTML)版総合目録試行。冊子体最終版刊行。
2003年度	Web(HTML)版総合目録一般公開。参加館が「訂正票」により所蔵状況の変更を事務局に報告し、事務局にて情報を更新するシステムを採用。
2006年度	新システム(Wiki版)の検討を開始。2007年度、2008年度に試行実施。
2009年度	新システム(NetCommons版)の検討を開始。同年度試行実施。
2010年度	12月、NetCommons版へデータ移行。参加館による更新を開始。1月、当館のホームページにて一般公開開始。

神奈川県内公共図書館等における
雑誌の分担保存に関する申し合わせ

(目的)

第1条 この申し合わせは、神奈川県内の公共図書館等が相互に協力して雑誌の永年保存館を指定し、効率的な保存・活用を進めることにより、公共図書館等全体の雑誌提供能力を高めるとともに、書庫スペースの狭隘化を緩和し、もって図書館サービスの充実を図ることを目的とする。

(分担保存雑誌)

第2条 この申し合わせに参加する公共図書館等（以下「参加館」という。）の協議のもとに選定した「別表1」及び「別表2」に掲げる雑誌を、参加館が分担して永年保存するものとする。

(1) 従来3館以上の参加館が永年保存を行っている「別表1」に掲げる雑誌については、同表右端欄に掲げる図書館等各2館が永年保存する。

(2) 市町村立の図書館等において今後永年保存する計画のない「別表2」に掲げる雑誌については、各館の保存期間満了後神奈川県立図書館が引継を受け同館の資料として永年保存する。

(保存の責任)

第3条 永年保存館は、当該分担保存雑誌について責任を持って保存するとともに、可能な限り遡って収集するように努め、他の参加館にことわりなく処分してはならない。

(引継館の決定)

第4条 永年保存館において当該分担保存雑誌の保存が困難になったときは、直ちに事務局へ連絡し、直近の神奈川県逐次刊行物実務担当者会議等における引継館の選定を受け、当該引継館に引き継ぐものとする。

(欠号・汚破損等の補充)

第5条 参加館は、分担保存雑誌に選定されている資料を処分しようとするときは、必ず永年保存館に連絡して、欠号・汚破損等の補充に供さなければならない。

(分担保存雑誌の利用)

第6条 分担保存雑誌の利用は、当該永年保存館の利用規則等に従って行うものとする。

(連絡協議)

第7条 この申し合わせの有効適切な運用を図るため、参加館は、この申し合わせの実施に関して必要な事項について、神奈川県逐次刊行物実務担当者会議において年1回以上協議を行うものとする。

(事務局)

第8条 この申し合わせに基づく雑誌の分担保存に関する事務局を、神奈川県立図書館資料部情報整備課内に置く。

附 則

この申し合わせは、平成16年4月1日から発効する。

附 則

この申し合わせは、平成22年4月1日から発効する。

2014年度神奈川県逐次刊行物実務担当者会議における「別表1」および「別表2」の一部

別表1 (3館以上が重複して永年保存している116タイトルの雑誌について、各々2つの永年保存館を指定)				
注:「タイトル名」の最初に「●」があるタイトルは、永年保存館が1館のみ。 注:「永年保存館」の最初に「*」がある館は、永年保存館候補。				
項番	タイトル名	出版社	刊行頻度	永年保存館
1	AERA	朝日新聞社	週	逗子 [1988.5]+ 藤沢市総合 [1988.5]+
2	I/O	工学社	月	横浜市中央 11(6) [1986.6]+ 大和 2(10) [1977.10]+
3	●JTB時刻表	JTBパブリッシング	月	茅ヶ崎 [1970.9]+
4	MOE/月刊	別表2		
5	National geographical 日本版	(市町村立の図書館等において今後永年保存する計画のない雑誌について、各館の保存期間満了後神奈川県立図書館が引継ぎを受け同館の資料として永年保存する。)		
6	Newsweek 日本版	項番	タイトル名	所蔵館 (平成26年5月末現在)
7	Newton	1	Bowling magazine	川崎市川崎(1年)、横須賀市中央(3年)
8	SFマガジン	2	Classy	川崎市川崎(1年)、相模原(1年)、相模原市橋本(1年)、平塚市北(1年)、茅ヶ崎市香川(1年)、厚木市中央(3年)、伊勢原(3年)、海老名(5年)、綾瀬(1年)、松田(1年)、開成(1年)、湯河原(1年)、愛川(1年)
9	SPORTS GRAPHIC NUMBER	3	Driver	20(1)(222)[2002.1]-24(12)(282)[2006.12] 18(1)[2001.1]-29(12)[2012.12] 36(8)[1999.4.5]-49(15)[2012.12] *臨時増刊の欠号多数
				県立受入状況 (平成26年5月現在)

第5節 映像・音楽資料の収集

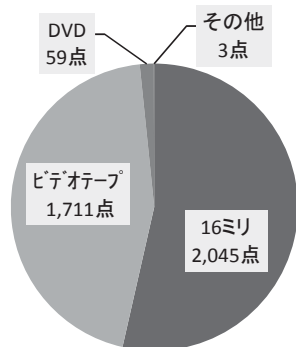
1 郷土映像資料の保存

1959年から始められた郷土映像資料の収集は、当初8ミリフィルムやスライドなどの自作資料を中心としていた。その後、1980年に郷土映像資料収集整備事業を始め、県内に散在する郷土映像資料を組織的・系統的に収集保存し、文化遺産の保護とその啓蒙に努めることとした。

ビデオテープが映像の記録媒体として普及すると、フィルムの劣化対策と利用の促進を目的として、県制作の映像資料を中心に、16ミリフィルムとビデオテープの両媒体で郷土映像資料を収集した。一部の郷土映像ビデオは個人貸出も行い利用の促進を図った。

1996年にデジタル・バーサタイル・ディスク（DVD）の発売が始まると、当館でも1998年度より購入を開始したが、郷土映像資料の中心は16ミリフィルムとビデオテープであった。しかし、1956年より続いた県制作のニュース映画「神奈川ニュース」の移管（県の広報課より）が、ニュース映画の制作終了に伴い2006年度をもって終了すると、以降新たな16ミリフィルムを受入れることはなくなった。

郷土映像資料媒体別所蔵点数(2013年度末)



16ミリフィルムとともに郷土映像資料の中心であったビデオテープについても、テープの劣化により視聴に支障のある資料もみられるようになってきた。そこで、資料の劣化を防ぎ貴重な郷土映像を確実に保存していくために、2014年度より郷土映像ビデオテープの貸出しを中止し、館内利用に限定することとした。また同年度の生涯学習サポートセンターの当館への集約化に伴って、複本も含めた郷土映像ビデオテープも集約化し、保存していくこととした。

映像資料については、資料自体の経年劣化と記録媒体の変化という2つの原因による再生不能のおそれを抱えている。郷土映像を未来に継承し、かつ利用しやすい環境を提供するための対応が検討課題となっている。

2 新たなコレクション

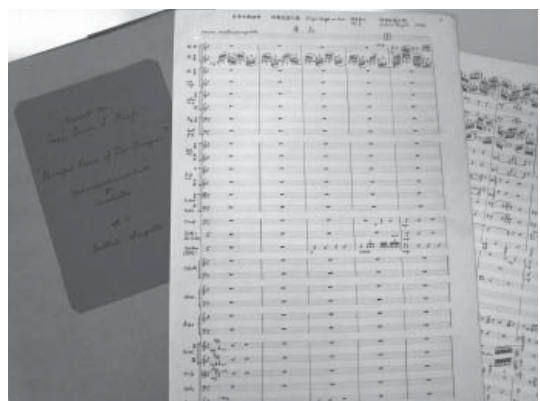
(1) 佐藤コレクション

横浜市内在住の実業家、佐藤隆司氏より寄贈されたLPレコード及びCDのコレクションである。2002年度より2010年度まで継続して寄贈され、LPレコード約2,350点、CD約1,400点のほか関連資料約40点からなる。内容はクラシック音楽で、特にワーグナー作品に重点が置かれ、国内盤・輸入盤を問わず編曲作品やオルゴール演奏まで幅広い資料が揃っている。佐藤氏の意向によりLPレコードとCDは館外貸出しを行っている。

(2) 須賀田礒太郎自筆楽譜

横浜生まれの作曲家である須賀田礒太郎氏（1907-1952）の自筆楽譜72点（複製含む）と書簡等の関連資料からなるコレクションで、2010年度にご遺族からの寄贈により創設された。須賀田氏は、戦前、国内の数々の作曲コンクールに入選し将来を嘱望されていたが、若くして他界した後、長く埋もれた存在となっていた。死後約50年を経て1999年に栃木県田沼町（現・佐野市）で多数の自筆楽譜が発見され、当館へ寄贈されることとなった。その作品は神奈川フィルハーモニー管弦楽団の演奏により甦り、CDも発売された。2011年度、コレクション創設を記念して本館展示室で「須賀田礒太郎3つの物語—作曲家と楽譜と音楽と」展を開催し、資料の紹介を行った。

須賀田礒太郎自筆楽譜



第6節 書庫スペースの確保と収蔵庫の変遷

開館後 50 年を経過した頃には所蔵資料の増大により書庫が狭隘化し、問題の解決が緊急の課題となった。館内では、2012 年に新館地下 2 階「消毒室」を「地下新聞書庫」として整備し、原紙製本した新聞の一部を収蔵することになった。また、狭隘化解消のため、複本等の所蔵資料を整理してスリム化を図ることと外部に収蔵庫を確保することが検討された。外部収蔵庫の変遷は「事業要覧（事業年報、事業概要）」の記載をもとに旧職員等にも尋ね、現時点でわかる範囲で表にまとめた。概ね県立の短期大学や高等学校等が閉校した後の施設を収蔵庫として確保し活用している。2003 年には新たな書庫スペー

スとして県生涯学習文化財課収蔵センター（元県立野庭高等学校）の一部を資料庫としたが、いずれも協力車による搬送が必要であった。

2004 年 4 月に申し合わせが施行され、県内市町村立図書館が短期保存（概ね 1～3 年）としている雑誌を当館が永年保存することになり、この資料庫に保管した。

2009 年には当館と道路をへだてて近距離にある元紅葉ヶ丘高等職業技術校を収蔵庫として確保したため、資料はすべてこちらへ移転した。収蔵庫内に書架を整備し、2014 年 6 月現在、雑誌 461 タイトル、図書 1,365 冊のほか視聴覚資料（レコード）を収蔵している。

外部収蔵庫の変遷(1986～2014 年度)

* 「使用時期等」：「事業要覧（事業年報、事業概要）」掲載年度を記載

収蔵庫名称等	旧名称、面積等	使用時期等	当時の住所	主な収蔵資料等
平塚資料庫	土地：敷地面積 641.97 m ² 建物：プレハブ造平屋建 延面積：184.52 m ²	1986 年度 ～1998 年度	平塚市代官町 20-15	川崎図書館旧蔵資料 (特許資料、複本等) 等
資料庫	元県立汲沢高等学校 (2003 年度豊田高等学校と統合 し現横浜桜陽高等学校) 使用面積：76 m ²	1999 年度 ～2002 年度	横浜市戸塚区 汲沢町 973	川崎図書館旧蔵資料、 旧自動車文庫等
資料庫	元県立野庭高等学校 校舎の一部を使用	2003 年度 ～2009 年度	横浜市港南区 野庭町 1660	市町村立図書館との 分担保存雑誌、旧自動車 文庫等
資料庫	元栄養短期大学図書館 図書館 1・2 階、中 2 階部分を使 用 使用面積：561.12 m ²	2005 年度 ～2008 年度	横浜市保土ヶ 谷区桜ヶ丘 2-43-1	図書、16 ミリフィル ムの複本を保管し閉 庫までに市町村立図 書館、大学図書館、川 崎市市民ミュージア ム等へ譲渡
収蔵庫	元紅葉ヶ丘高等職業技術校	2009 年度～	横浜市西区 紅葉ヶ丘 44	雑誌(分担保存雑誌を 含む)、図書、視聴覚 資料(レコード)

第3章 蔵書をアピールするー最近 10 年②ー

第1節 見せる＝魅せる工夫

1 図書館大公開

2004 年度に書庫見学と蔵書コレクション等を紹介するために、図書館見学ツアーを開催した。以来、県民が普段見ることのできない書庫内見学を行うとともに、受入・整理等の図書館独自の業務を公開することにより、図書館資料や図書館業務への理解と関心を深め利用の拡大につなげる事をめざして、毎年行っている。

近年は館内見学だけでなく、毎回異なるテーマ（貴重資料、連携・協力、受入・整理等）を設定し、見学と組み合わせることで多様な県民の興味に応えている。

図書館大公開の実施状況

年度	年間回数	内容
2004	8回	「図書館見学ツアー」
2005	5回	「図書館再発見」
2006	12回	「図書館探検」 毎月第3木曜日
2007	12回	「図書館探検」 毎月第3木曜日
2008	6回	「図書館探検ツアー<案内見学会>」 夏休みの子ども向けも含む
2009	3回	「図書館大公開」 夏休みの子ども向けも含む
2010	4回	「図書館大公開」
2011	4回	「図書館大公開」
2012	6回	「図書館大公開」
2013	5回	「図書館大公開」

2 神奈川デジタルアーカイブ

当館所蔵浮世絵のデジタルデータ化が 2005 年に試行され、同年「かながわデジタルアーカイブの整備」を重点事業に位置付けた。

デジタルアーカイブは単に画像の提供にとどまらず、全体の構成や個々の作品解説があって初めて完成する。そのための調査や考証に十分な労力と時間をかけ、完成度の高いコンテンツ作成を目指した。

2005 年度には「横浜絵・開化絵の世界」と題し 82 点を掲載し、以後コンテンツ数、掲載画像ともに増やしていった。

2012 年 3 月 1 日からは、県立公文書館と共同で「神奈川デジタルアーカイブ」を当館ホームページ上で運営開始した。「神奈川デジタルアーカイブ」は「神奈川県立図書館コンテンツ」と「神奈川県立公文書館コンテンツ」に分かれており、開始時点で「神奈川県立図書館コンテンツ」には「横浜絵・開化絵の世界」をはじめ 6 コンテンツを掲載した。

2014 年 8 月現在では当館発行物のデジタル版を含め 10 コンテンツを集録している。

デジタルアーカイブは OPAC では十分に伝えられない、原資料の鮮明な映像を提供することで、当館所蔵資料の多彩さや魅力を広く一般に PR することを目的としている。2013 年度には、「神奈川県立図書館コンテンツ」から出版物やテレビ番組などの資料掲載依頼が 21 件、点数にしてのべ 51 点の資料に対して寄せられている。

2014 年度には著作権の保護期間が満了したコンテンツを活用した絵葉書やブックカバーなどのグッズ類を作成し、「SPECIAL CONTENTS」の名称でホームページに公開、ダウンロード利用できるようにした。

3 展示

公開資料の配置は、同じテーマの資料は同じ場所に、近いテーマの資料は近い場所に配架するよう、分類番号やクラスタにより各閲覧室で工夫しており、来館者が自分の持つ問題・テーマにあった資料を見つけやすいようにしている。

利用者がもともと持っている要求（需要）に応えるだけでなく、新たな興味・関心（新規需要）を掘り起こすために近年力を入れているのが展示である。

資料をあるテーマで切り出し、展示することは当館開館直後から行われていたことであるが、現在は本館展示コーナーに加え、各閲覧室で工夫を凝らしたテーマ設定で蔵書の展示が行われており、司書による解説と合わせて、利用者の新たな興味・関心を引出している。

展示には書架や机、ブックトラックと呼ばれる書籍運搬用の台なども使われるが、特に貴重な資料や壊れやすい資料、個人や他の機関からの借用物などは安全に配慮して、施錠できる展示ケースに入れて展示される。

展示ケースの写真



4 トピックスコーナー

トピックスコーナーは、利用者の目につきにくい資料を時宜に即して紹介していくことを目的として、2006年4月より本館1階閲覧室に設置された。原則毎月第2木曜休館日に展示内容を入れ替える。

トピックスコーナーでは、国内外のニュースや時節に適したテーマを設定し、関連する所蔵資料を紹介している。「トピックスのとびら」等の刊行物や、県民公開講座と連動させたテーマを扱うこともある。

2007年からは年間計画に基づき実施しており、状況に応じてテーマを変更している。

2011年度からは①タイムリーなテーマで頻繁に行うトピックス（短期トピックス）、②従前の月ごとのトピックス（長期トピックス）、の2本立てに変更した。また、2011年には『神奈川新聞』の紙面コピーの使用が許可された。（館内での掲示のみ。）

5 ミニ展示（かながわ資料室）

本棚の中に埋没しがちな資料を紹介し、来館者に「こんな資料もあるのか」と関心を持ってもらうとともに、新たなテーマに興味を抱いてもらえるようテーマ設定を工夫しながら、かながわ資料室の一角を使い、覗きケース数台程度の展示を行っている。

※「神奈川資料の配置と工夫」の項（P.19）参照。

6 ホームページからの発信

(1) 「司書の出番！」

「司書の出番！」は、図書館と職員をもっと身近に感じてもらうと、2010年10月に開始したブログ風コンテンツであり、川崎図書館と共同で作成している。コメ

ント・トラックバック機能は無いものの、それ以外の部分はブログの体裁をとっている。記事には「私のオススメ本」「図書館のしごと」「図書館できごとファイル」「司書の生活と意見」の4つのカテゴリがあり、職員の推薦本や仕事の内容、図書館での出来事などを随時紹介している。

(2) 「クリッピング！」

「クリッピング！」は2013年3月に開始した。川崎図書館と共同で運営しており、ミニブログサービス Twitter と、それと連動した画像投稿サービス Twitpic を活用している。画像＋文章を随時ホームページ上に掲載すると共に、当館アカウントのフォロワー（読者）に配信するというコンテンツである。

Twitter のリツイート機能で読者が再配信することにより、今まで当館に縁がなかった人にまで届く可能性がある広報媒体であると同時に、ホームページ上にビジュアルなコンテンツを随時掲載することができるという広報媒体でもある。

現在、週に最低3回以上の投稿（更新）を行っている。

第2節 配架の工夫とコーナーの新設

1 法律情報コーナー

「県立図書館（紅葉ヶ丘・川崎）リニューアル計画」（1996年9月策定）に基づいた、ソフト機能面の整備の一つとして、1997年4月に、「法令・判例コーナー」を本館1階調査相談室に設置した。NDCに関わらず特定のテーマの下に資料を一箇所に集めて配置するという「クラスタ配置」を採用した。法律関係の資料類2,891冊、書架42連でのスタートで、CD-ROM「判例体系」利用のためのPCを1台設置している。

2006年4月には貸出可能な図書を併せて配置し、名称も「法律情報コーナー」として、リニューアルした。

2014年現在は、法規類、個別法令集、官報、国会会議録、事典、用語集、書式、判例集、一般法律書（NDC320）等が配架されており、判例検索のためには外部データベース（D1-Law.com）も利用できる。

2 ビジネス情報コーナー

当館は経済活動の中心地域に立地する図書館として、

ビジネス関連の資料の収集、利用促進に取り組んできた。

2000年2月から調査相談室にビジネス・経済統計コーナーを開設し、ビジネス情報の基礎資料として重要な、国の指定統計、届出・承認統計、民間統計、都道府県統計、外国統計等を集約した。

2006年4月には「ビジネス情報コーナー」を本館1階閲覧室に新設した。企業情報、業界の動向、経営指標・財務指標、統計、貿易、業務規則・規程・書式、辞典類など様々なビジネス関連の参考図書と一般図書を一体化して提供を始めた。また同時に「創業経営室」を新設し、中小企業診断士による「ビジネス相談」も開始している。中小企業庁等のパンフレットも常備して提供している。資料収集においても留意しており、2011年度・2012年度にはビジネス支援図書館推進費により、ビジネス関係の資料（高額な資料を含む）を整備した。

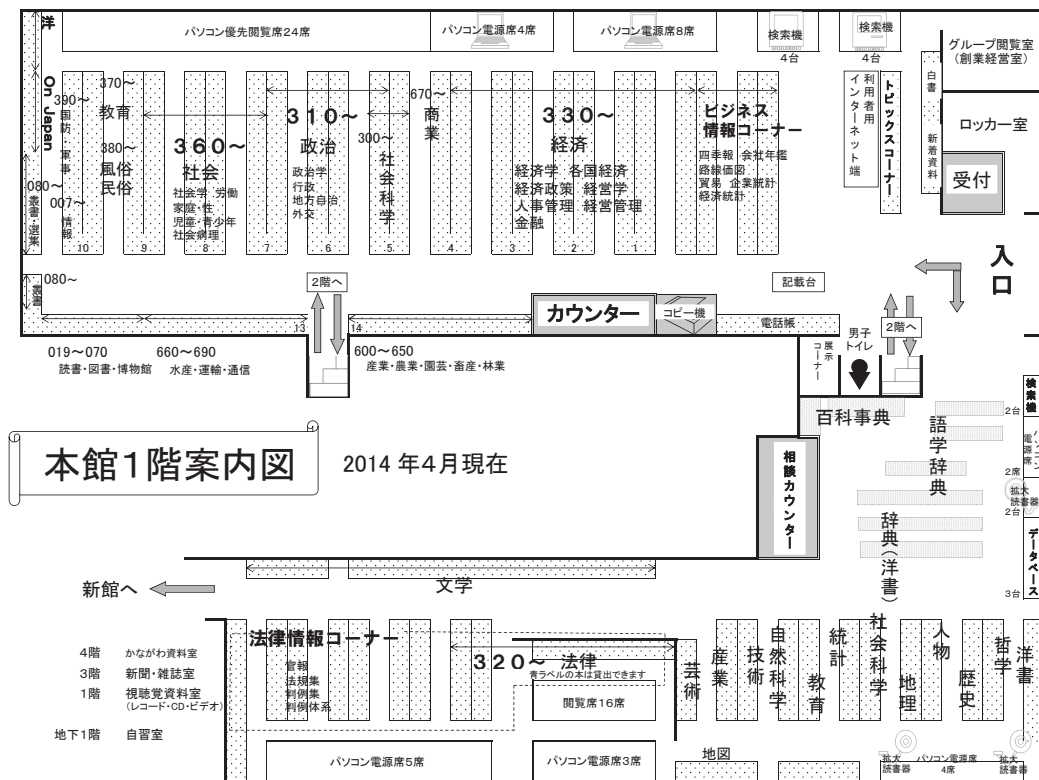
3 地方史コーナー

開館に先立ち、1954年9月に神奈川県立図書館開設準備事務局が作成した「神奈川県立図書館・基本方針及収書基準」には、集書に留意するものとして地方行政資料（全国並びに本県の地方行政資料を広く収集する）があげられている。この基準に従い、開館以来各都道府県及び市町村史誌の収集が地道に続けられてきた。

地方史コーナーに配架されている都道府県史

北海道史	青森県史	岩手県史
宮城県史	秋田県史	山形県史
福島県史	茨城県史	茨城県史料
栃木県史	群馬県史	新編埼玉県史
千葉県史料	千葉県の歴史	東京市史稿
東京百年史	神奈川県史	神奈川県史料
新潟県史	富山県史	石川県史
石川県史料	福井県史	山梨県史
長野県史	岐阜県史	静岡県史料
静岡県史	愛知県史	三重県史
滋賀県史	京都の歴史	史料京都の歴史
大阪編年史	大阪府史	兵庫県史
奈良県史	和歌山県史	鳥取県史
岡山県史	広島県史	山口県史
徳島県史	香川県史	愛媛県史
高知県史	福岡県史	佐賀県史料集成
佐賀県近世史料	長崎県史	熊本県史料
熊本県史	大分県史料	大分県史
宮崎県史料	宮崎県史	鹿児島県史
鹿児島県史料	沖縄県史	沖縄県史料

しかし書庫に配架されてきたため、その存在が広く一般に周知されているとは言えない状況であった。利用の拡大をめざし、2006年4月本館2階理工学室に、都道府



県史を中心とした60タイトルから成る「地方史コーナー」を開設した。従来は貸出不可であったこれらの資料を、一部を除き貸出可能とした。

地方史コーナーに配架されている都道府県史は前ページの表のとおりである。

4 調査報告書コーナーほか

2006年4月にはトピックスコーナー、ビジネス情報コーナー、地方史コーナーの開設、法律情報コーナーのリニューアルと、以下の作業を行った。

- ・調査報告書コーナーを新着図書、白書コーナーの隣に新設した。
- ・電話帳室(旧喫煙室)を「グループ閲覧室(創業経営室)」とし、定期的に中小企業診断士による「ビジネス相談」(予約制)を開始。ビジネス相談に使用しない時は、グループでの研究用に提供している。電話帳は貸出カウンター隣(入口からみて奥の方向)に移動した。
- ・複写機を調査相談室から貸出カウンター入口側へ移動した。

なお、2014年現在、調査報告書コーナーは廃止し、電話帳は複写機隣に置かれている。

5 国際資料室

国際資料室は、1993年10月に県民の外国語資料への要求や外国籍県民への情報提供を目的として開室した。諸外国の情報を収集・整備し、県民の生涯学習や国際理解を支援するとともに、県内在住外国人に対しては、日本理解のための案内役となった。

国際資料室には以下のような資料が配置された。

- ①On Japan 資料：日本文学の外国語訳を中心に外国語で日本を紹介している図書。
- ②外国語参考資料：ACC 文庫の参考図書を含む外国語の辞書・事典・統計書・年鑑などの基本的な参考図書類。
- ③一般外国語資料：日本語に翻訳されている小説や名著を中心とした外国語資料。
- ④外国語雑誌・新聞：外国語の代表的な雑誌や新聞などの逐次刊行物。
- ⑤メリーランド文庫：1981年4月に米国メリーランド州と神奈川県との友好提携が機縁となって州立大学図書

館と当館の間で開始された資料交換により収集された資料群。

- ⑥外国人向パンフレット：外国人向けに発行されている公報類や、民間ボランティア団体が発行している生活情報などのパンフレット類。

- ⑦国際機関・大使館資料：開室当初から収集していたが、1999年に国際機関や各国在日大使館等に再度依頼して収集したその機関や国を紹介する図書、パンフレット、地図類。

なお、メリーランド文庫は国際機関・大使館資料の充実により2001年に国際資料室から書庫内へと移動した。

国際資料室は2010年3月をもって閉室した。外国語資料と日本語資料という区分を見直し、特にレファレンスツールとしての外国語資料を本館調査相談室に集中するという観点からの発展的解消であった。

3月中に配架コードの変更などの準備作業を開始し、4月の資料総点検期間中、点検作業後のわずか数日間という短期間に書架と資料の移動・再配置を一気に行った。

以後、On Japan 資料を含む外国語の参考資料は調査相談室、参考図書以外のOn Japan 資料と一般外国語資料は本館閲覧室、外国語雑誌・新聞は新聞雑誌室に配置されることとなった。

6 神奈川資料の配置と工夫

地域資料という特殊な資料群を分類整理するため、当館ではNDCによらない独自分類表「KDC」を作って、地域分類等を考慮しながら分類整理している。

かながわ資料室では、単に請求記号順に配架するのではなく、最も需要の多い歴史、人物、地誌資料を入り口近くに配置し、利用をやすくしている。更に、地味な装丁ゆえ棚に埋没しがちな地域資料の内容をアピールするため、展示ケースに入れて展示するミニ展示や、展示ケースの中ではなく気軽に手に取ることができる特集コーナーを2012年から開始し、随時、テーマを設定してそれに沿った資料を集め、来館者の目にとまるよう工夫している。

7 視聴覚資料室のレイアウト変更

1999年4月に新館1階の視聴覚センター内にあった視

聴覚部事務室を2階に移動し、以後は視聴覚センターのすべてを視聴覚閲覧室として使用した。

2005年4月に、新館1階入口付近にあった学習室を地下1階に縮小移転し、旧学習室に視聴覚センターから、CD、ビデオ、レコード、DVD等の資料を移転した。更に、視聴覚資料以外の公開書架にある資料のうち、音楽関係の図書・雑誌を移動し、書庫内資料を含めて拡大公開を行った。2014年4月8日からは、新館1階の視聴覚資料室内に「生涯学習サポートコーナー」が開設されたことに伴ってスペースを縮小し、視聴覚資料のみの取り扱いとした。

8 受賞作コーナーと本館2階閲覧室のレイアウト変更

当館では小説、エッセイ等は、芥川賞、直木賞を始めとする各種文学賞受賞作を中心に収集、提供してきた。

2014年にこの二つの文学賞が150回目を迎えたことを契機として、受賞作品を更によく知り、親しんでもらうことを願って2014年4月受賞作コーナーを新設した。設置場所は本館2階閲覧室であり、芥川賞・直木賞・乱歩賞・川端賞の受賞作からスタートした。受賞作コーナーの開設に伴い、以下の作業を行った。

- ・新館1階視聴覚資料室で使用していた書架（「生涯学習サポートコーナー」の設置に伴い撤去）を本館2階閲覧室へ移設。

- ・6人掛けの閲覧机を数台撤去。
- ・3段の低書架を芸術コーナーに移動。
- ・視聴覚資料室で公開していた音楽関係図書を本館2階閲覧室と本館4層書庫に移動。

9 館内サイン計画

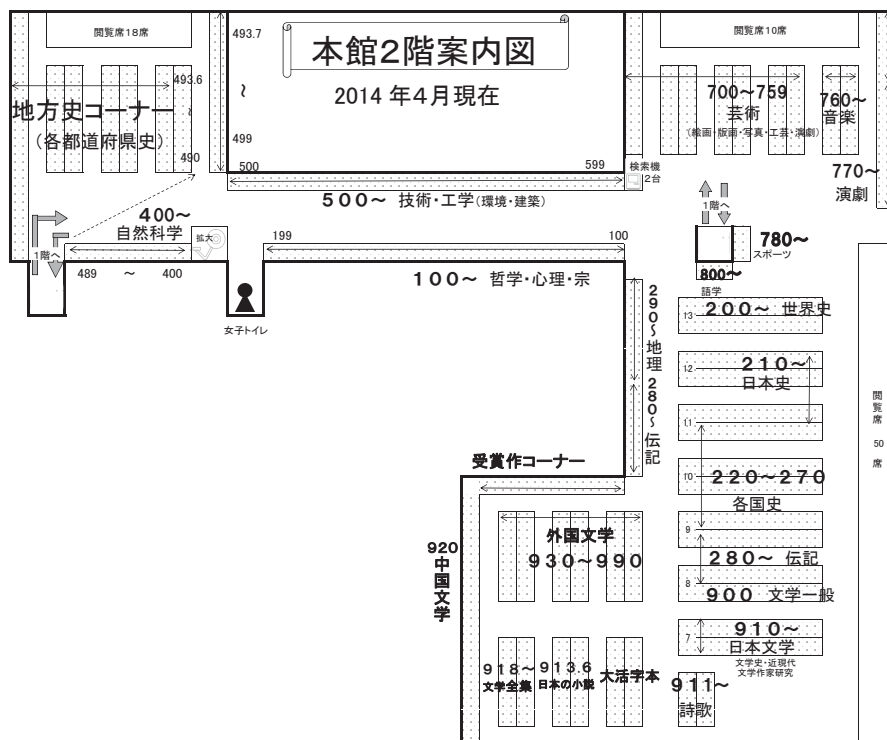
図書館のどこに何があるかを案内する館内表示を館内サインというが、来館者に判り易い表示を心がけ、各担当が工夫を凝らした表示を作成している。また、閲覧室を含む館内各所の、天井から吊り下げる方式の横長の案内表示は白地に紺色の文字とし、統一感を図っている。

第3節 蔵書を活かす

1 課題解決型リサーチ・ライブラリーのレファレンス

(1) レファレンス・サービスの状況

開館当初から当館が力を注いできたレファレンス・サービスであるが、近年はインターネットの普及などにより、利用が減少している。レファレンス受付件数は、1998年の31,960件をピークに減少傾向にあり、2013年度には10,860件となっている。それまで多く寄せられていた所蔵資料の確認などがインターネット上OPACにより簡単にできるようになったことなどが、減少の原因と考えられる。蔵書を有効に生かすためにも、レファレンス・サービスの強化及びPRが望まれる。



(2) レファレンス協同データベースの活用

レファレンス協同データベースは、国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している、調べ物のためのデータベースである。2002年から2004年までの実験期間を経て、2005年4月1日より正式に開始された。当館は主旨に賛同して2003年に参加した。

レファレンス事例・調べ方マニュアル・特別コレクション・参加館プロフィールの4種類のデータが登録されている。当館のホームページ上にある「レファレンス事例」(「メールレファレンス」内)では神奈川県立の2館(当館、川崎図書館)が登録している事例を検索することができる。当館の事例は他の図書館が参照する件数(被参照件数)が多いため、2011年2月と2014年1月に国立国会図書館長から礼状が送付された。

全国の様々な館種の図書館に実際に寄せられたレファレンス事例であるため、内容も多様であり、レファレンス・サービスの際に参照することは多い。また当館の事例を入力することは、自らの調査を客観的に振り返ることになり、レファレンス技能の向上にもつながっている。

(3) 外部データベースの利用促進

当館は社会・人文系を中心とした課題解決型リサーチ・ライブラリーとして、様々なレファレンスに対応している。調査のためのツールとしては、紙媒体の資料だけでなく、各種データベースが近年欠かせないものとな

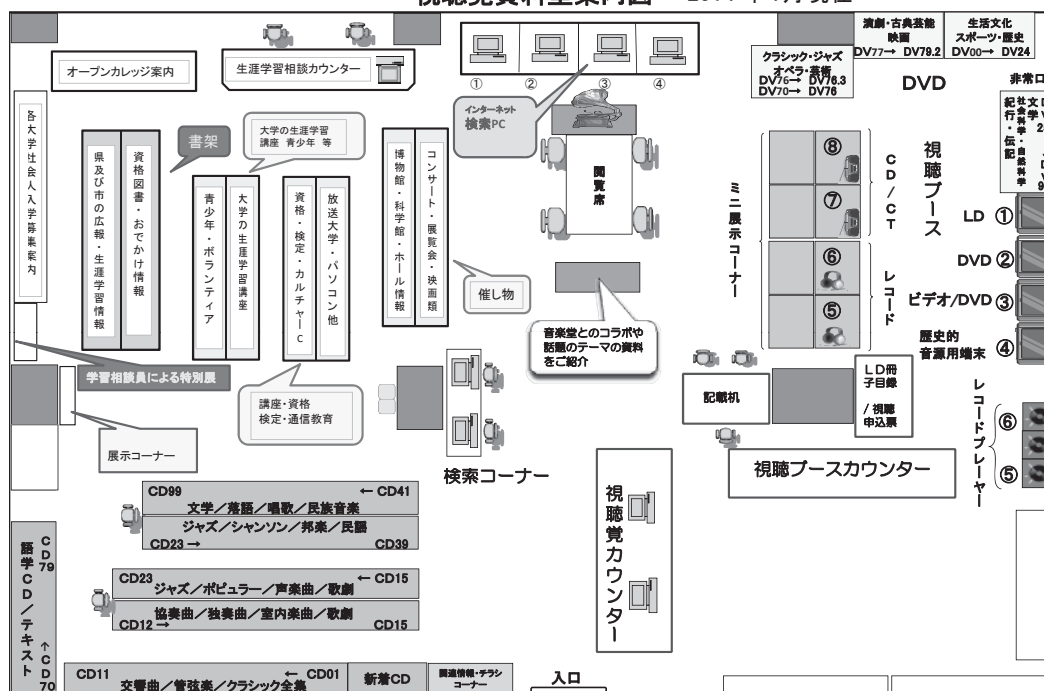
っている。

当館では1990年の図書館業務の電算化実施と同時に外部データベースの利用を開始した。2000年にモデムを使ったパソコン通信方式からインターネット経由の接続方式に変更した。

利用開始時には国立国会図書館提供の「NOREN (National Diet Library Online Information Retrieval Network System)」、日本経済新聞社提供の「日経ニューステレコン」など6つのデータベースを利用していた。当初は職員が業務用にのみ使用していたが、2003年度には「Digital News Archives for Library (朝日新聞記事)」を利用者用インターネット端末で使用可能にした。以後、2008年度には「聞蔵」(朝日新聞社)「日経テレコン21」(日本経済新聞社)、2010年度にはこの2つに加えて「ヨミダス歴史館」(読売新聞社)「D1-Law.com」(第一法規)を利用者用に提供した。2011年には更に「官報情報検索サービス」(国立印刷局)「LexisNexis JP」(レクシスネクシス・ジャパン)を利用に供した。

外部データベースはレファレンス・サービスに不可欠なツールとして利用者にも認知されてきたため、予算削減の中でも維持するよう努力してきたが、2014年度「Lexis AS ONE」(旧「LexisNexis JP」)、「日外Web」(業務用)、「聞蔵」の利用を中止した。

視聴覚資料室案内図 2014年4月現在



2 資料を活かすための情報提供

(1) 『かながわ資料室ニュースレター』

『かながわ資料室ニュースレター』は、『郷土資料の森』第1号（2000年7月）～第39号（2007年5月）に代わり、2007年8月に創刊された。

神奈川資料の利用促進やサービスの周知、所蔵資料の紹介を目的とし、隔月で発行している。

(2) 『ビジネス関係資料ガイド』

当館ではビジネスの世界で活躍されている方々を支援するため、会社経営に関する資料、法律等の関連資料、経営に役立つ情報、商品を開発・企画する際に役立つ調査報告書などの多様な資料を取揃えている。こうした多様な資料を利用者に広く紹介し、活用してもらう目的で、隔月で発行している。

(3) 『トピックスのとびら』

県民が時事トピックスをより深く、より広く調べるための手がかりとして、当館の所蔵資料（図書、雑誌、新聞、視聴覚資料、神奈川資料）やインターネット情報を横断的に活用できる簡単な抄録付きの文献リストを作成し、速報的に提供している。ホームページ及び紙媒体で、月1回程度発行している。

(4) 『社史と伝記にみる日本の実業家』

当館と川崎図書館の共同企画により、日本の代表的な実業家を列伝風に紹介し、各人物に関する文献目録を添えたオリジナルな著作である。編集と執筆は両館の司書が担当し、2012年3月に刊行した。

(5) 『Mゾーン』

『Mゾーン』とは県立音楽堂の主催イベントと連携して、関連する音楽資料、図書資料の紹介を行うための情報紙である。紙面に「Mゾーンの“M”は、紅葉ヶ丘のM、音楽のM…」の説明がある。

2012年8月18日の音楽堂の催し「マエストロ聖響の夏休みオーケストラ！」実施の際に、関連するCDや本など資料をリストアップして案内したのが第1号である。部数は音楽堂の観客数により増減する。300部から1,000部を刊行している。

『Mゾーン』の内容

号数	刊行年月	内容
1	2012年8月	マエストロ聖響の夏休みオーケストラ！
2	2012年10月	「聲明」にもっと親しむ
3	2012年12月	「メサイア」にもっと親しむ
特別号	2012年12月	音楽堂再発見！！音楽堂建築見学会 vol.3 藤森照信 vs 石田潤一郎
4	2013年1月	中国の音の世界にもっと親しむ
5	2013年2月	音楽堂建築見学会 vol.4 内藤廣 × 仲道郁代
6	2013年5月	クラシックな休日を♪in 音楽堂 藤岡幸夫指揮・東京フィルハーモニー交響楽団 スペシャル・コンサート
7	2013年8月	マエストロ聖響の夏休みオーケストラ！
8	2013年10月	「雅楽」にもっと親しむ
9	2013年12月	音楽堂建築見学会 vol.5 藤森照信×松隈洋×吉野直子
10	2014年1月	カナガワ リ・古典 プロジェクト
11	2014年2月	音楽堂建築見学会 vol.6 青木淳×松隈洋×西山まりえ

3 非来館型サービス

当館では、様々な理由により開館時間等の制約から図書館を利用しにくい方を対象としたサービスの提供に取り組んできた。

2005年のKL-NET第3次システムの稼働を機に、自宅からのOPAC予約が可能となった。

従来から行っている郵送による複写サービスに加え、2011年3月から以下の2つのサービスを開始した。

- ・郵送による図書館カードの登録（郵送登録）
- ・インターネット予約した資料の自宅受取（県立の図書館の図書館カードを持つ県内在住者のみが対象の宅配貸出サービス）

いずれもホームページで詳細を案内し、申込用紙等もダウンロードできるようになっている。

非来館型の利用は増加傾向にあり、郵送登録後、宅配貸出申し込みという流れでの利用が目立つ。今後も需要が見込まれる。

宅配貸出と郵送登録の実績

年度	宅配貸出		郵送登録（人）
	件数（件）	冊数（冊）	
2011	77	144	54
2012	128	255	55
2013	159	453	57

4 県職員の利用促進を図る取組み

当館では、1995年より「神奈川県立図書館庁内各機関への資料貸出複写等事務取扱要領」を定め、神奈川県庁内各部署、出先機関等への県の行政を支援する為、資料の貸出サービス等を行ってきた。法務文書課との折衝の結果、2004年からは貸出返却に逡送便を利用することが可能となった。

2008年には要領から「神奈川県立図書館行政支援サービス実施要綱」に改め、サービス内容も①資料貸出、②文献複写、③調査相談（レファレンス）、④その他行政支援サービスとして必要と判断されるサービス、の4種に拡充し、行政支援体制を強化した。

2012年にはサービスの利便性を図るため、県職員向けの専用ホームページを全面リニューアルした。それまでは各種サービスについて「問合せ後、申込み書式を利用部署に送り、記入後返送」という受付手順であったが、このリニューアルにより「県職員向けの専用ホームページで利用法を確認し、申込み書式をダウンロードして記入の上、当館へ送信」と簡略化された。

また、サービスの周知を図るため、2003年から2012年にかけては、断続的にはあるが、県の新採用職員研修に出向き、当館のサービスについて広報を行った。

5 国立国会図書館配信「歴史的音源」の視聴提供

「歴史的音源」とは、1900年初頭～1950年頃に国内で製造されたSP盤及び金属原盤等に収録された音楽・演説等約5万のデジタル化音源を指す。

従来国立国会図書館では、著作権・著作隣接権保護期間を満了したものについてはインターネット公開し、それ以外の音源は、館内限定の利用となっていた。

しかしこれらの歴史的、文化的に非常に貴重な音源を広く利用に供するため、2012年1月から「公立図書館へ

の歴史的音源の配信試行提供」を開始した。

当館はこれに参加し、同年1月17日から、視聴覚資料室の視聴ブースで、それまで国立国会図書館内のみで利用可能であった音源を提供できるようになった。7月からは試行ではなく、公立図書館への配信提供に移行した。

音源には、落語、長唄、管弦楽、歌劇、清元、浪花節、歌謡曲、講演、ジャズなど多様な内容が含まれている。

6 国立国会図書館デジタル化資料送信サービス

2012年6月に成立した著作権法改正により、国立国会図書館は、入手困難な図書館資料を、保護期間が満了していなくてもインターネットを通じて図書館向けに送信することが可能になった。その結果、2014年1月21日から実施されたのが、国立国会図書館による「図書館向けデジタル化資料送信サービス」である。これにより、国立国会図書館から承認を受けた参加館は、100万点以上にも及ぶ図書・雑誌などを、閲覧・複写によって利用者に提供できることとなった。当館は、サービス開始前の2013年から事前説明会に参加するなど情報収集に努め、国立国会図書館サービス開始（2014年1月21日）から間もない2014年2月14日より、このサービスを用いた利用者への資料提供を開始した。ただし、複写はA4サイズ白黒に限定している。

7 16ミリ映写機操作技術認定講習会の実施

16ミリ映写機操作技術認定講習会は、開館初年度の1954年度（1955年2月）から実施しており、履修者には当館館長が「16ミリ映写機操作技術認定証」を発行している。講習会は、視聴覚媒体がフィルムからビデオ、DVD、ブルーレイディスクと変化する中、現在も続けられている。第1回講習会は横浜国立大学学芸学部を会場に実施され、52名が修了している。初年度はこれを含めて3ヶ所で合計3回行われ、翌1955年度は10カ所で10回行われた。当館がはじめて会場に使用されたのは1957年3月4日から5日の2日間であった。かつては県内の多くの図書館で実施されていたが、次第に実施する館が減少し、逆にその分、当館に受講者が集まるという傾向にあった。そのため、受講受付窓口を電話受付1本にしぼり、先着順にしなければならぬほどの活況を呈していたが、こ

こ1、2年は申込者も減少に転じている。また、当初は2～3日間かけて行われた講習と試験も、現在では1日ですべて行うスケジュールになっている。

一方、使用機器（映写機）は製造が終了しており、部品の入手も困難になっている。講師は、16ミリ映写機関係の技師をしていた方たちをお願いしており、修理などにもご協力いただいている。しかし、機器や講師を今後も継続的に確保し、講習会を実施し続けられるかは不確定である。

8 障害者サービス

1981年の国際障害者年を契機に、障害者サービスへの本格的な取り組みが始まり、館内諸設備の整備が図られた。「障害者サービス検討委員会」の報告、「県立図書館業務検討委員会」障害者サービス検討プロジェクトチームでの検討、実施計画の策定を受け、1984年4月1日の機構改革時に、新規事業として障害者サービスを実施することになった。

「図書館利用に障害のある人のため、県内公共図書館及び関係機関と連携し、県立図書館としての障害者サービスをすすめていく」と「障害者サービス要綱」に定め、業務内容を対面朗読、郵送貸出、大活字本の収集、提供、レファレンス・サービスなどとした。

2006年4月に2階にあった「対面朗読室」を1階へ移し、バリアフリーが図られた。現在も障害を持つ県民・利用者への情報提供サービスとして、無料郵送貸出サービス、対面朗読、各種案内・目録の作成、レファレンス・サービスなどを実施している。この他に、関係機関への録音図書作成のための原本の提供、録音図書作成のための読み方調べなど調査相談等も受付けている。

また、神奈川県視覚障害者情報提供施設連絡協議会に加盟し、点字図書館等と県内公共図書館との連携の促進を図るため、毎年、県内公共図書館障害者サービス実施状況調査を行い、担当者打合せ会を開催して、調査結果の報告、情報交換を行っている。

2009年9月より館内すべてのカウンターおよび受付に耳の不自由な方に向け、必要な援助を行う意思表示となる「耳マーク」を掲示している。

9 神奈川県子ども読書活動推進フォーラム

神奈川県では「かながわ読書のススメ～神奈川県子ども読書活動推進計画」(第1次)を策定した2004年以降、毎年フォーラムを開催し、啓発を図っている。

当初は、県教育委員会主催であったが、2012年度より当館主催となり、共催団体に神奈川県図書館協会が加わった。これにより、図書館職員の研修としても活用されるようになり、一般県民やボランティア・学校・社会教育施設の各関係者等々、多方面の方々が一同に参加するイベントとなっている。

子ども読書活動推進フォーラムの内容

年度	内 容
2012	<p>2012年10月27日(土)</p> <p>会場：かながわ県民センター 参加者数：200名</p> <p>○講演 「“かわいい”ってなに？ ～子どもと子どもの本を考える」 講師：清水真砂子氏（翻訳家、児童文学者）</p> <p>○事例発表 読み聞かせ 県立鎌倉高等学校図書委員会 ストーリーテリング 相のおはなし会 ストーリーテリング おはなしころりん</p>
2013	<p>2013年12月21日(土)</p> <p>会場：神奈川近代文学館 参加者数：171名</p> <p>○講演 「絵本はまだ子どもだけのものだと思いませんか？」 講師：末盛千枝子氏 (児童図書編集者、「3.11絵本プロジェクトいわて」代表)</p> <p>○事例発表 活動報告 モック・プロジェクト うたあそび よみきかせグループ「すずの会」 読み聞かせ おはなしばる～ん</p>

第4章 県内図書館のネットワーク拡大と人材育成 —最近10年③—

第1節 KL-NETの運営・更新

1 第3次(2005年)システムの開発・更新

「神奈川県図書館情報ネットワーク・システム」(以下「KL-NET」)は、当館、川崎図書館、県立金沢文庫の業務電算化により、1990年度に稼働を開始した。2000年3月に更新した第2次システムでは、第1次の汎用コンピュータからクライアント・サーバ型となり、インターネットでのサービスを開始した。

2005年4月に更新した第3次システムでは、更にインターネットでの資料予約、県内市町村立図書館OPAC横断検索と相互貸借管理システムを新たに開発した。

(1) 機器更新の内容

サーバ及びクライアントのOSは、WindowsNT 4.0 Server及び同WorkstationからWindows2003 Server及びWindows XPにバージョンアップをした。また、第2次システムまでは各拠点間、インターネットへの接続に専用回線を利用していたが、この時期に神奈川県教育委員会が教育施設向けに構築する広域イーサネット「教育委員会ネットワーク」を稼働したため、KL-NETでもこのネットワークを利用し、システムのセキュリティ向上や、省力化が図られることになった。

(2) 開発の内容

利用者がインターネット経由で所蔵資料を予約、県立2図書館の窓口で受取可能となった。また、2005年10月からは横浜駅西口のかながわ県民センター内「生涯学習情報センター」でも受取可能となった。

県内公共図書館等が公開しているOPACをまとめて検索し、どの図書館で所蔵しているか確認できる横断検索システムを開発した。OPAC未公開の自治体は、当館が所蔵データを預かり、横断検索に組込むことで、県内自治体全ての所蔵資料が横断検索可能となった。

第2次システムまで、県内図書館の相互貸借は、必要な資料を電子掲示板に書込み、該当資料の所蔵館からの提供を待つシステム「WANTED」を利用していた。第3次システムでは、横断検索によって資料を即座に確認し、申込みから返却まで全て物流管理ができる相互貸借管理システムを開発した。これによって、資料

提供の迅速化と物流の状態把握が可能となった。

2 第4次(2010年)システムの開発・更新

第3次システムの機器リース終了後、第4次システムでは県内高等学校図書館相互貸借管理システムを開発したほか、コンテンツマネジメントシステム(デジタルコンテンツを統合・体系的に管理し、配信など必要な処理を行うシステムの総称)を導入した。

(1) 機器更新の内容

サーバ及びクライアントのOSは、Windows2008 Server及びWindows 7にバージョンアップをした。

(2) 開発の内容

県立2図書館の所蔵資料の貸出しと、高等学校図書館の所蔵資料の相互貸借を行うため、第3次システムで開発した相互貸借管理システムと同様のシステムを導入し、県内高等学校図書館相互貸借管理システム(以下「高校相互貸借システム」)を開発した。所蔵館の確認は、横断検索ではなく、高等学校図書館が個別に作成した所蔵データを、当館のサーバに格納した総合目録の検索により行っている。

サブシステムではコンテンツマネジメントシステム(国立情報学研究所の「NetCommons」、オープンソースの「WordPress」)を導入し、情報発信機能を高めた。

2003年からWeb版の県内公共図書館購入継続雑誌・新聞総合目録を運用してきた。しかし、この総合目録は検索ができず、また、所蔵館の情報を当館が集約し掲載する必要があった。NetCommons版では、検索機能を持たせ、資料の所蔵館が直接、所蔵情報の登録、修正を行うことでデータ更新のタイムラグが減少した。

K文献や、かながわ資料室で所蔵する資料の検索、紙媒体発行の『かながわ資料室ニュースレター』掲載記事の発信など、神奈川に関して調べるための資料・情報の提供に特化したサイトを「NetCommons」により構築した。

KL-NET加盟館への情報誌として、紙媒体、メルマガと媒体を変更してきた『こあ』や、おすすめ本などを職員が執筆する「司書の出番!」を、「WordPress」によるブログ形式のコンテンツとして開設し、情報の発信頻度を高めた。

第2節 公共図書館、大学図書館、専門図書館とのネットワーク拡大

1 県内ネットワークの拡大

2005年4月に第3次KL-NETが稼働し、インターネットおよび携帯電話からの資料予約や県内市町村立図書館OPACの横断検索・市町村立図書館間の相互貸借が可能となった。

2006年3月に神奈川大学図書館、鶴見大学図書館と単館レベルの協定を締結し、同年4月から相互貸借を開始した。資料の搬送は、当館と神奈川大学・鶴見大学の間を週1便の搬送車で対応することとした。また、2006年度は市町村立図書館を巡回する協力車の車両が、積載量がより多い日産バネットに更新された。

2007年3月には、横浜国立大学附属図書館が当館と協定を結び、更に同年4月から県立以外の大学としては初めてKL-NET相互貸借管理システム(以下「相互貸借システム」)の参加館となった。これにより同大学が所蔵する専門的な図書が、県立の図書館だけでなく、県内公共図書館に対しても貸出可能となり、更に当該図書館の利用者への個人貸出が可能となった。これらの協定によって、公共図書館では所蔵していない専門図書等のリクエストに対し、大学図書館が所蔵する資料を提供できるようになり、当館利用者の学術情報ニーズに応える体制が強化された。

2007年度には、相模原市と津久井4町との合併に伴い、協力車巡回コースを9コースから7コースへと再編成した。併せて、当館と大学図書館(鶴見大学・神奈川大学・横浜国立大学)との協定を受けて大学コースを新設した。また、それまで協力車には常勤職員が乗車することを原則としていたが、職員の減員等の事情により、非常勤職員との交代乗務を開始した。2007年10月には、横浜市にある東京工業大学附属図書館すずかけ台分館が相互貸借システムの参加館となった。資料の搬送については、川崎図書館の連絡車が担当した。横浜国立大学と東京工業大学、2つの大学図書館の相互貸借システム参加によって広汎な資料提供ができるようになったことが利用につながり、2007年度の協力貸出の処理冊数は10万冊を超えた。

県内の相互貸借等の協力体制はゆるぎないものとな

り、2008年度の相互貸借貸出の処理冊数は11万3,000冊を数えるようになった。それに伴い、1回に搬送する物量が増加し、協力車の積載量への影響が懸念されるようになったため、2009年度より巡回コースの一部を変更した(2コースと6コース)。また、2009年4月から県内外の行政資料を収集・提供している県政情報センターが相互貸借システムに参加し、相互貸借資料群にさらなる厚みを加えることとなった。

この他、同年4月、県立の図書館の「図書館カード」を持っている利用者は、専修大学(川崎市多摩区)を利用できる協定も結んでいる。

協力貸出の物流量は、増加を続け、2010年度には貸出冊数が12万冊以上、宅配便が4,000個を超過するようになった。増大の一途をたどる相互貸借について改めて検討する時期であるとして、2011年度に市町村立図書館の委員で構成する「相互貸借検討会議」を設置し、1年間で計4回の会議を開催して検討した結果、2013年度から協力車を廃止し、借り上げ車による搬送(委託)に切り替えることなどが提示された(「県内公共図書館相互貸借検討会議報告 2012年2月」より)。

2011年度には、協力車のコース編成を見直し、1コースと5コースを入れ替え、1コースを小田原、真鶴、湯河原、箱根、5コースを横須賀、三浦、葉山、逗子とした。

川崎図書館の連絡車が2012年3月末をもって廃止され、2012年4月より川崎図書館が巡回していた施設への搬送は基本的に宅配便に切り替えられた。搬送量が比較的多い県立かながわ女性センター、県立保健福祉大学、東京工業大学については、当館の協力車巡回の4、5、7コースにそれぞれ加えることとした。

2012年10月に総合研究大学院大学(以下「総研大」)、2013年1月には桐蔭横浜大学(以下「桐蔭大」)が相次いで相互貸借システムに新規加入した。2大学への資料は協力車で搬送することとし、2012年度途中から総研大を5コースに、桐蔭大を7コースに組み入れた。

2013年4月には、協力車の搬送ルートの効率化を図り、1コースの巡回順序を変更、2コースと4コースの巡回館を一部入れ替えた。

協力車巡回コース編成表（2005～2014年度）

※（ ）は、県立の図書館と協定を結んでいる施設。

KL-NET 相互貸借管理システムには未加入

2005・2006年度

コース	巡回館	巡回週・曜日
1コース	横須賀－三浦－葉山－逗子	1火
2コース	藤沢－寒川－茅ヶ崎－鎌倉	2木
3コース	大和－綾瀬－座間－城山	2金
4コース	松田－南足柄－大磯－平塚	1木
5コース	秦野－伊勢原－厚木－清川	1金
6コース	小田原－真鶴－湯河原－箱根	1水
7コース	中井－大井－山北－開成	2火
8コース	相模原－津久井－藤野－相模湖	2水
9コース	二宮－愛川－海老名	1水
	県立川崎図書館連絡車	火・木

2007・2008年度

コース	巡回館	巡回週・曜日
1コース	横須賀－三浦－葉山－逗子	1火
2コース	鎌倉－藤沢－寒川－茅ヶ崎－平塚	1水
3コース	厚木－秦野－松田－開成－南足柄	1木
4コース	座間－海老名－綾瀬－大和	1金
5コース	小田原－真鶴－湯河原－箱根	2水
6コース	大磯－二宮－中井－大井－山北	2木
7コース	相模原－愛川－清川－伊勢原	2金
大学コース	県立川崎－（鶴見大）－（神大）－横国大－生涯C	火・金
	県立川崎図書館連絡車	水・木

2009・2010年度

コース	巡回館	巡回週・曜日
1コース	横須賀－三浦－葉山－逗子	1火
2コース	鎌倉－藤沢－寒川－茅ヶ崎－大磯	1水
3コース	厚木－秦野－松田－開成－南足柄	1木
4コース	座間－海老名－綾瀬－大和	1金
5コース	小田原－真鶴－湯河原－箱根	2水
6コース	平塚－二宮－中井－大井－山北	2木
7コース	相模原－愛川－清川－伊勢原	2金
大学コース	県立川崎－（鶴見大）－（神大）－横国大－生涯C 県政情報C	火・金
	県立川崎図書館連絡車	水・木

2011年度

コース	巡回館	巡回週・曜日
1コース	小田原－真鶴－湯河原－箱根	1火
2コース	鎌倉－藤沢－寒川－茅ヶ崎－大磯	1水
3コース	厚木－秦野－松田－開成－南足柄	1木
4コース	座間－海老名－綾瀬－大和	1金
5コース	横須賀－三浦－葉山－逗子	2水
6コース	平塚－二宮－中井－大井－山北	2木
7コース	相模原－愛川－清川－伊勢原	2金
大学コース	県立川崎－（鶴見大）－（神大）－横国大－生涯C 県政情報C	火・金
	県立川崎図書館連絡車	水・木

2012年度

コース	巡回館	巡回週・曜日
1コース	箱根－湯河原－真鶴－小田原	1火
2コース	鎌倉－藤沢－寒川－茅ヶ崎－大磯	1水
3コース	厚木－秦野－南足柄－開成－松田	1木
4コース	大和－座間－海老名－綾瀬－女性センター	1金
5コース	保福大－横須賀－三浦－総研大－葉山－逗子	2水
6コース	平塚－二宮－中井－大井－山北	2木
7コース	東工大－相模原－愛川－清川－伊勢原	2金
8コース	県立川崎－（鶴見大）－（神大）－横国大－生涯C 県政情報C	火・金・土
当日搬送便 （運送業者）	県図－県立川崎－生涯C－県図	水・木

※総研大（5コース）・桐蔭大（7コース）は年度途中から巡回

2013年度

コース	巡回館	巡回週・曜日
1コース	小田原－真鶴－湯河原－箱根	1火
2コース	鎌倉－女性センター－藤沢－茅ヶ崎－大磯	1水
3コース	厚木－秦野－南足柄－開成－松田	1木
4コース	大和－座間－海老名－綾瀬－寒川	1金
5コース	保福大－横須賀－三浦－総研大－葉山－逗子	2水
6コース	平塚－二宮－中井－山北－大井	2木
7コース	東工大－相模原－愛川－清川－伊勢原－桐蔭大	2金
8コース	県立川崎－（鶴見大）－（神大）－横国大－生涯C 県政情報C	火・金
当日搬送便 （運送業者）	県図－県立川崎－生涯C－県図	木・土

2014年度

コース	巡回館	巡回週・曜日
1コース	小田原－真鶴－湯河原－箱根	1火
2コース	鎌倉－女性センター－藤沢－茅ヶ崎－大磯	1水
3コース	厚木－秦野－南足柄－開成－松田	1木
4コース	大和－座間－海老名－綾瀬－寒川	1金
5コース	保福大－横須賀－三浦－総研大－葉山－逗子	2水
6コース	平塚－二宮－中井－山北－大井	2木
7コース	東工大－相模原－愛川－清川－伊勢原－桐蔭大	2金
8コース	県立川崎－（鶴見大）－（神大）－横国大－県民C 県政情報C	火・金
当日搬送便 （運送業者）	県図－県立川崎－県民C－県図 ※一部の土曜日は、県立図書館の公用車で運行	木・土

2011年度の「相互貸借検討会議」において、協力車巡回を2013年度から委託するという方向性が提示されていたが、県の緊急財政対策の取組みの中で、2012年度に設置された「県立の図書館の見直し検討会」等を経て、相互貸借システムの拡充などの広域的サービスについて検討するという県の方向性が打ち出されたことにより、2013年度以降も県内図書館協力事業については、従来通り協力車と宅配便での資料搬送を行っている。

このように、県立の図書館は、市町村立図書館協力事業や大学、専門図書館との連携等のネットワークを拡大させ、県域全体の図書館サービスを着実に向上させている。

2 情報誌『こあ』

『こあ』は、創刊（1984年4月）以来途切れることなく発行されているが、形態は様々な変遷をたどってきた。

2004年度にWeb版となり、県内公共図書館全職員への印刷配布（発行1,200部）が211号（2004年5月）をもって終了（ただし、保存のため各館2部配布を継続）した後も、号数を引き継ぎ、紙面スタイルを維持したPDF版が作成された。その後、246号（2010年3月）をもって印刷配布が終了、メルマガに移行し紙面レイアウトがなくなった。このため、創刊以来の発行号数は246号が最終となり、新たに「No.1」からの開始となった。またこの時、既にメールマガジンに移行していた「速報版」は、『こあ イベント知恵袋』に改称した。

更に2012年度、CMSによるWebサイトを立ち上げ、同時に掲載事務手続きも簡略化した。結果、随時の記事掲載が可能となり、号数を付与し一定頻度で発行する形から離れたフレキシブルなスタイルとなった。メルマガによる発行は『こあ イベント知恵袋』のみ毎月配信を継続している。

第3節 市町村立図書館との協働、職員研修

1 市町村図書館等職員研修事業

1984年より開始した市町村図書館等職員研修事業は、市町村立図書館を支援する協力事業の一環として、位置づけられた。

研修の種別としては、実務経験の少ない職員を対象とした「基礎研修」、図書館経験の豊富な中堅以上の職員を対象とした「専門研修」、市町村立図書館からの要望に沿って不定期に実施される「受入研修」の主に3つがあり、これらについては研修計画に基づいて実施してきた。しかし、市町村立図書館職員を取巻く環境が変わるにつれ、研修内容についても変化が生じている。

レファレンスや整理・受入作業といった図書館実務の他に、組織の経営にも目を向けた「図書館経営」部門が、2001年度より専門研修の中に設けられた。近年の傾向として、図書館の運営は必ずしも直営ではなく、

委託・指定管理者・NPO法人によるものが増えてきているが、このような環境が「図書館経営」が注目される一つの要因となっている。

2012年度からは「専門図書館職員研修」が新設されたが、この研修は、受講対象者を公共図書館職員に限らず、大学図書館や専門図書館の職員も対象とし、その資質向上を目指すものとなっている。

市町村図書館等職員研修実施状況一覧

内容 年度	基礎研修			専門研修		
	開催日数(日)	講義数	参加人数(人)	開催日数(日)	講義数	参加人数(人)
2003	4	8	142	5	15	81
2004	3	9	93	5	16	78
2005	3	8	87	4	16	61
2006	3	8	109	4	14	110
2007	3	9	80	4	13	100
2008	3	8	94	5	15	103
2009	3	7	89	5	14	87
2010	3	8	76	5	13	92
2011	3	9	82	4	10	91
2012	3	10	92	6	14	97
2013	3	8	92	3	8	63

研修開始当初と大きく変わった点としては、職員の多様な雇用形態が挙げられる。現在では、首長部局と図書館間の人事異動が増加し、司書資格を保有していない職員が大半を占めている図書館も少なくない。非常勤職員の増加や指定管理者制度の導入、委託業者・NPO法人による運営の検討が進み、今後ますます雇用形態が多様化することが予想される。そのため、近年では当研修事業においても、雇用形態や資格保有の有無に関係なく、受講を可としている。

図書館を取巻く環境がめまぐるしく変化する中で、当館としては従来通り、研修の講師を務め市町村立図書館職員の育成に寄与するとともに、今後は時代に即したニーズを見極めながら、研修を企画・立案していく必要がある。

2 職員交流など

市町村との職員交流は1978年度の湯河原町との交流に始まり、現在まで延べ13人にのぼっている。最近10年では、2005、2006年度に寒川町へ、2008年度に秦野市へ、それぞれ当館から職員が派遣された。

1990年代以降、図書館建設の準備を目的としたものは徐々に減少しているが、2004年に真鶴町が、2005年に逗子市が新図書館を開館する際には、当館から、新館準備のための委員会委員を出して助言するといった協力を行った。また、2006年に寒川総合図書館がオープンしたが、この開館準備のために当館から職員派遣を行っている。

愛川町においては、新たな図書館づくりに向けて立ち上げられた「愛川町図書館構想策定委員会」に、2013、2014年度、当館職員1名が委員として参加した。

以上のように、職員の人事交流という形ではなくとも、新図書館の開館、あるいは図書館を運営する上での課題解決のために検討組織の一員となっているケースはあり、市町村立図書館との協力が継続されている。

第4節 高等学校図書館への支援

1 「県立の図書館と県立高等学校による連携・協力モデル事業」から事業本格実施へ

2003年度に始まった「県立の図書館と県立高等学校による連携・協力モデル事業」は、2005年度にはモデル校を42校に拡大して継続した。事業3年目のこの年も図書資料等の貸出、レファレンス・サービス、研修等を実施し、事業の評価と問題点の検討を行った。

資料の予約方法は、2005年のKL-NET第3次システム稼働に伴い、市町村立図書館等の「OPAC予約」準用から一般利用者向けの「インターネット予約」システム準用へと変更された。搬送は、宅配便、県による逓送便の他、協力車・連絡車、郵送、市町村立図書館経由で行った。なお、モデル校以外の県立高校に対しては、それまでと同様に、個別の依頼による協力貸出を実施した。

2006年度には、事業が本格実施となり、114校が参加した。その後も参加校が毎年増加し、2008年度には県立高校全校参加となった。更にこの年から、私立高

校とのモデル事業として、横浜英和女学院中学高等学校への協力貸出も始まっている。

また、初年度から2年間、調査研究プロジェクトチームを設置し、モデル事業中に出た問題点の解決に向けて、ネットワークの全体構想について検討を行った。

2007年度からの3年間、総合目録（試行版）による学校間相互貸借を含む相互貸借実証実験を実施した。その後、高校相互貸借システムが2010年12月に完成、翌1月から運用を始めた。このシステムでは、総合目録による県立2図書館の資料の協力貸出および学校間相互貸借、掲示板やレファレンス、お知らせ等のページによる情報支援、NS-MARCの提供を行っている。なお、この事業により、当館は2011年度教育長表彰を受けた。

2 事業の現状と今後

2014年7月現在の事業参加校は、県立高校143校、県立中等教育学校2校である。このほか、県立特別支援学校2校、私立中高一貫校1校（試行校）に対して、インターネット予約による協力貸出を行っている。

県立の学校は原則として県による逓送便、逓送便対象外の学校は郵送等によって資料を搬送し、ほぼ毎年1,000冊を超える実績がある。

レファレンス・サービスや文献複写についても、電話やメール、高校相互貸借システムのレファレンス欄等で随時依頼があり、当館の資料等を活用した専門的な調査や情報提供などを行っている。調べもの学習支援の観点からも当館が更に支援を強化する必要があるだろう。

2007年度に8校での実証実験から始まった総合目録には、2014年7月現在、52校が約99万7,000件のデータを提供している。2011年1月から本格実施となった学校間相互貸借も年々利用が増え、2013年度は1,703冊の貸出しがあった。

モデル事業では年2回の実施であった研修事業については、事業本格実施後は、高校相互貸借システムの利用やレファレンス・サービスを中心とした内容で年間4、5回実施し、多くの参加を得ている。

2012年度からは、当館の重点事項に高校連携強化が

掲げられたのを契機として、神奈川県学校図書館員研究会（以下「研究会」との共催研修会（年1回）を開催している。また、2013年度の関東・甲信越静地区図書館地区別研修には高等学校図書館からも参加があった。

2013年度からは高校相互貸借システムの安定的な運用と総合目録のデータ登録への支援強化が重点事業に盛り込まれた。現在のデータ提供校は事業参加校の3分の1程度であるが、2012年度に図書館管理システム LibMax が全県立高校に導入されたことにより提供校のさらなる増加が期待される。

今後も継続的に高校相互貸借システムの改善、搬送手段や相互貸借ガイドラインの見直し等を進め、円滑な事業運営に努めていく。その他、研究会との連携も引き続き進め、事業対象外の県内高校との将来的な連携・協力に向けて情報収集を行うことが望ましい。

第5節 図書館関係諸団体及び会議等の運営

1 神奈川県図書館協会

当館が事務局を務める神奈川県図書館協会は、2008年に創立80周年を迎えた。これを記念して、式典や講演会、パネルディスカッション、展覧会等を企画、実施した。式典はパシフィコ横浜会議センターにおいて同年11月27日に盛大に開催され、定員200人の会場がほぼ満席となった。また、『神奈川県図書館協会の歩み 2』を発行し、年表と人物・団体の略伝記を掲載した。

2 関東地区公共図書館協議会

関東地区公共図書館協議会（以下「関ブロ」）では、当館が会長（事務局）館を担当していたが、2010年度の都県立館長会議において、当時の当館館長より「会長館の持ち回り」について問題提起をした。その後、各館からの意見集約や同年度の第2回幹事会などを経て、2011年度第1回総会において正式に決定した。これ以後、会長（事務局）館としての業務は当館固定のものではなくなり、加盟図書館間でのローテーションで担当することとなった。

3 関東甲信越静地区図書館地区別研修

毎年関ブロが協力団体となり実施している研修として「関東甲信越静地区図書館地区別研修」がある。これは、全国の地区（6地区）ごとに都道府県（政令市含む）が持回りで毎年開催するもので、文部科学省および開催自治体の教育委員会主催で行われている。

本県では2013年に10年ぶり2回目の開催となった。県立青少年センターを主会場に12月3～6日の4日間8コマの研修が行われ、全体で122名（内、県外66名）の参加があった。

2013年度の地区別研修の内容

月日	内 容
12/3 (火)	基調講演「電子書籍の動向と図書館」 講師：専修大学教授 出版デジタル機構会長 植村 八潮氏
12/4 (水)	講義①「“Google 時代”における図書館の役割と可能性—利用者の問題解決・情報活用をどう支援するか—」 講師：青山学院大学准教授 野末 俊比古氏
	講義②「ソーシャルメディアを活用した図書館サービス」 講師：ゆうき図書館 長谷川 拓哉氏
	講義・演習「絵本の読み聞かせと実践」 講師：鎌倉市玉縄図書館長 小野 公子氏
12/5 (木)	講義③「図書館ブランディング入門—内外に味方を増やすコミュニケーション戦略」 講師：帝京大学総合教育センター准教授 仁上 幸治氏
	講義④「神奈川県立川崎図書館のレファレンスサービスと特色ある活動」 講師：神奈川県立川崎図書館 高田 高史氏
12/6 (金)	施設見学 川崎市立中原図書館 講師：田辺浩嗣館長・川崎市立中原図書館職員
	講演：「書物の流通構成と図書館」 講師：上智大学助教 出版流通論研究者 柴野 京子氏

4 神奈川県視聴覚教育連盟と紙芝居文化推進協議会

1948年、連合軍総司令部は、国際認識の啓蒙と民主化教育の徹底を目的に、ナトコ映写機と多数のCIE映画フィルムを提供した。都道府県の社会教育課はその活用を命じられ、本県では社会教育課の中に視聴覚係が設けられた。

1954年、当館の開館に伴い視聴覚ライブラリーも新しく発足し、1956年、視聴覚ライブラリーを事務局とした神奈川県視聴覚教育連盟（以下「県視連」）に発展した。県視連では、メディア環境や著作権等、様々な変化に対応するため、会員の連絡連携を図りながら研修や事業が行われた。

1980年、当館と県視連が主催で、「県手づくり紙芝居コンクール」がスタートした。20年の活動ののち、「紙芝居文化推進協議会」（以下「紙文協」）が発足した。紙文協が毎年当館で開催するコンクールは、日本の紙芝居文化の継承、子どもや市民の創造性を育むこと等を目的に行われ、創作紙芝居の潮流を定着させた。

なお、県視連は、2011年に事業の効率化を目的に神奈川県図書館協会と統合され、55年の活動を終えた。

紙文協の活動は現在も継続している。

第5章 生涯学習情報センターの創設から現在

第1節 生涯学習情報センターの沿革

1 開設までの状況

(1) 開設前史

1973年に経済協力開発機構（OECD）が発表した報告書「リカレント教育—生涯学習のための戦略—」などを契機として、生涯学習に対する社会の関心が高まる中、1981年に中央教育審議会が「生涯教育について」を答申した。

本県においては、1988年9月、神奈川県生涯学習推進協議会を発足させ、1989年3月に「学習・文化情報システムの基本的あり方について」、同年10月に「学習・文化情報システムの整備について」の提言を得ている。これを受け、1990年4月に社会教育課紅葉ヶ丘駐在事務所を当館内に設置し、1991年5月に「学習・文化情報センター」を当館内に開設した。この開設にあたって、学習・文化情報システムの運用を開始した。このシステムの運用が始まったのは、インターネットが普及する前であり、パソコン通信による接続か、窓口や電話で照会する必要があった。

この間に国では、1990年1月に中央教育審議会が「生涯学習の基盤整備について」を答申し、この中で都道府県が「生涯学習推進センター」を整備するように提案している。この生涯学習推進センターは、答申の中で以下の事業を集中して行うことが適当であるとされた。

- ① 生涯学習情報の提供及び学習相談体制の整備充実に関すること
- ② 学習需要の把握及び学習プログラムの研究・企画に関すること
- ③ 関係機関との連携・協力及び事業の委託に関すること
- ④ 生涯学習のための指導者・助言者の養成・研修に関すること
- ⑤ 生涯学習の成果に対する評価に関すること
- ⑥ 地域の実情に応じて、必要な講座等を主催すること

答申を受け、国は「生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律」（いわゆる生涯学習振興法）を1990年7月に施行した。この法律では都道府県に対し、体制の整備を図りながら一体的かつ効果的に事業を実施

するように求めている。

県が1991年3月に策定した「第2次新神奈川計画・改定実施計画」には、「かながわ県民センター（仮称）構想の推進」と「交流プラザ」「健康プラザ」「福祉プラザ」「学習プラザ」の整備が明記され、「学習プラザ」として生涯学習推進センターを整備することが位置付けられた。

計画策定後も、神奈川県生涯学習推進協議会は協議を続け、1991年10月「かながわ生涯学習センター（仮称）の整備について」において、生涯学習センターのあり方・機能等を提言し、続く1992年3月「神奈川における生涯学習ネットワークの整備について」や1994年2月「神奈川における生涯学習ネットワーク整備に係る方策について」では、生涯学習ネットワーク推進拠点の整備と早期開設を提言した。

1992年7月には、神奈川県生涯学習審議会が発足し、県教育委員会からの諮問に基づき、1994年5月に『学習社会かながわ』を展望した生涯学習振興の基本的方策について」を答申し、「生涯学習ネットワークを効果的に機能させ、県内における様々な学習活動を一層進行させるため」の核となる施設の必要性を改めて提言した。

1994年10月の「行政システム改革会議」において、かながわ県民センターの全体機能の見直しが打ち出されたため、「学習プラザ」に限らず、かながわ県民センターとして何が必要かという検討が行われた。その後、かながわ県民活動サポートセンターが開設されたことに伴い、新たな生涯学習センター構想の検討を進めていった。

(2) 開設に向けて

県は1997年1月に「かながわ新総合計画21」を策定した。その主要施策として「生涯学習の県域拠点の整備」があり、「市町村や民間との連携を図りながら、県民の生涯学習に必要な幅広い情報提供や指導者育成などの機能を備えた県域拠点の整備を図ります」としている。この内容を実現するために、「生涯学習情報センター」の整備が位置づけられた。

続く1997年3月には「かながわ生涯学習推進構想」を策定した。この構想では、生涯学習情報センターの整備を具体化して、計画に位置付けた。

更に、1997年4月、生涯学習情報センターの開設準備と開設後の運営にあたるため、生涯学習課横浜駐在事務

所をかながわ県民センター内に設置した。駐在事務所は学習・文化情報センター（生涯学習課紅葉ヶ丘駐在事務所（1991年6月組織再編により社会教育課紅葉ヶ丘事務所から名称変更）及びかながわ女性センター生涯学習部（生涯学習課江ノ島駐在事務所）を廃止し、これらの機能と生涯学習課の一部機能に移管する形で設置された。

そして、1997年10月25日、かながわ県民センター5階に、情報提供ゾーン、研修・交流ゾーン、オフィスゾーンを持つ神奈川県生涯学習情報センター（組織としては生涯学習課横浜駐在事務所）が開設された。

2 オープン

(1) オープニングセレモニー

1997年10月24日に、開設に先立ってオープニングセレモニーが行われた。テープカットに続いて開式、岡崎洋知事による生涯学習情報システム「PLANET かながわ」のスイッチ・オン、インターネットを使ったロサンゼルス駐在員による海外の生涯学習状況のリアルタイムリポート、「PLANET かながわ」のデモンストレーションなどが行われた。

生涯学習情報センターを広く県民へ周知するため、開館から1週間はオープン記念週間とし、市町村や学習ボランティア等の協力を得て様々なイベントを行った。

(2) オープン時の施設の運営

開館時間が火～金曜日 9:00～19:00、土・日曜日 9:00～17:00 となっており、毎週月曜日・祝日・年末年始が休業日となっていた。

施設面積は総面積 911 m²で、共用部分を除くと 640 m² となっており、その内訳は情報提供ゾーン 190 m²、研修・交流ゾーン 260 m²、オフィスゾーン 190 m²であった。情報提供ゾーンは情報提供・検索コーナー、学習相談コーナー、図書・パンフレット閲覧コーナーで構成されていた。また、オフィスゾーンは事務室、情報処理室、講師控室、資料室で構成され、研修・交流ゾーンは研修室1・2、生涯学習に関するデータ資料室、ロビー・ギャラリーで構成されていた。

開設1年後の10月には、累計来館者数が9,000人を超え、生涯学習情報システム「PLANET かながわ」トップページのアクセス件数も50,000件を超えた。

(3) オープン1周年記念イベント

開設1周年を記念し、1998年11月10日から15日にかけて、生涯学習情報センター開設1周年記念イベントを行った。大きく3つの企画で構成され、その内容は①記念講演会、②持ち込み企画ワークショップ&展示、③社会に開かれたかながわの大学フェアだった。

記念講演会は、第1部がスクリーン・デリバリー・サービス（映画上映とトーク）で、映画「翫雲」（1958年東宝作品）を鑑賞し、映画監督の河崎義祐氏のトークイベント、第2部が養老孟司氏の記念講演で、多くの方にご来場いただいた。

11月10日～13日に行われた持ち込み企画は8企画、10月20日～11月29日までの展示は3グループが2週間ずつ行った。

社会に開かれたかながわの大学フェアは資料配布 42大学、個別相談が24校であった。

3 2年目から現在に至る主な出来事

1998年6月に「かながわ大学生涯学習推進協議会」が設置され、その事務局となった。2000年6月から「生涯学習情報センターボランティア」の活動が開始され、現在まで多くのボランティアにご活躍いただいている。

2003年1月には「かながわ体験活動ボランティア活動支援センター」を整備し、県内における体験活動・ボランティア活動に関する情報収集、ホームページ等による情報提供、相談等を始めた。

2005年10月より月曜・祝日の開館を開始し、県立の図書館の図書の貸出・返却業務も始まった。

2006年6月には、高校生のボランティア活動の拠点として、「高校生ボランティアセンター（愛称：friends）」を開設した。

2010年4月、組織再編にともない、生涯学習文化財課横浜駐在事務所を当館へ移管した。また、10月からは、県立の図書館の図書の貸出・返却業務だけでなく、図書館カードの発行業務も開始した。

2013年2月18日に発表された「緊急財政対策への取組状況」の中で生涯学習情報センターは「必要な機能を精査し、集約化」「県立図書館の駐在事務所としては廃止」という方向性が示された。検討の結果、2014年4月より

当館内に生涯学習サポート課を設置し必要な機能と業務を引き継ぐことになった。2014年3月31日をもって生涯学習情報センターは廃止し、16年5月に及ぶ歴史は次のフェーズへと移ることとなった。

2014年4月より当館の生涯学習サポート課が引き継いだ主な業務には、情報提供や学習相談を行う生涯学習サポートコーナーの運営、生涯学習情報システム「PLANET かながわ」の運用、生涯学習指導者等への研修の企画・開催、かながわ大学生涯学習推進協議会の運営、高校生ボランティアセンターへの運営支援などがある。

生涯学習サポートコーナーは、2014年4月、当館新館1階視聴覚資料室の一角に設置された。

第2節 事業の展開

1 生涯学習情報の提供

(1) ホームページ「PLANETかながわ」による情報提供

生涯学習情報センターの開館当初から生涯学習情報システム「PLANET かながわ」を運用し、インターネットを利用して24時間情報検索が可能なホームページ「PLANET かながわ」を提供している。「PLANET」とは「Pilot…先導的に」「Learning…学習を」「Assist…支援する」「NETwork…ネットワーク」から採られた愛称である。

県の各関係機関のほか、市町村教育委員会、大学、専修・各種学校、その他多くの学習関係機関に「PLANET かながわ」共同作成機関として情報を提供していただいている。設立当初は30機関で充足したが、2013年度で337機関へとネットワークが拡大した。

「PLANET かながわ」で過去に取扱っていた情報や現在取扱っている情報は次のとおりである。(カッコ内は2013年度末の登録情報件数)

① 施設情報 (5,437件)

博物館、美術館などの学習・文化施設やスポーツ施設などの所在地や利用方法の案内。

② 講座・催し物情報 (9,520件)

各地の学習講座・講演会・催し物などの案内。例年、利用が最も多い。

③ 見学情報 (1,759件)

文化財や景勝地、ハイキングコースなどの案内。

④ 団体グループ情報 (9,668件)

学習サークルの活動内容や連絡先などの案内。

⑤ 指導者・ボランティア情報 (4,200件)

学習会の講師やボランティア活動者(志願者)の案内。

⑥ 資格・試験情報 (634件)

国家資格や検定試験の種類や取得方法などの案内。

⑦ 教材・機器情報 (29,237件)

学習用に貸し出されている教材や機器の利用方法などの案内。

⑧ 相談・情報ファイル

学習相談事例やくらしガイド情報などの案内を行っていたが、2007年度で提供を終了した。

⑨ 体験活動・ボランティア活動情報 (1,116件)

2003年1月より「かながわ体験活動ボランティア活動支援センター」として、体験活動やボランティア活動の機会、活動事例の案内などを開始した。

⑩ 文化財情報 (982件)

2002年4月1日より文化財・記念物などの案内を開始した。

⑪ 出土品情報 (258件)

文化財情報と同じく、2002年4月1日より埋蔵文化財センター所蔵の土器・石器などの案内を開始した。

(2) 生涯学習情報誌『PLANETかながわ』の発行

それぞれ単独発行していた「かながわオープン・カレッジ」の冊子と学習・文化情報センター情報誌の「学習・文化のひろば」を統合した生涯学習情報誌『PLANET かながわ』を発行した。これは生涯学習情報センターの開館前(1997年7月)から発行が始まり、2011年3月(2011年春号)の第56号まで続いたが、電子化の流れと本県の厳しい財政状況により廃刊となった。

内容は、県内で開催される様々な学習講座をわかりや

創刊号表紙



最終号表紙



すく体系化して紹介する「かながわオープン・カレッジ」の案内や県立生涯学習施設（図書館、博物館等）からのお知らせなどを掲載したものだ。

創刊号のみ7月の発行だが、毎年6月、10月、12月、3月の4回発行した。

生涯学習情報誌『PLANET かながわ』発行状況

年度	発行部数
1997	30,000部 × 4回 = 120,000部
1998	25,000部 × 4回 = 100,000部
1999～2001	22,000部 × 4回 = 88,000部
2002	10,000部 × 4回 = 40,000部
2003～2009	12,000部 × 4回 = 48,000部
2010	12,000部 × 2回 = 24,000部
	11,500部 × 2回 = 23,000部

(3) 刊行物情報閲覧提供コーナーとパソコン・インターネット検索コーナーの運営

生涯学習関係図書、情報誌、各種刊行物の閲覧コーナーを設けるとともに、パンフレットやチラシの提供を行った。また、生涯学習関係や人権関係の視聴覚教材の貸出しも行った。この他に、パソコンを利用したインターネット検索コーナーを設け、「PLANET かながわ」やその他の検索エンジン等を利用した生涯学習情報を検索できるようにしていた。

(4) その他の媒体による情報提供

県の広報紙（「県のたより」）、市町村広報紙・誌、NHK-FM（「お昼前のおしらせ」）での情報提供も行った。

(5) 調査研究等

生涯学習情報センターは毎年、「神奈川の大学における生涯学習関連事業実施状況調査」を行い、調査結果をまとめた冊子を作成してきた。この調査は県内の大学、短期大学、大学院における生涯学習関連事業の実施状況を把握し、生涯学習施策を検討するための基礎資料とするため、また大学が今後の生涯学習関連事業を行う際の参考とするために行ってきた。

生涯学習情報センターが設立される前の1991年度から生涯学習課が調査しており、1989年からの経年変化を見ることができるといっても重要な資料となっている。調査は施設開放、公開講座、社会人入学特別選抜制度、

聴講生制度等の状況を把握するもので、冊子は「大学フェア」や「生涯学習フェア」でも配布されている。

2 生涯学習相談

学習相談員が常駐して、面談、電話、ファクシミリ、電子メールなどによる学習相談に応じている。

相談の内容は、「資格を取りたいがどういう手段があるか」「ボランティアをしたいと思っているのだがどういうやり方があるのか」「古文書の読める指導者はいないか」「語学のどういうサークルがあるか」「パソコンを勉強したいと思っているのだがどうすればよいか」など、多種多様である。

3 生涯学習指導者等の研修

1997年4月に生涯学習課横浜駐在事務所が設置された当初から、生涯学習指導等に携わる関係職員や民間団体のリーダーなど学習指導者（支援者）を対象とした研修を運営・実施してきた。（p.76参照）

4 学習成果活用への支援

学習者が様々な機会や場を通じて学んだ成果を職場や地域などの社会参加活動に生かすための支援策を進めた。

(1) 指導者・ボランティア登録制度

かながわオープン・カレッジの講座修了者をはじめ、様々な分野の学習者や学習指導者等の中から、他の学習者のために指導やアドバイスをしたい人及び市民活動や社会事業に参画して社会貢献したい人を「人材登録制度」（人材バンク）に登録し、指導者・ボランティアを求めている人々との橋渡しを、「PLANET かながわ」で行っている。（2013年度末情報件数4,200件）

(2) 団体・グループ登録制度

その活動内容等を県民に広く紹介したい団体・グループを「団体・グループ登録制度」に登録し、「PLANET かながわ」を利用して情報提供を行っている。（2013年度末情報件数9,668件）

また、学習グループの活動紹介コーナーで団体・グループの活動紹介を行っている。

(3) 学習成果の発表・提示活動への支援

生涯学習情報センターのロビー・ギャラリーを利用し

て、交通安全ポスター展や、文化財保護ポスター展などを行うとともに、インターネット上でも作品を公開していたが、2007年度で各種のポスター展の事業は終了し、生涯学習関係のポスターの常設展示のみとなった。

(4) 生涯学習ボランティアとの協働

2000年度からの新規事業として、生涯学習情報センターにおけるボランティアと職員との協働による事業活動をはじめた。当初は、学習相談業務、情報誌『PLANET かながわ』の編集、生涯学習情報の収集・提供等、大学フェアの司会等という業務であった。その後、学習相談業務のボランティアはなくなり、情報誌『PLANET かながわ』の廃刊にともない編集業務もなくなった。結果として、2013年度は生涯学習情報の収集・提供等フロー業務、セミナーの運営、生涯学習フェア（旧称「大学フェア」）の運営等の4つになった。また、ボランティアが主体となって運営を行うパソコン講座も開催された。

2000年度の登録者数は11名だったが、徐々に増加し、2006年度から30名～40名の登録で推移している。

(5) 体験活動・ボランティア活動の推進

近年、都市化や核家族化・少子化等の進展により、地域の連帯感、人間関係の希薄化が進み、個人が主体的に地域や社会のために活動することが少なくなってきた。しかし、とりわけ青少年期には、学校内外における体験活動・ボランティア活動などを通して、豊かな人間性や社会性などを培っていくことが求められている。こうした状況を踏まえ、2003年1月に生涯学習情報センターの機能を充実させ、「かながわ体験活動ボランティア活動支援センター」を整備した。

2006年6月には、高校生のボランティア活動の拠点として、生涯学習情報センター内に「高校生ボランティアセンター（愛称:friends）」を開設した。

① 体験活動等に関する情報の収集・提供、相談

「PLANET かながわ」で青少年の体験活動・ボランティア活動などについての情報を収集・提供するとともに、電話や電子メールなどで相談に応じている。

2005年度からはボランティア活動をしたいと考えている中学生・高校生等を対象とした「ボランティア活動総合相談会」を開催した。2008年度からは名称を「よくわかるボランティア・ナビ」とし、2012年度まで多様なボ

ランティア活動の紹介や活躍の場の情報を提供した。これらはNPOや社会福祉協議会に協力を得て実施しており、内容は総合相談のほか、福祉、国際、環境等の分野別相談、高校生による活動紹介、オリエンテーションなどである。

② 体験活動等の場の開拓、人材の育成

青少年関係団体やボランティア関係団体等とのネットワーク化を図り、体験活動等の場の開拓に努めた。また、市町村のコーディネーター等の指導者の養成・研修の機会を提供するため、体験活動・ボランティア活動コーディネーターや関係行政職員等を対象に、2003年度と2004年度に「体験活動ボランティア活動支援セミナー」を開催した。2003年度は「体験活動ボランティア活動支援センターの設置をめざして～支援センター設置に向けて課題を探りながら、問題解決を図る」、2004年度は「体験活動の企画とその課題」というテーマだった。

③ 広報・市町村への支援

2003年度は県内小中学校・高等学校へ教室掲示用チラシを、各市町村社会福祉協議会、各市町村所管児童館、地区センター、公民館、スポーツ施設及び文化会館等へ関係施設用ポスターを作成・配布した。2004年度は啓発用手引書を県内小中学校、高等学校及び特別支援学校等へ作成・配布し、体験活動・ボランティア活動の推進・啓発に努めた。チラシ、ポスター、啓発用手引書の内容は、活動例や各市町村の体験活動ボランティア活動支援センターの紹介、活動の際の注意の案内等である。

④ 出前講座の開催

2006年度からは高校生や教職員を対象としたNPO等民間団体の講師による「出前講座」を開始し、県内の高校生のボランティア活動に対する意識の高揚や活動の促進を図ってきた。

開始当初の2006年度は6回の開催であったが、その後は10件前後で推移した。講座の対象としては、教職員向けよりも高校生向けの講座の依頼が多かった。

なお、2014年度からは各学校に講座の対応を任せるとし、「出前講座」は廃止した。

⑤ NPOとのネットワーク形成

「高校生ボランティアセンター」が開設された2006年度から、高校生のボランティア活動促進に向けた環境づ

くの一環として、NPO や関係団体等との連携を図るため、「高校生ボランティア活動支援ネットワーク会議」を行っている。

⑥ 高校生ボランティアセンターの運営支援

2006年6月に公募高校生自らが運営する「高校生ボランティアセンター」を生涯学習情報センター内に開設し、その運営を支援してきた。高校生ボランティアセンターの活動内容は、公募による高校生スタッフが自らボランティア活動の企画を立案し、県内高校生にボランティアとして参加を呼びかけ、その実施までを行うというものである。高校生ボランティアセンターにおける典型的な活動例を下部の表に示した。登録した高校生は、年度によって異なるが、環境、国際、青少年、福祉といった分野別グループに分かれ、NPO や関係団体職員の助言を受けながらボランティア活動の企画を立案し実施する。年度末には高校生ボランティアセンター活動発表会を開催し、その年度の活動内容の発表や参加者との意見交換を行っている。

この事業に対し2014年9月、全国知事会から表彰された。

⑦ 地域ボランティアエアポートとの連携

2006年度より県内の市民活動サポートセンター及び市民活動推進センター等を「地域ボランティアエアポート」として位置付け、県内の高校生ボランティア活動に関する相談・紹介や企画・運営、場所の提供等の支援を依頼してきた。また、地域ボランティアエアポート連絡会を開催し、活動事例や情報提供、高校生ボランティアセンターの活動の報告等を行っている。

5 生涯学習の拡大促進

(1) かながわ生涯学習ネットワーク推進協議会による取組み

「かながわ生涯学習ネットワーク推進協議会」は1998年9月に設置された。その目的は、県民が生涯を通じて主体的に多様な学習活動が行えるよう、県民や県、市町村、民間等の関係機関・団体が協働し、生涯学習情報センターを拠点とした県民の生涯学習を支援する広域的なネットワークを構築して、神奈川における生涯学習の取組みを総合的に推進していくことである。

構成員は、県民（学習者）、関係機関・団体の生涯学習推進に関する責任者、学識経験者と県職員（生涯学習課長及び当館館長）であり、広域的なネットワークの構築や全県的な生涯学習の推進について協議を行った。また、協議会の他に、小委員会や専門部会が開催された。

「かながわオープン・カレッジ」及び「まなびの広場」は「かながわ生涯学習ネットワーク推進協議会」が主体の事業であった。この他に2000年度には生涯学習機関における学習資源調査を行っている。また、2001年度まで、「生涯学習ネットワークサロン」を開催し、生涯学習関係者が自由な立場から情報・意見交換を行った。2001年10月から「PLANET かながわ」内に生涯学習関係機関電子掲示板を設置した。

2003年度末をもって、「かながわオープン・カレッジ」が「まなびの広場」に改編されてからは、まなびの広場の推進について検討を行った。この中で、学習者相互の情報発信・学習成果の発表等による仲間づくりや情報交換を行う場を設けることを検討していった。この結果、「PLANET かながわ」内で団体・グループの活動紹介や報告などを行うページを設けることとなった。

2010年度高校生ボランティアセンターの高校生スタッフによる企画の内容

ボランティアの活動分野	企画名	内容	活動場所
環境	緊急指令 落ち葉をひろえっ！山下公園通り救出大作戦	山下公園通りの銀杏並木の落ち葉やごみを清掃し、景観を良くする活動を行った。	なか区民活動センター、山下公園
国際	世界に友達の輪を広げよう！～みなとみらい青春の旅～	「心の国境」をなくすことを目指し、国際交流について考える交流会及び日本の異文化交流を象徴する横浜の名所を巡るツアーを行った。	みなとみらい地区、山下公園、JR石川町駅周辺
青少年	小学生と伝統の遊びやスポーツをしよう	高校生が小学生と大縄跳びやレクリエーションを通じて楽しく体を動かした。	神大寺地区センター
福祉	ホッと HOT 大作戦～高齢者の方とあたたかくてホッとする X'mas パーティーをしませんか？～	プレ企画として11月に車いす等で高齢者の疑似体験を行い、12月に高齢者の方と X'mas パーティー（合唱・演奏・ジェスチャーゲーム等）を行った。	神奈川県社会福祉協議会、民間有料老人ホーム

その後は、「PLANET かながわ」の情報提供内容やアクセス方法を見直すことを進めてきたが、「PLANET かながわ」共同作成機関数が増えたことなどから、広域的なネットワークの構築と総合的な生涯学習の推進に一定の成果が見られたため、2010年9月に同協議会は廃止された。

(2) 「かながわオープン・カレッジ」の推進

県・市町村、県内の大学、専修学校、各種学校、高等学校、職業訓練施設、カルチャーセンター及び試験研究機関が開設している公開講座を、体系的、総合的に、わかりやすく、広く県民に情報提供するとともに、受講者等がその学習成果を活かして行う講師活動やボランティア活動などの社会参加を支援する総合的なシステム「かながわオープン・カレッジ」の推進を図った。

この「かながわオープン・カレッジ」は、講座開設機関から参加を募り、「事業の対象となる学習領域であること」、「学習時間が10時間以上であること」、「学習レベルを区分すること」という条件を満たした公開講座を対象としていた。対象となった講座の総学習時間数の7割以上を受講した者に対し、講座開設機関が講座の修了を認定し、修了証を交付するとともに、修了認定した総学習時間数5時間につき1単位を認定した。この講座修了認定において、40単位を取得した人に対し、その求めに応じてオープン・カレッジの学長（学長はかながわ生涯学習ネットワーク推進協議会会長）が「学習活動歴証明書」を交付した。

「かながわオープン・カレッジ」は講座開設機関から参加を募るものであったため、学習領域に偏りがあり、必要性は高いものの「現代的課題学習」の分野が不足しがちであった。これを補うために、「かながわオープン・カレッジ・プログラム講座」を大学などの学習講座実施機関と連携協力して開設した。

「かながわオープン・カレッジ」事業は1997年度から実施していたが、2003年度で終了し、「学習活動歴証明書」の交付も2004年9月末で終了となった。（講座情報の提供等については「まなびの広場」に継承した。）また、「かながわオープン・カレッジ・プログラム講座」は「生涯学習プログラム講座」として継続したが2008年度をもって終了した。

(3) 社会参加活動支援の強化

2004年度に生涯学習情報提供に加え、学習者相互の情報発信・学習成果の発表等による仲間づくりや情報交流を推進する「まなびの広場」を設けた。「まなびの広場」では学習成果の活用促進に新たに取り組むこととし、生涯学習情報システム「PLANET かながわ」や情報誌『PLANET かながわ』で、ボランティア団体・学習グループ等の紹介を行うなど学習者の社会参加活動への支援を推進した。

(4) かながわ大学生涯学習推進協議会による取組み

「かながわ大学生涯学習推進協議会」は、県民が生涯を通じて主体的に多様な学習活動が行えるよう、大学相互及び大学と県が緊密な連携・協力を図りながら、大学における生涯学習の取組みを総合的に推進していくため、1998年6月26日に設置された。

構成員は県内の大学及び県教育委員会で、大学における生涯学習関連事業の調査・協議に関すること、大学の連携協力による生涯学習の共同事業の実施に関することなどを、事例発表を交えつつ協議を行ってきた。

1998年11月の生涯学習情報センター開設1周年記念イベントに合わせ、同協議会が主体となって「社会に開かれたかながわの大学フェア」をかながわ県民センターにて開催した。このイベントは、社会人を対象に、大学・短期大学・大学院における社会人特別選抜、編入学・学士入学、科目等履修生制度や公開講座などの学習機会の情報案内と相談会等を合同実施するもので、社会人入学資料等の提供や各大学の担当職員による個別相談会、入学体験者の体験発表などが行われた。

2000年度からは、「社会人のための大学フェア in かながわ」と改称した。

2002年度までは9月の土曜日に1日の日程での開催であったが、アンケートでは2日開催を望む声があり、2003年度からは金曜日の夕方～土曜日の2日間開催とし、より多くの方にご来場いただけるようになった。この年から大学教授や准教授等による記念講演が毎年行われるようになった。

2003年度から2006年度の開催では予備校による「社会人のための大学・大学院受験対策講座」も開講された。

毎年開催されていたため、2004年度は「第7回社会人のための大学フェア in かながわ」と、タイトルに回数がか

入り、毎年開催されるイベントとして定着していった。

2007年度からは、「社会人のための大学・大学院受験対策講座」を、大学の公開講座がどのようなものか体験できる「体験公開講座」へリニューアルした。

「大学フェア」は1998年度11月開催を除いて、2006年度まで9月に開催していたが、社会人入試時期に合わせ、2007年度は8月、2008年度は7月と前倒しで開催した。しかし、7月上旬の開催では時期的に後期（10月以降）に大学等で開催される公開講座の情報提供が十分でなかった。そのため、7月の開催に加え、9月にも体験公開講座に的を絞った情報提供・PRの機会を設けることとなった。この結果、2009年度より第1弾、第2弾をそれぞれ2日ずつ、合計4日間の開催となった。また第2弾は土曜日と日曜日の開催とした。

こうして、2009年度の大学フェアは、第1弾（7月）は入学制度等の資料配布、大学担当者による個別相談、記念講演、体験公開講座、第2弾（9月）は公開講座資料の配布、体験公開講座という内容となった。

2010年度からは仕事を持つ社会人の利便性を考慮し、第2弾の日程に金曜日の夕方を加え、3日間と更に拡大した。

2000年度以降「社会人のための大学フェア」という名称で開催されてきたが、来場者や来場を検討されている方から「社会人とは誰を指しているのか」という質問が数多く寄せられるようになった。また、2011年度、2012年度と来場者が減少傾向であったこともあり、イベントをより身近に感じてもらうため、2013年度から「大学で学ぼう～生涯学習フェア～」と再度改称した。名称は変わったが、回数は通算して、2013年度で第16回を数えた。2013年度の第1弾については大学をより身近に感じてもらうため、初めて大学を会場とし、昭和音楽大学で開催した。これまでと趣向を変え、記念講演として、黒岩祐治知事、元プロ野球選手の桑田真澄氏、昭和音楽大学教授の武濤京子氏による鼎談、体験公開講座として昭和音楽大学ジャズコース学生有志による演奏を交えたジャズ講義を行った。

また、協議会ではより良質で多彩な内容の学習機会を提供するための取組みの検討を行った。その結果、大学相互及び生涯学習情報センターで講師や会場などを始め

とする様々な学習資源について連携・協力し合う「共同公開講座」が生まれ、2000年度から開設された。

開設当初の2000年度から2003年度までは、年間2講座で推移したが、2004年度以降、増減はあるものの徐々に増え、近年は年間30講座前後で推移している。

6 その他

(1) 県立の図書館の図書の貸出・返却、図書館利用者登録業務(図書カードの発行)

2005年10月から県立の図書館の図書の貸出・返却業務を始めた。横浜駅西口から徒歩5分という利便性もあり、生涯学習情報センターでの貸出・返却冊数は年々増え続け、2006年度に年間6,731冊だったものが、2012年度は33,951冊となった。

2010年4月には、生涯学習情報センターは生涯学習文化財課から当館へ移管され、10月から図書館カードの発行業務ができるようになり、図書館利用者の登録業務を開始した。

生涯学習情報センターは2014年3月をもって廃止となったが、利用者の利便性を考慮し、図書の貸出・返却及び図書館カードの発行機能はかながわ県民センター9階の「県立図書館横浜西口カウンター」において継続することとした。また、かながわ県民センター1階に返却ポストも設置した。

(2) 初心者向けパソコン講座の開催

2011年6月から、パソコンを利用したことのない方を対象に、「はじめての方のためのパソコン講座」を開催した。この講座は、生涯学習情報センター職員が講師役となって、利用者にパソコンの使い方を習得していただき、生涯学習情報システム「PLANET かながわ」の利用促進を図るためのものであった。生涯学習情報センターの廃止直前の2014年2月まで、予約が殺到した時期を除き、毎月1回または2回、定員10名で開催した。2013年度からは午前中に「はじめてのパソコン」、午後には「はじめてのインターネット」という研修内容にて開催し、利用者には好評を博していたが、生涯学習情報センターの廃止・集約化とともに終了した。なお、生涯学習ボランティアによるパソコン講座は現在も当館で継続して開催されている。

第6章 新たな県立図書館に向けた動き

第1節 県立図書館はどうあるべきかの論議

当館はどうあるべきかの論議は、今に始まったわけではない。それこそ開館以来繰り返し行われてきた。そしてその都度、変わってはならない点を確認し、変わるべき点については、最善の方策を選択してより良い県立図書館へと舵をきってきた。

ここでは、2003年度以降2014年度に至る論議について、その経過と内容等について記す。そこには館内議論にとどまり、具体化への道筋に至らなかったものもある。しかし、職員が真摯に県立の図書館のあり方について討議した結果である。その後の検討作業に反映されている内容ももちろんある。そうした職員の努力を記録として残したい。

あわせて県立の図書館のあるべき姿にも影響を与えることになった「神奈川県緊急財政対策」（2012～2013年度）をめぐる動きや論議についても触れる。

1 重ねた内部での検討(2003～2005年度)

2003年11月、これからの県立の図書館のあり方について、館内論議及び川崎図書館との調整を経て「神奈川県立の図書館の将来方向について—新たな拠点に向けて—」が、まとめられた。内容は、図書館全体の役割とは何かに始まり、国、都道府県、市町村立図書館の役割を述べ、図書館を取り巻く環境の変化と神奈川の取組みに触れている。そして「新たな拠点図書館へ向けて」の見出しを掲げ、「県民の学習・調査研究を支援できる課題解決型のリサーチライブラリーとして機能強化を進める。」という前文のあと、①図書館サービスの向上、②組織・執行体制の見直し及び施設整備に分けて、その下の小項目ごとに詳述している。この「将来方向」には、今後3年程度を目途とする「短期的な取組み」と時間をかけて取組むべき「長期的な取組み」が付されていた。

2004年12月には、生涯学習文化財課が主管課となり、「県立の図書館のあり方研究会」がつくられた。これは、教育委員会教育部、当館と川崎図書館の幹部職員で構成され、毎回、図書館情報学の学識経験者を招いて話を聞くというものであった。第1回目の冒頭、教

育部長は、「県立の図書館をめぐる課題として、①建物の老朽化、②政令市図書館の充実と市町村図書館の整備に伴う特に政令市図書館との役割分担の問題がある。」と述べている。「県立の図書館のあり方研究会」は2005年4月までに5回開かれ、6人の学識経験者から有益な話を聞いた。

2005年10月には、当館の職員によって「県立図書館見直し検討プロジェクト」がつくられ、2006年1月、「神奈川県立図書館の将来像について（報告）」が、まとめられている。

この報告を見ると、例えば、新しい当館像を「県立図書館と川崎図書館の2館体制でなく、総合的機能を持つ」ものとして規定している。また、視聴覚資料について「メディア変換による音源・映像資料の次世代への保存に努める。」ということにも触れている。更に「新しい情報メディアモール空間の創出」という表現を使って、「文化施設との交流空間」であるとか、「県民各種研究団体、ボランティア、NPO交流空間」などといった空間のイメージ化も試みている。新しい考え方が随所に出されている報告といえる。また、新設県立図書館を具体的な立地を踏まえて記述していることも、大きな特色となっている。

2 「県立の図書館のあり方検討委員会」の報告（2005～2006年度）

2005年10月に「県立の図書館のあり方検討委員会」が設置された。委員は次の名簿の方々であった。

県立の図書館のあり方検討委員会 委員名簿(敬称略)

分野	氏名	職
図書館に関する学識経験者	根本彰	東京大学大学院教育学研究科教授
	大串夏身	昭和女子大学総合教育センター教授
	岸田和明	慶應義塾大学文学部図書館・情報学専攻教授
生涯学習に関する学識経験者	蛭田道春	大正大学人間学部教授
市町村図書館関係者	武 清	藤沢市総合市民図書館長
民間の有識者	篠原信一郎	神奈川新聞社文化部長

委員会は、生涯学習文化財課を主管とし、学識経験者4名、市町村図書館関係者1名、民間の有識者1名の6名という構成で、任期を2007年3月までとして検討を実施した。

委員会は、精力的な検討を行い、2007年3月、「今後の県立の図書館のあり方について（報告）」をまとめた。

報告書では、まず県立の図書館を取巻く最近の状況と県立の図書館の現状を述べ、そこから見える課題を示している。そしてその課題を解決するために、「県立の図書館が今後重点を置くべき機能」を次の7項目に整理した。

- ①専門的な情報提供サービスの機能
- ②専門的なサービスを支える資料収集と提供
- ③情報コンテンツの作成と提供の機能
- ④県域におけるネットワークサービス（関連施設・機関との連携）の機能
- ⑤県内の図書館を支援するための調査・研究の機能
- ⑥専門的なサービスを支える人材育成の機能
- ⑦パブリックリレーションズ（PR）推進の機能

そして、「重点を置くべき機能を実現するには」として、次の4項目に分けて述べている。

- ①機能の純化と強化による専門的なサービスの充実
- ②施設体制、組織体制の見直し
- ③施設運営の効率化
- ④図書館をめぐる評価

具体的には、4項目の中で、更に細かい内容があげられているが、例えば、②の「施設体制、組織体制の見直し」のところ、「…2館に分割されている施設機能を、1つの施設に統合することを検討すべきである。」と指摘している。

「終わりに（利用者の視点に立ったサービスの推進に向けて）」の中では、「…これまでの訓練と経験の中で蓄積した質の高いレファレンス・サービス等を実施することのできる調査研究機能を活かしながら、それを発展させることで、（中略）…県民に貢献できることを積極的にアピールしていくことが重要である。」と述べ、「…本報告の趣旨を踏まえ、様々な手法を活かしながら、（中略）…検討を進めることを期待して

いる。」と結んでいる。

3 「県立の図書館のあり方検討プロジェクトチーム」等の設置（2007～2011年度）

「県立の図書館のあり方検討委員会」の報告を受け、報告書で指摘されている諸項目に対する具体的対応について検討する「県立の図書館のあり方検討ワーキンググループ」が2007年7月、発足した。

当館と川崎図書館、生涯学習文化財課の担当者が集まり、①「今後の県立の図書館のあるべき具体的な姿」、②「サービス向上と効率的運営に関わる当面の課題解決」などをテーマに論議した。このうち、当面の課題解決については、祝日と重なる月曜日を閉館するとともに、時間変則勤務制度の導入により時間外勤務の削減を図ることとし、2008年度から実施した。

2008年度から2011年度は、名称を「県立のあり方検討プロジェクトチーム」とし、当館と川崎図書館、及び生涯学習課（2009年度までは生涯学習文化財課）の幹部職員等がメンバーとなって検討は続けられた。「専門的なサービス充実の視点と組織体制の見直しの視点から見た新図書館のコンセプト」や「2館に分割されている施設機能を1つに統合する」といった視点から、新図書館の施設体制等について検討された。

2011年度になって、その時点での新しい県立図書館についての考え方を「新たな県立図書館・実施計画」として、未定稿ながら2012年3月にまとめている。ここでは、新しい県立図書館の果たす役割として、①県域全体の図書館サービスを支える機能と、②神奈川県らしい個性と専門性を併せ持った調査・研究型図書館の2点をあげている。

4 神奈川県「緊急財政対策」の影響（2012～2013年度）

2012年5月、県財政再建のため発足した神奈川県緊急財政対策本部（本部長：黒岩知事）に対し、外部有識者の調査会（神奈川県緊急財政対策本部調査会）は、全ての県有施設について、原則廃止の方向性を打ち出した。

この提言を受けて、2012年10月、神奈川県「緊急財政対策」が発表され、当館、川崎図書館、生涯学習

情報センターについては「機能の純化・集約化を含めた検討」という方向性が出された。

具体的には、当館は「…閲覧・貸出機能を廃止し、県内の公立図書館間の相互貸借システムの運営など広域的サービス等について、市町村図書館とも協議しながら、検討する。」とされ、川崎図書館は「川崎市からの借地であり、川崎市の再編整備計画により、平成29年度までに現在地から移転する必要があることから、県立図書館等との集約化を含めた検討を行う。」としている。生涯学習情報センターは、「…県が関与すべき機能を精査していく。」となった。

同年11月、県教育委員会は、この提案を説明するため、全市町村の図書館長を集め、「説明と意見交換会」を開いた。その後、生涯学習課長と県内市町村立図書館10館の館長等を構成員とする「県立の図書館の見直し検討会」を、2013年1月から5月にかけて5回開催した。また、この問題について県民と意見交換をするため、「県立の図書館についての意見交換会」を横浜、川崎、藤沢の3カ所で、5月末から6月にかけて開催した。

市町村立図書館との見直し検討会の場でも、県民との意見交換会の場でも、県の提案に対する多くの意見や疑問が出された。また、神奈川県資料室研究会や神奈川県図書館協会からは要望書が出された。県民・利用者からは多くの意見が寄せられ、神奈川新聞が連載記事でとりあげるなど、県立の図書館の見直しは、社会的にも大きな関心事となった。

このような多様な動きに対して、県は、多くの意見を聞いた上での判断として、2013年2月の県議会で、県立の図書館の「閲覧機能は維持」、川崎図書館は「企業活動の支援につながる機能に高度化・特化して、川崎市内に残す方向で検討」ということを、教育長が答弁した。

更に、同年12月の県議会で、知事からは「県立図書館は、建物の建替えや改修を行い、閲覧、貸出だけでなく、新しい知見が生まれ、県民の皆様が足を運びたくなるような『魅力溢れる図書館』にしたい。」、川崎図書館については、「溝の口にあるKSP（かながわサイエンスパーク）が総合的に見て、適地であると

の判断に至った。」との答弁があった。

「緊急財政対策」に関わる県立の図書館の見直しを巡る動き

年月日	内容
2012. 5. 26	県緊急財政対策本部調査会（神奈川臨調）が全ての県有施設について「3年間で原則廃止する」方向性を出す。
2012. 10. 17	臨調の提言を受け、知事は全ての施設に検討の方向性を示す。県立の図書館2館と生涯学習情報センターが「機能の純化・集約化を含めた検討」となる。
2012. 11. 7	県議会決算特別委員会で教育局長が県立図書館の閲覧・貸出機能の廃止を検討している旨を答弁。
2012. 11. 20	県が県内全市町村の図書館主管課及び図書館を対象に、県立の図書館に関する意見交換会（第1回）を開催。（第2回は、2013. 5. 24）
2013. 1. 18	県が県内全市町村立図書館10館の館長等を対象に、「県立の図書館の見直し検討会」を開催。（全5回。同年2/28、3/22、4/25、5/17開催。）
2013. 2. 21	県議会本会議において、教育長が県立図書館の閲覧サービスの継続、川崎図書館の川崎市内での機能存続の検討について答弁。
2013. 3. 11	県は、土地の借用期限が迫る川崎図書館について、京浜臨海部の殿町地区に移転する方向で検討していることを表明。
2013. 5. 27	県が県立の図書館の見直しについて県民と意見交換をする「県立の図書館についての意見交換会」を3カ所で開催。（全3回。同年5/30、6/2開催。）
2013. 12. 2	県議会本会議で知事は、県立図書館は「建物の建替えや改修を行い、魅力あふれる図書館にしたい」、川崎図書館は「KSPが総合的にみて適地であるとの判断に至った」と答弁。
2014. 2. 7	「緊急財政対策の取組結果」を公表。「県有施設見直しのロードマップ」で「生涯学習情報センターを廃止し、その機能を集約化。閲覧・貸出機能の継続。川崎図書館及びかながわ女性センターの蔵書の受入れ、相互貸借システムの拡充などの広域的サービスについて検討。収蔵スペースや展示機能の充実を図るため、建物の建替え・改修について検討」と方針を示した。

2014年2月には「緊急財政対策」の取組結果が公表された。その中の「県有施設見直しロードマップ」では、当館については、「閲覧・貸出機能の継続、川崎図書館及びかながわ女性センター蔵書の受入れ、相互貸借システムの拡充などの広域的サービスについて検討、収蔵スペースや展示機能の充実を図るため建物の建替え・改修について検討、生涯学習情報センターを廃止しその機能を集約化」、川崎図書館については「特性・地域性を踏まえた機能への特化、市内への移転」とされた。

5 明日の県立図書館づくりプロジェクトチーム

(2013年度)

「緊急財政対策」で、県立の図書館は揺れていたが、図書館のあり方をそのような中から論議をして、形にしたいという思いが、職員にはあった。

2013年6月、当館の各課と川崎図書館から若手の職員が7名集まり、企画協力課副主幹をプロジェクトリーダーに「明日の県立図書館づくりプロジェクトチーム」が発足した。チームの目的は「『長期的に目指すべき県立の図書館像の具体的立案検討』と『今からでもできる新たな県立の図書館づくりの検討及び実行』の両者を機動的に進める」とした。

同年11月に開かれた、有識者から図書館の運営について助言を求めるアドバイザー・レクチャーは、公開型のパネルディスカッションの形式で行ったが、パネリストのひとりとしてプロジェクトリーダーが加わった。ここでは、「図書館づくり3つのテーマ」として、①市町村図書館等と協働する図書館づくり、②調査研究・相談機能を強化する図書館づくり、③『生きる力』を伝える図書館づくり、にまとめ、これからの県立の図書館についての意見も述べた。

また、今からでもできる「できるかもプラン」を数多く出し、その中から実現化をめざして「できることプラン」にしていくことも試みた。「できるかもプラン」については、絵葉書やブックカバーなどのグッズ類の作成などを2014年度に行った（P.16右側の列を参照）。

第2節 多くの叢智を結集して一変わる県立の図書館

2012年12月、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」が大幅に改正された。この改正を受けて今後の県立の図書館のあり方を考える必要があるという中で、動きがあった。

「緊急財政対策」の一環として、2014年4月、横浜駅西口の県民センターにあった生涯学習情報センター機能が当館に集約され、「生涯学習サポートコーナー」が新館1階視聴覚資料室の一角に設置されることになった。生涯学習に関する様々な情報の提供拠点が名実ともに、当館の一部となった。今後は、従来の当館のサービスと効果的に結びつきながら新たな図書館サービスを担っていく。

2014年度末には、江ノ島にある女性センターの資料が約10万冊移ってくる。当館では、新館地下1階の旧食堂と新館1階の多目的ホールにこの資料を配置するというプランで準備を進めている。貴重な女性センター資料を有効に使っていく。

生涯学習情報センターの機能及び女性センターの資料が当館の中に入るということは、今後の大きな変化の第一歩である。

2014年度、当館内部に「新サービス企画担当」が誕生し、川崎図書館を含めた全館から職員が結集して「全館推進チーム」も立ち上がった。これまでの様々な検討が実を結ぼうとしており、鶴見大学や横浜にぎわい座とのコラボレーションによる取組みも動き出している。更に当館と川崎図書館による「新たな県立の図書館の整備に向けた現場からの提案」も2014年7月にまとめられた。

今後、多くの叢智を結集して、県立の図書館を更に魅力溢れる図書館とし、県民の期待にこたえていく。



本文編 参考文献

第1章から第6章共通

神奈川県立図書館・音楽堂 10 年史. 神奈川県立図書館・音楽堂, 1965
神奈川県立図書館・音楽堂 20 年史. 神奈川県立図書館・音楽堂, 1974
神奈川県立図書館音楽堂 30 年のあゆみ. 神奈川県立図書館・文化資料館・音楽堂, 1984
神奈川県立図書館・音楽堂 40 年の歩み:最近 10 年間を中心に. 神奈川県立図書館・音楽堂, 1994
神奈川県立図書館 50 年の歩み. 神奈川県立図書館, 2004
事業概要、事業年報、事業要覧. 神奈川県立図書館
当館の業務用資料

第2章

日本の図書館. 日本図書館協会, 1992~2013
自費出版資料の寄贈の受入れに関するガイドライン. 神奈川県立図書館, 2013. 10. 24
神奈川県立図書館資料収集要綱. 2003. 4. 1 施行, 2006. 1. 1 施行, 2014. 4. 1 施行
資料選定基準. 神奈川県立図書館, 2000. 11. 1 施行, 2006. 11. 16 施行, 2014. 4. 1 施行
神奈川県立図書館資料収集会議要領. 2003. 4. 1 施行, 2005. 4. 1 施行, 2010. 4. 1 施行
神奈川県立図書館資料除籍基準. 2003. 4. 1 施行, 2012. 3. 1 施行
神奈川県立図書館資料亡失等に伴う事務取扱要綱. 2003. 4. 1 施行, 2006. 1. 1 施行, 2008. 3. 18 施行
神奈川県立図書館資料亡失等に伴う代替資料選定及び弁償金額算定基準. 2003. 4. 1 施行, 2006. 1. 1 施行, 2010. 4. 1 施行
JAPAN/MARC データの提供について. 国立国会図書館, 2012
公開図書年代記号の顛末. 藤巻さつき. 神奈川県立図書館紀要 no. 9. 2011
神奈川県立図書館の「図書資料収集」を考える. 森由紀. 神奈川県立図書館紀要 no. 11. 2014
神奈川県立図書館における大学紀要:公共図書館で収集することの意義. 菅井紀子. 神奈川県立図書館紀要 no. 10. 2013
神奈川県内公共図書館等における雑誌の分担保存に関する申し合わせ. 2010. 4. 1 発効
「Web 版神奈川県内公共図書館購入継続雑誌・新聞総合目録」維持管理マニュアル改訂版. 2010. 12. 1 改訂

第3章

(旧) 神奈川県立図書館庁内各機関への資料貸出複写等事務取扱要領. 1995
神奈川県立図書館行政支援サービス実施要綱. 2010. 4. 1 施行
神奈川県立図書館行政支援サービス実施に係る事務取扱要領. 2008. 4. 1 施行
行政支援・高校連携とレファレンス:神奈川県立図書館の事例から. 平成 17 年度関東地区公共図書館協議会都県立図書館運営研究会発表資料, 2005

第4章

すべしやる 平成 17 年度の協力事業を振り返る. こあ no. 223. 2006
すべしやる 平成 18 年度の協力事業を振り返る. こあ no. 229. 2007
すべしやる KL-NET 加入から半年を経て. 小池正利. こあ no. 232. 2007
すべしやる 平成 19 年度の協力事業を振り返る. こあ no. 235. 2008
すべしやる 平成 20 年度の協力事業を振り返る. こあ no. 241. 2009
すべしやる 平成 23 年度の協力事業を振り返る. こあ 2012. 5. 17Web 版
県内公共図書館相互貸借検討会議要綱. 2011. 5. 1 施行
りぼうと 平成 24 年度協力事業実務担当者会議報告. こあ 2012. 5. 27Web 版
りぼうと 平成 25 年度神奈川県公共図書館館長会議報告. こあ 2013. 5. 15Web 版
緊急財政対策の取組結果(2014. 2. 7). 神奈川県.
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f417452/>(参照 2014-06-05)
神奈川県職員録. 神奈川県総務局組織人材部人材課. 2005-2014
県立図書館と県立高等学校による連携・協力事業の実施経過. 小松晶子, 矢嶋薫. 神奈川県立図書館紀要 no. 7, 2007
県立の図書館と県立高等学校による連携協力事業. 小松晶子. 神奈川県立図書館紀要 no. 10, 2013
神奈川県立の図書館の協力貸出・相互貸借と他機関との連携について: 学校、専門機関等との連携を中心に. 菅井紀子. 2011 年度(平成 23 年度)公立図書館における協力貸出・相互貸借と他機関との連携に関する報告書, 全国公共図書館協議会, 2012
神図協会報. 神奈川県図書館協会. No. 223, 225, 226. 2008-2009
神奈川県の社会教育行政. 視聴覚教育の展開:神奈川篇. 八木敏行. 全国視聴覚教育連盟, 1963
神奈川県視聴覚教育連盟会則 第 2 条. 1956
消すな紙芝居の灯. 神奈川新聞. 2000. 8. 8, 17 面
県視連かながわ no. 41. 神奈川県視聴覚教育連盟. 2012, p. 12

第5章

神奈川県生涯学習情報センター事業報告書 平成 11 年度~平成 25 年度.
神奈川県生涯学習情報センター
生涯学習要覧. 神奈川県生涯学習課
生涯学習文化財要覧. 神奈川県生涯学習文化財課

第6章

神奈川県立の図書館の将来方向について-新たな拠点図書館へむけて.
神奈川県立図書館, 2003. 11
神奈川県立図書館の将来像について(報告). 神奈川県立図書館, 2006. 1
今後の県立の図書館のあり方について(報告). 県立の図書館のあり方検討委員会, 2007. 3
新たな県立図書館・実施計画. [県立の図書館のあり方検討プロジェクトチーム], 2012. 3
明日の県立図書館づくりプロジェクトチーム アドバイザー・レクチャー. 神奈川県立図書館.
<http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/common/docs/advisor20131114pdf/>(参照 2014-8-21)
新たな県立の整備に向けられた現場からの提案. [県立の図書館司書部長の取りまとめによる], 2014. 7

資 料 編

年表	45
----	----

資料

1 基本理念（2014年5月現在）	54
2 運営方針の主な変遷	54
3 年度別予算・決算（1954～2013年度）	55
4 資料統計	56
4.1 図書資料受払所蔵状況（1954～2013年度）	56
4.2 逐次刊行物受払所蔵状況（1960～2013年度）	58
4.3 視聴覚資料保有状況（1954～2013年度）	59
5 利用統計	61
5.1 図書館利用状況（1954～2013年度）	61
5.2 障害者サービス（1984～2013年度）	62
5.3 文化資料館利用状況（1972～1993年度）	62
5.4 ホームページアクセス件数（1999～2013年度）	62
5.5 視聴覚資料利用状況－貸出点数－（1954～2013年度）	63
5.6 生涯学習情報センター利用状況（1997～2013年度）	64
6 協力貸出・協力車等運行状況	65
6.1 協力貸出の推移（1977～2013年度）	65
6.2 協力車、公用車運行状況（1977～2013年度）	66
7 条例、規則等（2014年5月現在）	67
7.1 神奈川県立図書館条例	67
7.2 神奈川県立の図書館の利用等に関する規則	67
7.3 神奈川県立図書館資料収集要綱	69
7.4 資料選定基準	70
8 主要刊行物発行状況（2003～2013年度）	72
9 展示一覧（2003～2013年度）	73
10 イベント一覧（2003～2013年度）	74
11 組織の推移（1954～2014年度）	77
12 館内レイアウトの変遷	82
13 建物・主要設備の状況（2014年7月現在）	86

出典等について

- 原則として『事業概要』『事業年報』『事業要覧』による。
- 上記によらない数値等については、次の資料により補い、それぞれ注記した。
 - ・『神奈川県立図書館・音楽堂10年史』（略：『10年史』）
 - ・『神奈川県立図書館・音楽堂20年史』（略：『20年史』）
 - ・『神奈川県立図書館・音楽堂30年のあゆみ』（略：『30年のあゆみ』）
 - ・『神奈川県立図書館・音楽堂40年の歩み』（略：『40年の歩み』）
 - ・『神奈川県立図書館50年の歩み』
 - ・『神奈川の図書館』神奈川県図書館協会
（書名変遷：『神奈川県の図書館』→『神奈川県公共図書館』→『神奈川の公共図書館』）
 - ・『日本の図書館』日本図書館協会
- 各統計の数値は、サービス等を実施していない場合は「」、数値が確認できない場合は「-」とした。

年表 2004年～2014年

年	記 事	
2004 (平成16)	1月11日	16ミリ映画会「あゝ野麦峠」開催
	1月21日	市町村図書館等職員研修・専門研修(図書館経営)開催
	1月29日	アドバイザー・レクチャー開催(講師:糸賀雅児)
	2月24日	市町村図書館等職員受入研修実施(厚木市立中央図書館職員1名)
	2月27日	点訳・録音ボランティア勉強会開催(3月3日まで全2日)
	3月9日	『郷土神奈川 第42号』刊行
	3月10日	神奈川県図書館情報ネットワーク・システム運営調整会議開催
	3月13日	16ミリ映写機操作技術認定講習会開催
	3月	『神奈川県立図書館紀要 第6号』刊行
	3月	『グレート・ワークスの世界』刊行
	3月31日	『箱根関係文献目録(地域資料目録・主題別シリーズ8)』刊行
	3月31日	本館内喫煙室廃止
	4月1日	資料総点検実施(4月9日まで)
	4月7日	公共図書館館長会議開催
	4月	県内図書館振興方策として逗子市文化・教育ゾーン整備事業に補助金助成(500万円)
	5月14日	16ミリ映写機操作技術認定講習会開催(3月12日まで 全5日)
	5月23日	16ミリ映画会「歌舞伎をみる」等開催
	6月1日	『平成16年度 事業概要』発行
	6月23日	市町村図書館等職員研修・基礎研修開催(7月9日まで全3日)
	8月4日	図書館見学ツアー開催(3月5日まで全5日)
	8月23日	16ミリ映画会「黒い雨」開催
	9月8日	神奈川県図書館情報ネットワーク・システム運営調整会議開催
	9月14日	図書館アドバイザーレクチャー開催(2005年1月14日まで全5日)
	10月6日	市町村図書館等職員研修・専門研修(レファレンス)開催(10月13日まで全2日 会場:川崎図書館)
	10月15日	神奈川県立図書館開館50周年記念展示「資料を未来に」等開催(12月26日まで)
	11月1日	『神奈川県立図書館50年の歩み』刊行
	11月2日	神奈川県立図書館開館50周年記念特別展示「県立図書館集書50年エピソード展」開催(11月17日まで)
11月6日	16ミリ映画会「チャップリン名作短編集」開催	
11月7日	16ミリ映画会「野越え山越え」等開催	
11月11日	神奈川県立図書館開館50周年記念式典開催	
11月20日	県立機関活用講座「スモールビジネス・コミュニティビジネス創業のすすめ」開催(12月11日まで全4日)	
11月27日	レコード鑑賞会「20世紀の後半を彩った名演奏家たち」開催	
12月2・3日	資料交換会開催	
12月7日	緊急地域雇用創出特別交付金を活用し県立図書館資料等整理事業実施(2005年3月11日まで)	
12月15日	市町村図書館等職員研修・専門研修(地域資料)開催	
12月18日	かながわ子どもワクワク体験プロジェクト開催	
2005 (平成17)	1月19日	ビジネスマンのための古典入門講座開催(3月5日まで全3日)
	1月23日	16ミリ映画会「秩父の夜祭り」等開催
	2月2日	市町村図書館等職員研修・専門研修(図書館経営)開催(2月3日まで全2日)
	2月5日	図書館を活用した情報検索講座開催(2月19日まで全2日)

年	記 事	
2005 (平成 17)	2月28日	神奈川県立図書館の活動評価平成15年度公表
	2月28日	『郷土神奈川 第43号』刊行
	4月1日	資料総点検実施(4月14日まで)
	4月1日	電話番号(代表番号:045-263-5900)変更
	4月8日	公共図書館館長会議開催
	4月15日	神奈川県立図書館情報ネットワーク・システム(KL-NET)第3次システム稼働 ・インターネットと携帯電話による所蔵検索サービスの提供とインターネット予約受付開始 ・横断検索による相互貸借管理システム運用開始 ・かながわデジタルアーカイブ「横浜絵・開化絵の世界」公開開始 ・本館新館連絡通路に行政刊行物等展示コーナーの設置 ・障害者サービス室を1階へ移設 ・県立高校連携協力事業実施(参加校111校)
	5月19日	16ミリ映写機操作技術認定講習会(市町村職員向け)開催
	5月22日	映画会開催(2月26日まで 全5回)
	6月1日	16ミリ映写機操作技術認定講習会(一般向け)開催(3月11日まで全3回)
	6月11日	『平成17年度 事業概要』発行
	6月22日	市町村図書館等職員研修・基礎研修開催(7月22日まで全3日)
	6月25日	「資料紹介講座・図書館蔵書物語」開催(2月1日まで全4回)
	7月2日	見学会「図書館再発見」開催(3月4日まで全5回)
	7月9日	「資料紹介講座・もっと知りたい神奈川県」開催(3月11日まで全3回)
	7月28日	県立高校インターンシップ実習開催(7月30日まで全3日)
	7月30日	かながわ子どもワクワク体験プロジェクト「小学生のためのかながわ歴史発見」開催
	8月6日	講座「情報検索入門—図書館まるごと活用術」開催(2月4日まで全4回)
	8月20日	「資料紹介講座・楽しさいっぱい視聴覚資料」開催
	9月28日	市町村図書館等職員研修・専門研修(レファレンス)開催(10月6日まで全2日)
	10月	生涯学習情報センターでのインターネット予約図書受取・返却サービス開始
10月22日	県立機関活用講座「図書館でJAZZ?ジャズ!!図書館でジャズ入門」開催(11月19日まで全4日)	
10月27日	「文字・活字文化の日」記念講演会「戦国武将の手紙を読み解く」開催	
11月5日	「古典入門講座」開催(12月3日まで全3回)	
12月7日	市町村図書館等職員研修・専門研修(地域資料)開催	
2006 (平成 18)	1月14日	「資料紹介講座・新聞もいろいろ」開催
	1月21日	レコード鑑賞会開催
	1月26日	裁判員制度普及講座「裁判員制度を学ぶ」開催
	2月2日	市町村図書館等職員研修・基礎研修(図書館経営)開催
	2月2日	市町村図書館等職員研修・専門研修開催
	2月28日	『郷土神奈川 第44号』刊行
	3月	『入門グレート・ブックス(西洋文学編)』刊行
	4月1日	資料総点検実施(4月7日まで)
	4月1日	神奈川県立図書館組織規則の一部改正(4部9課制)
	4月6日	公共図書館館長会議開催
	4月8日	本館閲覧室にビジネス情報コーナー・調査報告書コーナー・地方史コーナー・法律情報コーナーを新設
	4月8日	利用者用オンラインデータベース「日経テレコン21」提供開始

	4月	神奈川県中小企業診断士協会との連携による「ビジネス相談」開始
	4月	神奈川大学、鶴見大学と相互貸借協定の締結
	4月20日	県民公開講座「図書館データベース検索講習会」開催（毎月第1木曜日全12日）
	4月	県民公開講座「資料紹介講座」開催（毎月第2土曜日全10日）
	4月	県民公開講座「図書館まるごと活用術」開催（毎月第4土曜日全8日）
	4月27日	図書館見学会「図書館探検」開催（毎月第3木曜日全12日）
	5月12日	16ミリ映写機操作技術認定講習会開催（3月3日まで全4日）
	5月13日	資料紹介講座「『地方史』で人物を調べる」開催（2月10日まで全2日）
	5月20日	映画会開催（3月17日まで全5日）
	6月1日	『平成18年度 事業概要』発行
	6月10日	県立機関活用講座「戦国・天下人の時代を読み解く」開催（7月1日まで全4日）
	7月8日	資料紹介講座「かながわ人物伝」（11月11日まで全2日）
	7月27日	裁判員制度普及講座「裁判員制度を学ぶ」開催（11月30日まで全2日）
	8月1日	県立高校インターンシップ実習開催（4日まで全4日）
	8月12日	資料紹介講座「雑誌遼乱」開催
	8月24日	「古典に親しむ グレート・ブックス・セミナー」開催（11月11日まで全4日）
	8月26日	かながわ子どもワクワク体験プロジェクト「みる・きく・たのしむ昔の子どもの遊び」開催
	9月9日	資料紹介講座「戦中出版物色とりどり」開催
	9月30日	インターネットによる貸出延長開始
	10月14日	資料紹介講座「レコードの魅力ふたたび」開催
	10月27日	「文字・活字文化の日」講演会「漱石入門 坊ちゃんと赤シャツ」開催
	11月4日	レコードコンサート・鑑賞会開催（2月3日まで全4日）
	11月26日	手づくり紙芝居コンクール開催（11月26日まで全2日）
	12月9日	資料紹介講座「辞典・事典百態」開催
2007 (平成19)	1月13日	資料紹介講座「当世評判本めぐり」開催
	2月28日	『郷土神奈川 第45号』刊行
	2月	『神奈川県立図書館紀要 第7号』刊行
	3月10日	資料紹介講座「新聞百科」開催
	3月14日	横浜国立大学、東京工業大学のKL-NET参加
	3月	『入門グレート・ブックス（日本文学編）』刊行
	4月1日	資料総点検実施（4月7日まで）
	4月5日	神奈川県公共図書館長会議開催
	4月8日	展示「創刊雑誌に見る戦中戦後」開催（6月13日まで）
	4月14日	資料紹介講座開催（3月8日まで全12日）
	4月19日	講座「誰でもできる図書館蔵書検索講習会」開催（3月6日まで全12日）
	4月26日	講座「図書館探検」開催（3月20日まで全12回）
	4月28日	講座「図書館まるごと活用術<図書館のノウハウ全公開>」開催（3月22日まで全9日）
	5月	『郷土資料の森（39号）』終刊
	5月9日	講座「聞蔵・日経ニューステレコン21 検索講習会」開催（2月13日まで全4日）
	5月19日	映画会開催（2月16日まで全4日）
	6月1日	『平成19年度 事業概要』発行
	6月15日	展示「御上洛錦絵を観る」開催（8月8日まで）
	6月16日	16ミリ映写機操作技術認定講習会開催（3月1日まで全4日）
	6月27日	裁判員制度普及講座「裁判員制度を学ぶ」開催（3月7日まで全4日）
	7月7日	レコードコンサート・鑑賞会開催（1月19日まで全4日）

年	記 事	
2007 (平成19)	7月28日	かながわ子どもワクワク体験プロジェクト「ビジュアル日記を作る！！ 小学生のための製本講座」開催
	7月31日	講座「古典に親しむ グレート・ブックス・セミナー」開催（12月1日まで全4日）
	8月10日	展示「文庫と新書でたどる昭和のあゆみ」開催（10月10日まで）
	8月12日	『かながわ資料室ニュースレター』（隔月）創刊
	9月14日	神奈川開港・開国 150 周年メモリアルイベント 記念展示「幕末・開港・維新～神奈川の体験」開催（10月10日まで）
	9月15日	県立機関活用講座「時代小説の世界」開催（講師：関川夏央氏 10月6日まで全4回）
	10月12日	展示「生誕100年記念 井上靖」開催（12月12日まで）
	10月27日	「文字・活字文化の日」講演会「生誕100年 井上靖 人と作品」開催
	11月21日	地域資料交換会開催
	12月14日	展示「仮名垣魯文と明治期の出版物」開催（2月13日まで）
2008 (平成20)	2月15日	展示「本の病院、診療中」開催（5月7日まで）
	2月28日	『郷土神奈川 第46号』刊行
	3月	『かながわの歴史文庫55』刊行
	4月1日	神奈川県立の図書館の利用に関する規則の一部改正（月曜祝日開館の実施） 複写申込書の書式変更
	4月1日	資料総点検実施（4月7日まで）
	4月4日	公共図書館館長会議開催
	4月14日	県立の図書館ホームページデザイン一新
	4月19日	資料紹介講座開催（3月14日まで全13日）
	4月20日	講座「誰でもできる図書館蔵書検索講習会」開催（3月4日まで全12日）
	4月26日	講座「図書館まるごと活用術＜図書館のノウハウ全公開＞」開催（3月21日まで全12日）
	5月9日	展示「浮世絵、銅版画、イラストにみる開港期の人物と風景」開催（7月9日まで）
	5月15日	講座「図書館探検ツアー」開催（3月19日まで全6日）
	5月17日	映画会開催（2月21日まで全3日）
	5月18日	講座「新聞記事検索講習会」開催（2月11日まで全4日）
	6月1日	『平成20年度 事業概要』発行
	6月21日	16ミリ映写機操作技術認定講習会開催（3月7日まで全4日）
	7月	飯田九一文庫創設
	7月2日	出前講座（試行）開催（11月21日まで全8日）
	7月11日	展示「ベストセラーズ文庫にみる近代日本の戦争」開催（9月10日まで）
	7月27日	かながわ子どもワクワク体験プロジェクト「小学生のためのやさしい製本講座」開催
	7月30日	裁判員制度普及講座「裁判員制度を学ぶ」開催（1月29日まで全2日）
	8月22日	大人のための読書会開催（10月17日まで全3日）
	9月12日	展示「新聞小説 報道と創作の交流」開催（11月12日まで）
9月23日	展示「飯田九一文庫特別展示会」開催（10月2日まで）	
10月26日	「文字・活字文化の日」講演会「＜中国伝奇小説の魅力に触れる＞魚への変身の物語」開催	
11月1日	レコードコンサート・鑑賞会開催（1月17日まで全2日）	
11月14日	展示「源氏物語千年紀」開催（1月7日まで）	
11月15日	県立機関活用講座 図書館カレッジ「空間から読む源氏物語」開催（12月20日まで全4日）	
11月20日	地域資料交換会開催	
2009 (平成21)	1月9日	展示「神奈川の図書館のあゆみ」開催（3月11日まで）
	2月28日	『郷土神奈川 第47号』刊行

	3月1日	元紅葉ヶ丘高等職業技術校を収蔵庫として利用開始
	3月13日	展示「図書館の保存ABC」開催（3月31日まで）
	3月	『神奈川県立図書館紀要 第8号』刊行
	3月31日	電子掲示板WANTED廃止、相互貸借管理システムに統合
	4月1日	資料総点検実施（4月7日まで）
	4月7日	公共図書館館長会議開催
	4月8日	利用者用オンラインデータベース・ヨミダス歴史館（読売新聞社）提供開始
	4月8日	生涯学習情報センターでオンラインサービスの開始
	4月	専修大学と「神奈川県立の図書館の図書館カード携帯者への大学図書館来館利用サービス」協定締結
	4月8日	神奈川県公共図書館長会議開催
	4月16日	講座「図書館大公開」開催（10月3日まで全3日）
	4月23日	講座「本が書架に並ぶまで」開催（10月10日全2日）
	5月15日	神奈川開港・開国150周年メモリアルイベント展示「絵図・地図で見る神奈川のかたち・今昔」開催（7月8日まで）
	5月20日	タイアップ講座開催（1月28日まで全4日）
	5月21日	講座「蔵書検索のツボ、教えます」開催（12月19日まで全4日）
	5月28日	講座「入門かながわ学」開催（2月6日まで全5日）
	5月30日	所蔵名作映画会開催（3月13日まで全4日）
	6月1日	『平成21年度 事業概要』発行
	6月4日	講座「図書の調べ方入門」開催（12月5日まで全2日）
	6月13日	講座「クラシック&ジャズレコードの森へ」開催（1月9日まで全3日）
	6月18日	講座「新聞記事を探す」開催（2月20日まで全5日）
	6月20日	「16ミリ映写機操作技術認定講習会」開催（2月3日まで全4回）
	6月25日	講座「大切な資料を守るために」開催（1月23日まで全2日）
	7月11日	講座「テーマで情報検索」開催（2月27日まで全4日）
	8月23日	かながわ子どもワクワク体験プロジェクト「小学生のための製本講座」開催
	9月3日	講座「雑誌論文を探す」開催（3月6日まで全2日）
	9月5日	講座「大人のための読書会」開催（12月3日まで全4日）
	9月24日	講座「図書館ネットワークの輪へ」開催（3月20日まで全2日）
	10月25日	「文字・活字文化の日」記念講演会「奇抜な素材の「美しい」本」開催
	10月29日	講座「ACC文庫紹介：横浜アメリカ文化センターの歴史と資料」開催
	10月31日	レコード鑑賞会開催（1月16日まで全2日）
	11月1日	講座「ワンテーマ蔵書ナビ」開催
	11月7日	図書館カレッジ「雑誌から見た明治の青春」開催（11月28日まで全4回）
	11月26日	地域資料交換会開催
2010 (平成22)	2月28日	『郷土神奈川 第48号』刊行
	3月	『飯田九一文庫目録』刊行
	3月31日	国際資料室閉室
	4月1日	神奈川県立図書館組織規則の一部改正（2部6課1駐在事務所制）
	4月1日	資料総点検実施（4月11日まで）
	4月8日	神奈川県公共図書館長会議開催
	4月12日	神奈川県図書館情報ネットワーク・システム（KL-NET）第4次システム稼働
	4月12日	オンラインデータベース「ヨミダス歴史館」（読売新聞社）利用開始
	5月19日	「蔵書検索ガイド（検索機で実習）」開催（3月9日まで全4回）

年	記 事	
2010 (平成22)	5月20日	本館屋上に太陽光発電設備設置
	5月26日	図書館大公開「全館ツアー&お宝紹介」開催
	6月1日	『平成22年度 事業概要』発行
	6月5日	「16ミリ映写機操作技術認定講習会」開催(9月11日まで全2回)
	6月9日	図書館大公開「連携・協力の仕事紹介」開催
	6月16日	図書館大公開「受入・整理の仕事紹介」開催
	6月23日	図書館大公開「資料保存の仕事紹介」開催
	7月7日	「図書の調べ方入門」開催
	7月14日	「美術資料の調べ方入門」開催
	7月29日	子ども向け映画会「宮沢賢治名作童話プラスワン」開催
	8月5日	夏休みかながわ子どもワクワク体験開催
	8月18日	「新聞記事検索実習(日経テレコン21)」開催
	9月15日	「新聞記事検索実習(聞蔵)」開催
	9月29日	資料紹介講座「九転十起の男」開催
	10月1日	生涯学習情報センターで図書館カード発行サービス(利用者登録)の開始
	10月9日	国民読書年記念講演「文学をどう読むか」開催
	10月20日	県立の図書館ブログ「司書の出番!」開設
	10月24日	文字・活字文化の日記念講演「源氏の筆跡論」開催
	10月27日	資料紹介講座「マーラー生誕150周年に向けて」開催
	11月3日	タイアップ講座「金沢文庫今昔」開催
11月9日	映画会「白い馬 ほか」開催	
11月13日	図書館カレッジ「万葉集の世界観を探る」開催(12月4日まで全4回)	
12月1日	所蔵名作映画会「ドン松五郎の生活」開催	
12月8日	資料紹介講座「江戸時代のかながわを調べる」開催	
2011 (平成23)	1月	県内高等学校相互貸借システム稼働
	1月15日	レコード鑑賞会「ワーグナーを聴く」開催
	1月19日	「新聞記事・雑誌論文の調べ方」開催
	2月2日	資料紹介講座「大山とその信仰」開催
	2月4日	レファレンス協同データベースの被参照件数が多いため、国立国会図書館からの礼状受領
	2月9日	「統計の調べ方入門」開催
	2月23日	所蔵名作映画会「典子は、今」開催
	2月27日	法律講座「どうする?親の財産管理」開催
	3月1日	『郷土神奈川 第49号』刊行
	3月1日	郵送登録・宅配貸出サービス開始
	3月2日	資料紹介講座「言海」開催
	3月11日	東日本大震災発生のため15時30分で閉館(12日は一部休館、13日から通常開館)
	3月	『神奈川県立図書館紀要 第9号』刊行
	4月1日	資料総点検実施(4月7日まで)
	4月8日	公共図書館館長会議開催
	4月	ビジネス図書館推進事業(住民生活に光を注ぐ交付金)による図書整備 (2012年度継続事業)
	4月27日	図書館大公開「全館ツアー&お宝紹介」開催(1月14日まで全2日)
	5月15日	講演会「電子書籍の時代は本当に来るのか」開催
	5月18日	蔵書検索ガイド開催(12月10日まで全2日)

	5月18日	県視聴覚教育連盟理事会・総会・記念講演会実施
	5月25日	図書館大公開「本が潮に並ぶまで」開催
	6月2日	県視聴覚教育連盟実務研修会開催
	6月22日	図書館大公開「本を保存するために」開催
	6月25日	16ミリ映写機操作技術認定講習会開催（9月10日まで全2日）
	7月1日	『平成23年度 事業年報』発行
	7月6日	図書館大公開「図書館ネットワークの舞台裏」
	7月26日	高校生インターンシップ（7月29日まで4日間）
	7月28日	高校連携研修会開催
	7月30日	県民公開講座「金融・経済をどう読むか」開催（9月10日まで全2日）
	7月31日	夏休みかながわ子どもワクワク体験「子ども向け映画会」開催（8月2日まで全2日）
	8月7日	映画会「ジュノー」開催
	8月24日	資料紹介講座「法令の探し方入門」開催
	8月31日	新聞記事検索実習「日経テレコン21」開催
	9月14日	資料紹介講座「図書の探し方入門」開催（3月17日まで全2回）
	9月18日	講演会「神奈川県立近代美術館60年のあゆみ 日本近代の洋画」開催
	10月7日	本館外壁改修及び新館屋上防水工事（3月15日まで）
	10月19日	新聞記事検索実習「ヨミダス歴史館」開催
	10月22日	講演会「文字・活字文化の日記念講演 活字文化の今後」開催
	11月5日	県立機関活用講座・図書館カレッジ「聴く・見る・感じる 神奈川の名建築」（11月26日まで全4回）
	11月9日	図書館総合展開催（11日まで3日間）
	12月1日	高校連携職員研修「美術資料の調べ方」開催
	12月7日	所蔵名作映画会「マルセルの城」開催
	12月8日	アドバイザー・レクチャー「民間委託の実際」開催
	12月10日	レコード鑑賞会「リスト生誕200年の最後を飾って」開催
	12月14日	資料紹介講座「明治以降のかながわの調べ方」開催
2012 (平成24)	1月25日	資料紹介講座「論文・記事の探し方入門」開催
	1月27日	講演会「明日からあなたも経営者！」開催
	2月1日	音楽堂建築見学会開催
	2月8日	資料紹介講座「漢詩の探し方入門」開催
	2月9日	アドバイザー・レクチャー「災害と図書館 県立図書館の役割」開催
	2月18日	所蔵名作映画会「高瀬舟」他開催
	2月22日	資料紹介講座「「地図」でよむ」開催
	2月28日	『郷土神奈川 第50号』刊行
	2月	県立の2図書館合同企画『社史と伝記にみる日本の実業家』刊行
	3月1日	県立公文書館と共同事業「神奈川デジタル・アーカイブ」提供開始
	3月7日	講演会「須賀田儀太郎を聴く会」開催
	3月13日	神奈川県視聴覚教育連盟解散
	3月15日	本館外壁ブロックを解体・復元
	4月1日	資料総点検実施（4月7日まで）
	4月5日	公共図書館館長会議開催
	4月11日	はじめての方のためのパソコン講座開催（駐在）（3月12日まで全15日）
	4月25日	蔵書検索ガイド（検索機で実習）開催（12月5日まで全2日）
	4月27日	新採用職員研修「政策形成のための図書館活用」

年	記 事	
2012 (平成24)	5月8日	「県立の図書館と県立高校による連携・協力事業」研修会開催（1月24日まで全4日）
	5月11日	講座等に使えるアイスブレイキング体験開催（駐在）
	5月23日	図書館大公開「全館ツアー&お宝紹介」開催（3月9日まで全3日）
	5月30日	藤沢市南市民図書館出前研修開催「県立の図書館の概要、レファレンスの基礎について」
	5月31日	図書館大公開「本が棚に並ぶまで」開催
	6月20日	レコード鑑賞会「ワーグナー 合唱の魅力」開催
	6月28日	市町村図書館等職員研修<基礎>開催（7月4日まで全2日）
	6月30日	『平成24年度 事業年報』刊行
	7月	情報紙『Mゾーン』発行（3月まで6回発行）
	7月11日	図書館大公開「図書館ネットワークの舞台裏」開催
	8月6日	生涯学習指導者研修（読書活動実践コース）（情報提供）開催
	8月8日	図書館大公開「本を保存するために」開催
	8月22日	資料紹介講座「著作権よもやま話」開催
	9月12日	資料紹介講座「図書の探し方入門」開催
	9月14日	展示「神奈川の自慢したい風景～九都県市立図書館企画展～」開催（11月7日まで）
	9月19日	資料紹介講座「大学紀要って何!？」開催
	10月17日	レコード鑑賞会「ビートルズの世界」開催
	10月27日	「子ども読書活動推進フォーラム」開催
	10月27日	文字・活字文化の日記念講演「知っているようで知らない『古事記』 ～『古事記』の歌の世界」開催
11月1日	市町村図書館等職員研修<専門>開催（11月29日まで全2日）	
11月3日	県立機関活用講座・図書館カレッジ「神奈川の近代建築—その細部を読みとく—」開催（11月24日まで全4回）	
11月14日	新聞記事検索実習（一人一台PC）「ヨミダス歴史館」入門開催	
12月1日	特別展示「友好の大旆（たいはい）とマリア・ルス号事件」開催（12月12日まで）	
12月13日	「図書館アドバイザー・レクチャー」実施	
2013 (平成25)	1月	県内公共図書館障害者サービス担当者会議（共催：神奈川県視覚障害者情報提供施設連絡協議会）開催
	1月23日	資料紹介講座「新聞記事・雑誌論文の探し方入門」開催
	1月30日	資料紹介講座「源氏・若紫の本いろいろ」開催
	2月	「クリッピング!」開設
	2月14日	「図書館アドバイザー・レクチャー」実施
	2月15日	県立図書館・県立公文書館合同展示「記録に見る関東大震災・東日本大震災」開催
	2月20日	資料紹介講座「視聴覚資料の探し方入門」開催
	2月27日	資料紹介講座「神奈川の東海道」開催
	2月28日	『郷土神奈川 第51号』刊行
	2月	『神奈川県立図書館紀要 第10号』刊行
	3月1日	生涯学習情報システム（PLANET かながわ）更新
	3月13日	レコード鑑賞会「ブラームスの午後」開催
	3月31日	図書館新館地下食堂扇寿閉店
	4月1日	資料総点検実施（4月8日まで）
	4月5日	公共図書館館長会議開催
	4月24日	「蔵書検索ガイド（検索機で実習）」開催（12月4日まで全2日）
	5月10日	展示「婦人雑誌にみる近代日本～明治から昭和前期にかけて～」（8月7日まで）
	5月15日	図書館大公開「全館ツアー&お宝紹介」開催（12月7日まで全2日）
	5月18日	資料紹介講座「横浜アメリカ文化センターの歴史と資料—ACC 文庫紹介—」開催

	6月22日	「16ミリ映写機操作技術認定講習会」開催（9月11日まで全2日）
	6月26日	図書館大公開「本が潮に並ぶまで」開催
	7月17日	『平成25年度 事業要覧』刊行
	7月17日	図書館大公開「図書館ネットワークの舞台裏」開催
	7月24日	レコード鑑賞会「ヴェルディ生誕200年」開催
	8月9日	展示「神奈川の東海道と宿場」開催（11月13日まで）
	8月21日	資料紹介講座「著作権豆知識 基礎編」開催
	9月4日	図書館大公開「本を保存するために」開催
	9月14日	資料紹介講座「図書の調べ方入門」開催
	10月9日	資料紹介講座「貴重な音楽会プログラムありますー野村光一文庫紹介ー」開催
	10月12日	ビジネス支援講座「未来のワタシ、はじめます。やまとなでしこ起業塾」開催
	10月26日	文字・活字文化の日記念講演「辞書を読む 一言の葉茂る大樹の下でー」開催
	11月9日	図書館カレッジ「スペインの歴史と旅」開催（11月30日まで全4日）
	11月14日	図書館アドバイザー・レクチャー実施
	11月15日	展示「かながわと映画 ～小津安二郎生誕110周年記念～」開催（2月13日まで）
	11月20日	「新聞記事データベース検索実習（一人一台PC）「ヨミダス歴史館」入門」開催
	11月27日	展示関連講座「ヨコシネ90年の歩み～フィルム編集からみた神奈川～」開催
	12月7日	図書館大公開「全館ツアー&お宝紹介」開催
	12月14日	「法律情報データベース検索実習 - D1-Law.com 検索講習会」開催
	12月21日	神奈川県子ども読書活動推進フォーラム講演「絵本はまだ子どもだけのものだと思いますか？」開催
2014 (平成26)	1月18日	「神奈川県立図書館 利用者との懇談会」開催
	1月23日	レファレンス協同データベースの被参照件数が多いため、国立国会図書館からの礼状受領
	1月25日	資料紹介講座「雑誌論文・記事の探し方入門」開催
	2月8日	レコード鑑賞会「村上春樹の音楽」開催
	2月12日	資料紹介講座「神奈川の新聞」開催
	2月14日	県立図書館60周年記念展示コレクション紹介シリーズ①「ベストセラーズ文庫」（5月7日まで）
	2月14日	共同展示 県立図書館・県立公文書館「新幹線が拓いた半世紀 ～「夢の超特急」その軌跡と未来～」開催（3月31日まで）
	2月14日	国立国会図書館「デジタル化資料送信サービス」提供開始
	2月26日	資料紹介講座「著作権豆知識 時事編」開催
	2月28日	『郷土神奈川 第52号』刊行
	2月28日	『神奈川県立図書館紀要 第11号』刊行
	3月8日	神奈川県立図書館・音楽堂60周年記念企画：講演会「建築と音楽が出会うところ」開催
	4月1日	資料総点検実施（4月7日まで）
	4月8日	公共図書館館長会議開催
	5月10日	県立図書館60周年記念展示コレクション紹介シリーズ②「野村光一文庫」（8月6日まで）
	5月17日	図書館大公開「図書館ツアー&お宝紹介」開催
	5月28日	図書館大公開「本が潮に並ぶまで」開催
	6月4日	データベース検索実習（一人一台PC）「日経テレコン（日経限定メニュー版）」入門開催
	6月11日	レコード鑑賞会「村上春樹の音楽」開催
	6月18日	16ミリ映写機操作技術認定講習会開催
	7月16日	図書館大公開「図書館ネットワークの舞台裏」開催
	7月30日	デジタルアーカイブを活用した「神奈川県立図書館のグッズ」公開

1 基本理念

<p>基本理念</p> <p>神奈川県立の図書館は 「知」を集積し、新たな「知」を育む「価値創造」の場として、 神奈川の文化と産業の発展、社会づくりに寄与します。</p> <p style="text-align: right;">2014. 5. 16</p>
--

2 運営方針の主な変遷

年度	基本方針	
1993 (H5)	人生80年時代を迎え、県民の高度で多様な学習ニーズに対応できる生涯学習の中核施設として、その機能を強化するとともにより質の高い事業の推進を図る。	
1997 (H9)	かながわ新総合計画21に基づき、県民の高度で多様な学習ニーズに対応できる生涯学習の中核施設として、県としての役割を踏まえながら、社会科学、人文科学の資料・情報に特色を持つ課題解決型のリサーチ・ライブラリーへの新展開をめざす。	
1998 (H10)	「かながわ新総合計画21」に基づき、県民の高度で多様な学習ニーズに対応できる生涯学習の中核施設として、県立図書館としての役割を踏まえながら、社会科学、人文科学の資料・情報に特色を持つ課題解決型のリサーチ・ライブラリーへの展開を目指すとともに、市町村図書館等と相互に密接な連携を保ちながら、全県域を対象とした図書館サービスの一層の向上を図る。	
2004 (H16)	県民の学習ニーズの高度化、多様化に対応するため、県立図書館の生涯学習中核施設としての位置付け及び役割を踏まえ、社会科学や人文科学の分野で特色をもつ調査研究・課題解決型リサーチ・ライブラリーとして、県立川崎図書館とともに、市町村図書館等との連携の推進を図り、県民の教養と文化等の発展に寄与できるよう、図書館サービスの向上を図る。	
2005 (H17)	県民の学習課題・ニーズの高度化・多様化に応え、社会科学や人文科学の分野に特色を有する課題解決型リサーチ・ライブラリーとして、図書館サービスの充実・強化を図るとともに、県域における図書館施設の中核拠点として県立川崎図書館とともに市町村立図書館や大学図書館との連携強化を図って県民の学習環境の総合的整備促進に貢献する。	
2010 (H22)	県民の学習課題・ニーズの高度化・多様化に応え、社会科学や人文科学の分野に特色を有する課題解決型リサーチ・ライブラリーとして、機能別新組織の能力を発揮し図書館サービスの一層の充実を図る。また、県立川崎図書館とともに、県内市町村立図書館や大学図書館等との連携強化を図るとともに、あらたに生涯学習情報の提供機能との相乗的効果を目指し、県民の学習環境の総合的整備、促進に貢献する。	
	ミッション	基本方針
2011 (H23)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 時代の潮流を的確にとらえた資料・情報を収集し、現在（いま）を生きるための「有用な知」を提供します。 ○ 図書館資料とネットワーク情報資源の知を主体的に編集・加工し、利用者の価値創造に貢献します。 ○ ICT（情報通信技術）とネットワークを活用して図書館への多様なアクセスを確保し、県民への機会均等なサービス実現を追求します。 	—
2012 (H24)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 時代の潮流を的確にとらえた資料・情報を収集し、現在（いま）を生きるための「有用な知」を提供します。 ○ 図書館資料とネットワーク情報資源の知を主体的に編集・加工し、利用者の価値創造に貢献します。 ○ ICT（情報通信技術）とネットワークを活用して図書館への多様なアクセスを確保し、県民への機会均等なサービス実現を追求します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会・人文系の資料・情報を積極的に収集・提供し、「調査研究活動支援」機能を高め、「生涯学習支援」「ビジネス支援」「行政支援」サービスを展開する。 ○ 多彩で魅力的な館内展示、県民公開講座、ビジネス支援相談などを積極的に企画・開催し、様々なメディアを活用した広報を通じて県立図書館の利用促進を図る。 ○ 市町村立図書館・大学図書館・県立高校図書館、各種団体とより密接な連携を図り、県域全体の図書館サービスを充実させる。 ○ 図書館活動について常に「計画→実施→評価」のサイクルで見直しを図り、運営の持続的な改善を行う。
2014 (H26)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 時代の潮流を的確にとらえた資料・情報を収集し、現在（いま）を生きるための「有用な知」を提供します。 ○ 図書館資料とネットワーク情報資源の知を主体的に編集・加工し、利用者の価値創造に貢献します。 ○ ICT（情報通信技術）とネットワークを活用して図書館への多様なアクセスを確保し、県民への機会均等なサービス実現を追求します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会・人文系の資料・情報を積極的に収集・提供し、県民に役立つ「調査研究活動支援」、「生涯学習支援」、「行政支援」につながるサービスを展開する。 ○ 図書館資料の存在をアピールし、図書館の活用を促進する目的で行う館内展示や県民公開講座などを積極的に企画・開催し、県立の図書館ホームページを活用した発信に努め、多彩で魅力的な「知の機会」を提供する。 ○ 市町村立図書館の支援に力を注ぎ、大学図書館・県立高校図書館、県立機関等とより密接な連携を図って、県域全体の図書館サービスを充実させる。 ○ 図書館活動について常に「計画→実施→点検（評価）→見直し」のサイクルで見直しを図り、運営の持続的な改善を行う。県民、利用者の意見・要望を真摯に受け止め、「開かれた図書館」の創造に努める。

3 年度別予算・決算(1954～2013年度)

(単位：千円)

	当初予算額		決算額	
	図書館費	資料費	図書館費	資料費
1954	53,886	—	83,340	10,234
1955	24,901	6,256	38,056	10,210
1956	37,835	6,156	—	—
1957	—	—	—	—
1958	—	—	38,088	7,424
1959	49,266	8,273	—	—
1960	—	—	53,930	12,710
1961	52,525	14,590	49,377	11,020
1962	55,327	12,097	75,516	16,351
1963	88,849	17,018	31,248	12,897
1964	34,975	11,798	74,478	11,730
1965	86,535	11,805	125,406	13,847
1966	89,349	16,000	153,460	14,931
1967	132,434	15,705	78,640	15,474
1968	75,245	16,315	—	—
1969	—	—	137,287	23,765
1970	158,493	31,030	158,878	28,431
1971	193,910	33,755	188,345	36,873
1972	234,088	37,120	—	—
1973	—	—	312,612	47,817
1974	400,450	56,902	366,145	58,260
1975	402,809	47,638	424,311	49,183
1976	423,842	35,225	439,465	35,971
1977	474,027	38,908	451,248	38,887
1978	488,074	41,575	474,078	41,546
1979	510,988	49,675	469,404	49,165
1980	516,357	63,656	649,717	65,424
1981	685,824	72,402	721,327	74,813
1982	728,438	74,408	757,000	71,888
1983	749,705	67,423	780,251	71,961

	当初予算額		決算額	
	図書館費	資料費	図書館費	資料費
1984	843,323	64,977	686,103	60,736
1985	708,192	62,736	762,326	77,798
1986	759,608	72,629	752,791	60,961
1987	766,848	56,438	871,973	59,263
1988	901,040	61,984	920,616	65,435
1989	979,205	69,942	1,000,717	73,175
1990	1,020,792	71,443	1,266,791	76,301
1991	1,342,416	76,670	1,330,481	86,620
1992	1,310,338	72,373	1,292,058	72,254
1993	1,270,836	62,972	1,252,263	61,019
1994	1,129,269	45,279	544,495	46,613
1995	485,061	38,839	396,357	39,891
1996	386,824	36,641	390,693	36,700
1997	396,606	44,409	397,178	45,638
1998	384,919	59,663	382,856	60,716
1999	426,850	43,385	355,162	44,138
2000	309,249	43,685	296,214	43,784
2001	310,141	40,503	282,954	40,143
2002	275,441	39,641	271,282	40,320
2003	267,434	39,487	262,428	39,780
2004	273,333	37,847	252,644	38,817
2005	231,784	39,157	232,110	39,374
2006	224,961	37,657	232,110	39,374
2007	224,961	37,657	220,340	37,657
2008	224,961	37,657	211,492	36,283
2009	222,436	34,028	208,815	36,483
2010	201,219	32,104	192,211	33,721
2011	212,682	33,507	359,820	56,599
2012	242,972	29,872	376,538	64,942
2013	323,305	26,856	317,979	26,232

[出典] 1954～2011年度予算額・決算額、2012年度予算額は『日本の図書館』、2012年度決算額、2013年度予算額・決算額は業務用資料による。

※決算額が当初予算額を上回る年度については、決算額に補正予算が含まれる。

4 資料統計

4.1 図書資料受払所蔵状況(1954～2013年度)

(単位：冊)

項目 年度	受 入					払出	差引	年度末 所蔵冊数	館外奉仕		
	合計	内訳							受入	払出	蔵書数
		購入	寄贈	管理換	その他						
1954	16,907	15,296	1,611	0	0	0	16,907	16,907	6,411	-	6,411
1955	13,282	11,312	1,349	621	0	0	13,282	30,189	4,607	-	11,030
1956	8,863	7,484	1,085	162	132	20	8,843	39,032	2,430	-	13,460
1957	12,257	10,674	936	134	513	0	12,257	51,289	5,767	-	19,227
1958	10,387	9,208	759	18	402	13	10,374	61,663	5,445	252	24,420
1959	8,899	6,597	1,453	6	843	1,231	7,668	69,331	7,702	979	31,143
1960	8,275	6,331	1,112	28	804	440	7,835	77,166	8,697	324	39,516
1961	8,410	5,100	1,695	3	1,612	659	7,751	84,917	9,431	933	48,014
1962	7,595	5,432	1,218	10	935	0	7,595	92,512	8,656	1,730	54,940
1963	6,845	5,161	1,101	14	569	442	6,403	98,915	8,454	2,349	61,045
1964	6,142	3,670	896	0	1,576	260	5,882	104,797	6,583	1,121	66,507
1965	6,221	4,366	1,055	2	798	174	6,047	110,844	7,662	3,918	70,351
1966	16,236	4,841	10,778	1	616	619	15,617	126,461	7,506	1,526	76,331
1967	6,932	4,878	1,385	18	651	690	6,242	132,703	6,992	2,377	80,946
1968	7,135	4,972	1,222	138	803	215	6,920	139,623	8,324	2,456	86,814
1969	10,254	4,919	-	-	0	571	9,683	149,306	16,089	154	102,749
1970	8,544	5,898	1,822	0	824	70	8,474	157,780	19,016	5,591	116,174
1971	7,851	5,553	1,576	0	722	159	7,692	165,472	24,491	11,031	129,634
1972	9,247	7,139	950	100	1,058	0	9,247	174,719	16,661	7,434	138,861
1973	10,837	8,985	1,093	0	759	17,472	-6,635	168,084	25,044	6,879	157,026
1974	11,317	9,418	1,263	120	516	891	10,426	178,510	32,032	4,341	184,717
1975	7,526	5,180	1,588	42	716	780	6,746	185,256	23,154	98	207,773
1976	7,852	4,737	2,816	0	297	331	7,521	192,777	17,974	14,803	210,944
1977	7,675	5,576	1,756	0	343	282	7,393	200,170	18,036	14,824	214,156
1978	8,197	5,711	1,818	443	225	271	7,926	208,096	18,131	15,656	216,631
1979	7,906	5,513	2,173	45	175	330	7,576	215,672	17,664	19,610	214,685
1980	11,240	9,326	1,824	21	69	561	10,679	228,607	14,641	18,544	210,782
1981	15,210	12,721	2,305	176	8	411	14,799	243,406	11,613	21,629	200,766
1982	14,080	12,002	1,831	83	164	620	13,460	256,866	10,080	22,546	188,300
1983	13,736	10,815	2,178	626	117	566	13,170	270,036	8,012	48,092	148,220

(単位：冊)

項目 年度	受 入					払出	差引	年度末 所蔵冊数
	合計	内訳						
		購入	寄贈	管理換	その他			
1984	17,260	14,579	2,472	101	108	4,591	12,669	430,925
1985	16,893	12,777	1,661	808	1,647	146,486	-129,593	301,332
1986	11,873	10,133	1,525	119	96	606	11,267	312,599
1987	11,281	8,878	2,053	287	63	665	10,616	323,215
1988	12,383	9,626	2,576	104	77	645	11,738	334,953
1989	13,186	11,175	1,812	111	88	735	12,451	347,404
1990	12,171	10,502	1,578	74	17	560	11,611	359,015
1991	14,858	12,608	2,194	41	15	832	14,026	373,041
1992	12,189	9,704	2,362	34	89	424	11,765	384,806
1993	23,452	6,008	3,456	32	13,956	0	23,452	408,258
1994	23,319	4,921	8,569	751	9,078	443	22,876	540,875
1995	14,489	4,687	5,746	667	3,389	202	14,287	555,162
1996	13,796	3,861	6,333	3,389	213	2,028	11,768	566,930
1997	45,446	5,696	6,744	32,495	511	1,117	44,329	611,259
1998	15,796	7,861	6,994	237	704	1,405	14,391	625,650
1999	11,625	5,410	5,567	277	371	4,601	7,024	632,674
2000	16,165	5,579	10,144	320	122	48	16,117	648,791
2001	12,882	5,286	6,756	754	86	171	12,711	661,502
2002	17,489	5,499	10,515	1,339	136	699	16,790	678,292
2003	14,133	5,995	7,355	680	103	381	13,752	692,044
2004	15,183	6,064	7,721	1,233	165	1,790	13,393	705,437
2005	14,612	6,195	7,251	1,070	96	285	14,327	719,764
2006	15,620	5,972	8,581	944	123	72	15,548	735,312
2007	15,302	6,785	7,767	648	102	5,466	9,836	745,148
2008	20,304	6,961	12,683	578	82	468	19,836	764,984
2009	13,160	6,719	5,678	608	155	226	12,934	777,918
2010	10,937	6,056	4,268	436	177	528	10,409	788,327
2011	11,958	7,740	3,765	387	66	3,607	8,351	796,678
2012	11,901	8,465	3,069	250	117	124	11,777	808,455
2013	8,980	4,759	3,525	568	128	475	8,505	816,960

[出典] 1954～1983年度は『30年のあゆみ』、1984年度以降は『事業要覧』による。

※1 1984年度末所蔵冊数・・・館外奉仕用図書との合計冊数（1983年度末に館外奉仕業務が終了したため）

※2 1985年度払出冊数・・・館外奉仕用図書146,094冊を一括除籍

※3 館外奉仕所蔵数・・・1955年度と1961年度の所蔵数は、当該年度ではなく次年度の『事業概要』によった。

※4 『30年のあゆみ』に記載のない1959、1961～1964年度の館外奉仕の数値は、『事業概要』による。

※5 1994年度から文化資料館部廃止に伴う図書109,741冊を含む。

4.2 逐次刊行物受払所蔵状況(1960～2013年度)

(単位：タイトル)

項目 年度	総合計	雑 誌					新 聞					官報・法規				
		合計	継続受入		終刊 中断	払出	合計	継続受入		終刊 中断	払出	合計	継続受入		終刊 中断	払出
			購入	寄贈				購入	寄贈				購入	寄贈		
1960	-	-	174	-	-	-	15	-	-	-	-	-	-	-	-	
1961	-	-	179	-	-	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-	
1962	-	-	169	-	-	-	18	-	-	-	-	-	-	-	-	
1963	-	-	171	-	-	-	17	-	-	-	-	-	-	-	-	
1964	-	-	169	-	-	-	18	-	-	-	-	-	-	-	-	
1965	-	-	160	-	-	-	14	-	-	-	-	-	-	-	-	
1966	468	444	154	290	-	-	24	21	3	-	-	-	-	-	-	
1967	-	-	169	-	-	-	-	20	-	-	-	-	-	-	-	
1968	612	560	156	404	-	-	52	15	37	-	-	-	-	-	-	
1969	769	707	177	530	-	-	62	17	45	-	-	-	-	-	-	
1970	783	726	177	549	-	-	57	12	45	-	-	-	-	-	-	
1971	785	727	187	540	-	-	58	13	45	-	-	-	-	-	-	
1972	922	847	237	610	-	-	75	20	55	-	-	-	-	-	-	
1973	1,027	922	263	659	-	-	105	34	71	-	-	-	-	-	-	
1974	1,399	1,272	223	1,049	-	-	127	24	103	-	-	-	-	-	-	
1975	1,251	1,083	206	877	-	-	168	24	144	-	-	-	-	-	-	
1976	921	830	208	622	-	-	91	22	69	-	-	-	-	-	-	
1977	1,223	1,093	214	879	-	-	130	23	107	-	-	-	-	-	-	
1978	1,360	1,260	228	1,032	-	-	100	19	81	-	-	-	-	-	-	
1979	1,360	1,260	228	1,032	-	-	100	19	81	-	-	-	-	-	-	
1980	1,442	1,348	232	1,116	-	-	94	18	76	-	-	-	-	-	-	
1981	1,357	1,255	287	968	-	-	102	39	63	-	-	-	-	-	-	
1982	1,728	1,637	311	1,326	-	-	91	39	52	-	-	-	-	-	-	
1983	1,807	1,740	337	1,403	-	-	67	15	52	-	-	-	-	-	-	
1984	1,836	1,751	381	1,370	-	-	85	59	26	-	-	-	-	-	-	
1985	1,745	1,663	380	1,283	-	-	82	32	50	-	-	-	-	-	-	
1986	1,568	1,498	342	1,156	-	-	70	19	51	-	-	-	-	-	-	
1987	1,599	1,518	360	1,158	-	-	81	28	53	-	-	-	-	-	-	
1988	2,815	2,742	377	2,365	-	-	73	25	48	-	-	-	-	-	-	
1989	3,340	3,231	387	2,844	-	-	109	52	57	-	-	-	-	-	-	
1990	3,609	3,504	448	3,056	-	-	105	48	57	-	-	-	-	-	-	
1991	3,727	3,624	471	3,153	-	-	103	52	51	-	-	-	-	-	-	
1992	3,850	3,745	473	3,272	-	-	105	52	53	-	-	-	-	-	-	
1993	3,825	3,711	452	3,259	-	-	114	53	61	-	-	-	-	-	-	
1994	4,332	4,186	434	3,752	-	-	121	49	72	-	-	25	-	-	-	
1995	4,727	4,530	406	2,196	1,928	8	172	56	53	63	3	25	25	0	0	
1996	5,167	4,936	363	2,403	2,170	0	183	42	66	75	9	48	25	23	0	
1997	5,708	5,423	370	2,714	2,339	8	206	42	84	80	0	79	17	30	32	
1998	6,073	5,777	419	2,895	2,463	22	212	47	81	84	3	84	22	30	32	
1999	6,251	5,954	417	2,933	2,604	0	213	47	81	85	0	84	22	30	32	
2000	6,422	6,125	413	3,005	2,707	0	213	46	78	90	0	84	22	30	32	
2001	6,646	6,343	417	3,152	2,774	1	219	43	78	98	0	84	22	30	32	
2002	6,824	6,526	418	3,262	2,846	10	214	42	78	94	6	84	17	30	37	
2003	6,958	6,656	420	3,344	2,896	0	218	44	78	96	0	84	16	30	38	
2004	7,072	6,769	418	3,432	2,919	0	219	42	78	99	0	84	14	30	40	
2005	7,281	6,984	416	3,530	3,038	10	213	43	72	98	9	84	14	15	55	
2006	7,354	7,058	411	3,529	3,118	1	212	43	71	98	2	84	14	15	55	
2007	7,311	7,014	400	2,896	3,718	170	213	22	13	178	1	84	13	0	71	
2008	7,448	7,155	388	3,571	3,196	0	209	43	72	94	4	84	14	14	56	
2009	7,502	7,210	420	3,491	3,349	2	208	43	72	93	1	84	14	14	56	
2010	7,592	7,300	360	3,466	3,474	0	208	40	72	96	0	84	14	14	56	
2011	7,684	7,389	355	3,125	3,909	0	211	38	74	99	0	84	13	14	57	
2012	7,727	7,435	345	2,764	4,326	86	208	36	70	102	3	84	7	14	63	
2013	7,739	7,493	306	2,721	4,466	4	207	32	70	105	2	39	7	14	18	

[出典] 1960～1965、1967年度は『日本の図書館』（購入種数のみ）、1966、1968～1993年度は『神奈川の図書館』による。

※購入・寄贈数・・・1994年度までは継続・終刊・中止の合計数。

4.3 視聴覚資料保有状況（1954～2013年度）

年度	1954	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	
資料区分																															
70分映画 (本)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
35分映画 (本)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
16分映画 (本)	1,106	1,175	1,284	1,309	1,350	1,471	1,577	1,676	1,701	1,602	1,701	1,780	1,584	1,674	1,365	1,571	1,668	1,653	1,735	1,825	1,931	1,993	2,353	2,410	2,478	2,528	2,652	2,983	3,062	3,147	
8分映画 (本)	0	-	-	-	-	-	36	74	136	193	222	244	256	266	273	280	291	291	298	306	306	306	303	303	303	307	318	326	337	340	
小計(本)	1,106	1,175	1,284	1,309	1,350	1,471	1,613	1,750	1,837	1,795	1,923	2,024	1,840	1,940	1,638	1,851	1,968	1,944	2,033	2,131	2,237	2,308	2,666	2,723	2,791	2,845	2,980	3,319	3,409	3,497	
ビデオテープ(本)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
レーザーディスク(枚)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
DVD(枚)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
録音資料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
スライド(枚)	359	401	776	604	667	764	854	842	893	909	905	795	811	866	1,006	992	965	912	916	946	946	871	835	781	771	770	789	794	796	795	
紙芝居(種)	73	85	238	208	232	230	249	298	345	352	352	377	405	424	444	415	364	337	337	337	337	335	331	319	314	0	3	6	9	9	
写真資料(本)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LP(枚)	-	-	-	-	-	92	139	168	224	239	292	477	518	601	1,061	872	981	1,308	1,388	1,461	1,544	1,299	1,857	1,846	1,836	1,930	1,926	1,924	1,923	1,921	
EP(枚)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
レコーダー テープ(枚)	44	61	95	219	259	6	6	10	12	12	12	108	113	119	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カートリッジ テープ(枚)	-	-	-	-	-	207	207	207	207	207	207	207	207	207	207	202	202	202	202	202	202	202	202	202	202	202	202	202	202	202	202
小計(枚)	44	61	95	219	259	305	352	385	443	463	536	828	886	987	1,061	1,151	1,264	1,308	1,388	1,461	1,544	1,582	2,140	2,129	2,119	2,213	2,209	2,207	2,206	2,204	
コンパクト ディスク(枚)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
録音テープ・ 教材(本)	179	230	156	286	467	440	520	531	622	627	691	703	718	724	742	741	751	757	757	1,226	1,495	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オーディオ テープ(巻)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	741	741	741	741	741	741	741	741	741	741
資料テープ (巻)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	805	839	914	1,043	1,141	1,226	1,326	1,404	1,472	
小計	179	230	156	286	467	440	520	531	622	627	691	703	718	724	742	741	751	757	757	1,226	1,495	1,546	1,580	1,655	1,784	1,882	1,967	2,067	2,145	2,213	
楽譜	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	1,761	1,962	2,549	2,626	2,975	3,210	3,588	3,806	4,140	4,146	4,445	4,776	4,712	5,007	4,891	5,822	5,984	5,258	5,431	6,101	6,559	7,314	8,303	8,359	8,586	8,546	8,813	9,258	9,254	9,410	

【出典】1968、1971～1974年度は『神奈川の図書館』による。

年度	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013		
資料区分																																
70分映画 (本)	-	-	-	-	-	-	-	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
35分映画 (本)	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	
16分映画 (本)	3,116	3,175	3,247	3,307	3,377	3,626	3,698	3,809	3,856	3,899	4,036	4,068	4,098	4,130	4,160	4,192	4,594	4,611	4,629	4,646	4,668	4,681	4,693	3,564	3,564	3,563	3,562	3,562	3,531	3,531	3,531	
8分映画 (本)	340	346	351	357	360	363	366	369	369	369	369	369	369	369	369	369	369	369	369	369	369	369	369	369	369	369	369	369	369	369	369	
小計(本)	3,466	3,531	3,608	3,674	3,747	3,999	4,074	4,188	4,236	4,279	4,416	4,448	4,478	4,510	4,540	4,572	4,974	4,991	5,009	5,026	5,048	5,061	5,073	3,944	3,944	3,943	3,942	3,911	3,911	3,911		
ビデオテープ(本)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	901	1,071	1,211	1,333	1,959	2,212	2,603	3,228	3,492	3,846	4,203	4,391	4,588	4,692	4,765	4,771	4,770	4,766	4,764	4,761	4,767		
レーザー テープ(枚)	-	-	-	-	-	-	-	67	131	210	287	357	393	418	447	447	447	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448	448	
DVD(枚)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	42	80	108	124	145	215	294	407	561	736	894	1,011	1,214	1,346	1,375		
録画資料	21	31	56	113	156	218	327	484	718	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
スライド(枚)	795	799	807	807	807	807	807	807	807	808	808	808	808	808	808	808	808	808	808	808	808	808	808	808	808	808	808	808	808	808	808	
紙芝居(種)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
写真資料(本)	672	672	672	672	672	314	314	314	314	314	314	314	314	314	314	314	314	314	314	314	314	314	314	314	314	314	314	314	314	314	314	314
LP(枚)	2,069	1,920	1,920	1,918	1,916	2,843	2,743	6,351	37,212	42,969	43,077	43,708	45,502	45,510	45,509	45,616	45,861	45,841	46,090	50,021	50,020	50,145	52,296	51,301	50,268	49,290	49,290	42,156	41,861	41,869	41,869	
EP(枚)	-	-	-	-	-	-	100	100	12,436	14,189	14,191	14,390	14,513	14,513	14,514	14,514	14,520	14,520	14,520	14,520	14,520	14,520	14,520	14,520	14,520	14,520	14,520	14,520	14,520	14,520	14,520	
リカセ レコード (枚)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ドSP(枚)	202	202	202	202	202	202	2,630	2,652	10,112	12,241	12,585	12,779	12,850	12,850	12,850	12,850	12,888	12,888	12,888	13,488	13,488	13,489	13,489	13,489	13,489	13,489	13,489	13,489	13,489	13,489	13,489	
リカット(枚)	81	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小計(枚)	2,352	2,122	2,122	2,120	2,118	3,045	5,473	9,103	59,760	69,399	69,853	70,877	72,865	72,873	72,873	72,980	73,269	73,249	73,498	78,029	78,028	78,154	80,305	79,310	78,277	77,299	77,299	70,165	69,870	69,868	69,868	
エンボス (枚)	-	-	258	457	658	878	-	1,758	2,570	3,101	3,656	4,069	4,737	5,223	6,084	6,588	7,161	7,711	10,445	11,457	12,513	13,376	14,731	15,983	17,129	18,162	18,484	18,849	19,157	19,360	19,360	
録音テープ・ 教材(本)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
テープ 音(巻)	741	741	741	741	741	741	741	741	3,430	4,119	4,361	4,472	4,499	4,520	4,578	4,602	4,690	4,784	4,820	5,017	5,027	5,027	5,014	5,012	5,003	5,003	5,002	4,998	4,998	4,998	4,998	
録音資料 (巻)	1,556	1,658	1,738	1,864	1,974	2,123	2,473	2,594	3,430	4,119	4,361	4,472	4,499	4,520	4,578	4,602	4,690	4,784	4,820	5,017	5,027	5,027	5,014	5,012	5,003	5,003	5,002	4,998	4,998	4,998	4,998	
小計	2,297	2,399	2,479	2,605	2,715	2,864	3,214	3,335	3,430	4,119	4,361	4,472	4,499	4,520	4,578	4,602	4,690	4,784	4,820	5,017	5,027	5,027	5,014	5,012	5,003	5,003	5,002	4,998	4,998	4,998	4,998	
楽譜	-	-	2,469	2,500	2,550	2,581	-	2,664	2,705	2,715	2,878	2,880	2,884	2,887	2,907	3,013	3,018	3,068	3,069	3,120	3,145	3,145	3,145	3,172	3,298	3,316	3,396	3,410	3,423	3,434	3,434	
計	9,003	9,554	12,471	12,948	13,423	14,706	14,209	22,720	74,671	85,846	87,644	89,436	92,311	95,512	94,763	95,969	97,989	98,973	102,727	108,982	110,367	111,645	115,367	114,447	114,895	115,124	115,639	109,083	109,203	109,450	109,450	

※1 『事業概要』の資料区分をできるだけ採用した。 ※2 1986～1990年度までのCD、楽譜については、音楽資料室の資料統計による。 ※3 1991年度のLP、CD、楽譜については、音楽資料室の資料を含めた数値。

5 利用統計

5.1 図書館利用状況(1954～2013年度)

項目 年度	開館 日数	入館者数	登録者数				貸出冊数	複写		レファレンス 受付件数	リクエスト 処理件数
			合計	(年齢別内訳)				件数	枚数		
				23～	19～22	～18					
1954	100	77,104							-		
1955	278	118,099							-		
1956	274	112,459	541	541	0	0	2,343			14,768	
1957	275	112,441	2,282	2,022	260		22,689			15,304	
1958	286	155,862	2,652	-	-	-	35,070			10,505	
1959	276	138,876	2,779	2,540	239		38,012			6,360	
1960	275	140,412	3,201	2,765	436		39,209			6,783	
1961	275	142,219	3,419	-	-	-	35,981			5,008	
1962	277	145,093	3,628	1,135	1,287	1,216	40,728			5,889	
1963	279	141,833	3,674	1,163	1,384	1,123	33,879			8,387	
1964	274	137,340	3,194	-	-	-	30,612			9,251	
1965	273	133,679	-	-	-	-	26,573			8,211	
1966	265	117,226	2,559	1,031	1,088	440	19,164			3,988	
1967	273	131,525	2,810	1,094	1,177	539	23,438			3,100	
1968	273	124,451	3,483	1,282	2,201	-	27,007	485	3,001	3,242	
1969	271	127,786	3,840	1,262	2,578	-	29,559	-	-	3,900	
1970	270	126,194	3,889	1,301	1,656	932	29,489	3,501	23,806	4,769	
1971	273	130,733	6,115	2,148	3,967	-	40,864	4,086	26,475	6,200	
1972	256	126,695	5,405	1,620	3,785	-	29,260	4,221	27,666	6,869	
1973	271	183,863	7,740	2,559	5,181	-	52,840	7,404	50,267	8,864	
1974	270	201,153	10,540	3,550	6,990	-	71,710	6,849	46,597	8,985	
1975	276	208,017	11,508	3,974	7,534	-	76,241	10,724	69,871	9,956	
1976	272	205,606	12,681	4,343	6,719	1,619	81,518	8,983	50,655	9,541	
1977	271	218,198	14,301	4,997	7,470	1,834	90,647	10,244	54,143	9,525	
1978	271	218,080	15,207	5,182	7,893	2,132	90,488	10,734	58,812	10,001	
1979	271	203,226	15,598	5,147	8,116	2,335	76,310	12,639	67,120	11,091	
1980	256	183,434	14,902	5,338	7,605	1,959	71,426	13,723	71,162	12,016	
1981	247	166,803	14,113	5,320	6,892	1,901	68,532	14,798	77,813	10,861	
1982	271	180,042	14,819	5,712	7,245	1,862	77,022	18,527	89,864	9,323	
1983	272	185,146	15,121	5,767	7,396	1,958	80,711	20,544	110,144	9,609	
1984	254	214,032	14,964	5,646	7,559	1,759	77,792	19,043	108,577	8,357	
1985	271	229,067	15,800	6,048	7,725	2,027	79,077	20,223	111,623	8,673	
1986	271	259,717	17,230	6,752	8,198	2,280	88,723	24,599	134,323	10,536	
1987	273	273,003	16,996	6,723	8,082	2,191	86,108	24,915	135,056	9,116	
1988	270	276,440	16,524	6,622	7,859	2,043	105,248	24,239	134,341	10,495	
1989	270	272,652	15,643	6,245	7,627	1,771	95,819	12,982	127,264	11,632	
1990	269	296,899	16,391	6,570	7,894	1,927	98,741	14,357	142,572	12,466	
1991	271	303,576	17,083	7,294	7,192	2,597	113,212	15,776	152,171	16,019	
1992	271	317,583	13,883	5,718	5,781	2,384	127,656	17,810	175,886	14,685	
1993	262	372,059	13,385	5,459	5,611	2,315	134,300	25,256	236,538	17,833	
1994	269	317,201	8,704	3,688	3,685	1,331	92,390	25,804	232,544	22,534	
1995	270	288,987	8,956	4,211	3,435	1,310	75,544	19,570	233,099	23,080	
1996	268	277,021	7,498	3,566	2,479	1,453	64,711	18,005	208,894	26,914	
1997	269	295,484	6,791	3,814	2,157	820	55,288	16,221	194,349	31,620	
1998	270	334,410	6,650	3,964	1,872	814	50,319	16,076	180,757	31,960	
1999	247	310,244	5,157	3,398	1,179	580	44,454	14,130	166,154	25,009	
2000	280	310,518	6,124	4,082	1,526	516	61,708	14,307	166,660	24,940	
2001	282	312,103	5,358	3,729	1,268	361	62,834	17,325	286,371	21,628	
2002	282	307,830	5,325	3,379	1,294	652	68,262	17,690	316,956	22,664	
2003	287	325,494	4,666	3,289	995	382	69,656	17,205	293,550	18,770	
2004	288	300,027	3,968	2,845	807	316	64,067	15,596	272,440	17,769	
2005	284	255,949	3,717	2,540	664	513	59,813	13,276	236,589	18,142	
2006	289	234,481	3,420	2,314	636	470	64,318	12,446	234,576	19,867	
2007	290	260,393	3,629	2,720	616	293	75,519	12,144	230,442	19,574	
2008	296	251,284	3,859	3,007	566	286	79,947	12,822	236,914	21,398	
2009	296	261,212	3,822	3,004	525	293	79,505	12,997	229,341	20,706	
2010	292	250,895	3,868	2,988	628	252	77,796	11,898	187,993	18,680	
2011	294	230,669	3,486	2,677	518	291	76,748	11,913	194,899	14,869	
2012	296	223,024	3,359	2,553	575	231	74,869	12,196	201,969	13,714	
2013	297	203,719	2,860	-	-	-	73,116	11,408	199,938	10,860	

【出典】 「開館日数」「入館者数」…『事業概要』のない年度は『神奈川の図書館』による。
「登録者数」…1956～1963年度は『10年史』、『事業概要』のない年度は『神奈川の図書館』、2004～2013年度の年齢別内訳は業務用資料による。
「貸出冊数」…1956～1983年度は『30年のあゆみ』による。
「複写件数・枚数」…1968、1970、1974年度は『30年のあゆみ』、1971年～1973年度は『神奈川の図書館』による。
「レファレンス受付件数」…『事業概要』のない年度は『神奈川の図書館』による。
「リクエスト件数」…1973～1975年度は『予約制度の確立をめざして』（図書館問題研究会神奈川支部 1976）による。
※1 「入館者数」「登録者数」「レファレンス件数」…1995年度より視聴覚センターを含む。
※2 「リクエスト件数」…1998年度より視聴覚センターを含む。
※3 文化資料館の利用数は含まない(次頁参照)

5.2 障害者サービス(1984～2013年度)

項目 年度	障害者サービス					
	対面朗読		図書郵送貸出		カセット(CD)郵送貸出	
	登録者数	利用時間	登録者数	冊数	登録者数	点数
1984	6	56	8	35	20	221
1985	8	117	11	66	12	1,003
1986	0	106	5	141	11	1,132
1987	2	189	2	186	6	849
1988	0	159	5	148	10	838
1989	2	53	3	77	8	597
1990	1	19	2	93	4	588
1991	0	11	7	103	9	982
1992	0	0	3	101	3	434
1993	1	2	6	166	10	856
1994	0	0	7	212	7	1,114
1995	0	2	6	185	4	1,085
1996	1	10	8	265	9	1,263
1997	1	14	5	330	8	1,164
1998	1	24	5	283	2	1,006
1999	0	6	6	240	4	916
2000	0	30	2	170	6	935
2001	0	33	6	182	8	697
2002	1	26	4	140	5	569
2003	3	27	7	152	11	706
2004	1	22	4	217	12	1,254
2005	1	24	7	184	6	1,241
2006	1	24	7	211	7	1,340
2007	2	24	11	163	17	1,382
2008	1	24	7	272	9	628
2009	0	24	3	401	4	795
2010	0	22	12	487	7	871
2011	0	22	4	546	3	863
2012	0	24	2	344	2	450
2013	0	24	6	317	4	341

※ 2000年度よりカセット郵送貸出の数値には、CDの郵送貸出の数値を含む。

5.3 文化資料館利用状況(1972～1993年度)

項目 年度	文化資料館			
	入館者数	複写		レファレンス 件数
		件数	枚数	
1972	-	-	-	-
1973	3,067	871	7,537	176
1974	6,792	2,432	21,635	257
1975	9,040	3,430	22,434	582
1976	7,342	4,406	29,340	297
1977	8,060	5,585	39,580	308
1978	8,594	6,406	44,298	318
1979	9,060	7,381	51,810	397
1980	9,218	7,794	55,476	347
1981	7,849	7,469	54,100	376
1982	7,683	7,577	54,071	377
1983	8,119	8,510	61,614	520
1984	7,913	7,675	56,090	512
1985	9,460	9,502	71,833	468
1986	9,517	9,186	61,109	491
1987	8,727	9,567	73,218	1,660
1988	8,409	9,390	74,385	2,006
1989	7,716	7,975	57,593	1,588
1990	8,348	9,602	70,902	1,039
1991	9,053	9,845	71,843	1,216
1992	10,269	9,493	77,105	1,161
1993	2,230	1,926	17,089	494

5.4 ホームページアクセス件数 (1999～2013年度)

項目 年度	ホームページアクセス件数		
	トップページ	検索画面	メール レファレンス
1999	7,218	2,295	-
2000	98,720	55,389	3,717
2001	147,020	77,453	4,351
2002	458,925	108,112	4,876
2003	541,542	135,819	5,702
2004	595,840	146,086	9,738
2005	589,953	408,842	6,618
2006	601,756	601,915	5,604
2007	639,495	700,520	5,867
2008	339,294	749,850	3,758
2009	349,298	845,636	2,933
2010	312,306	928,277	7,345
2011	277,011	904,360	5,434
2012	271,057	907,206	6,716
2013	267,399	896,820	10,524

【出典】「文化資料館」…『神奈川県立文化資料館の20年』による。
「ホームページアクセス件数」…1999～2004年度まで『業務概要』(業務用統計)、2005～2013年度まで『事業要覧』による。

5.5 視聴覚資料利用状況 -貸出点数- (1954~2013年度)

年度\項目	16ミリ映画	8ミリ映画	スライド	紙芝居	録音教材	ビデオ	レコード	CD	カセットテープ
1954	-		-	-	-		-		-
1955	3,984		1,393	924	57		315		-
1956	4,407		1,267	1,914	124		373		-
1957	12,773		1,604	1,091	379		261		-
1958	7,387		1,411	1,105	356		273		-
1959	7,109		1,078	1,247	314		678		-
1960	6,345	31	702	893	356		1,339		-
1961	5,255	60	579	983	128		743		-
1962	5,818	469	539	454	282		865		-
1963	6,041	409	512	626	298		866		-
1964	6,008	488	378	527	132		712		-
1965	5,980	509	325	357	109		624		-
1966	6,967	365	240	348	177		722		-
1967	6,271	190	214	401	16		789		-
1968	5,646	160	189	456	-		770		-
1969	6,121	227	145	370	-		783		-
1970	6,446	262	283	294	98		1,283		-
1971	7,710	271	259	435	-		1,153		-
1972	7,055	178	164	319	-		655		-
1973	6,676	175	133	466	361		777		-
1974	7,011	214	105	438	-		786		-
1975	7,341	249	72	287	-		1,237		-
1976	7,602	159	50	198	706		1,185		-
1977	7,449	229	45	120	526		619		-
1978	6,603	362	60	171	1,074		1,004		-
1979	6,253	242	57	-	1,241		841		-
1980	6,500	222	83	-	1,787		1,163		-
1981	5,942	184	55	-	2,406		1,594		-
1982	6,057	111	28	-	2,819		1,720		-
1983	5,351	96	21	-	2,385		1,175		-
1984	4,883	48	21	-	2,265		1,286		-
1985	5,393	80	15	-	2,625		1,167		-
1986	4,911	45	6	-	2,081		1,133		-
1987	4,031	40	18	-	2,269		913		-
1988	3,342	10	0	-	2,232		1,027		-
1989	2,538	0	2	-	2,623		654		-
1990	2,338	5	1	-	3,011		537		-
1991	1,815	9	12	-	2,888		264	1,994	-
1992	1,516	1	3	-	2,663	-	256	13,709	-
1993	1,355	5	16	-	4,916	-	380	20,209	-
1994	1,083	2	5	-	-	2,752	608	26,836	7,754
1995	1,021	7	6	-	-	2,926	184	24,348	6,941
1996	760	0	5	-	-	3,953	339	24,178	6,792
1997	734	3	0	-	-	5,381	395	25,299	6,218
1998	672	6	0	-	-	7,819	261	30,395	7,680
1999	540	1	0	-	-	10,036	173	32,309	7,272
2000	480	0	0	-	-	10,193	321	35,666	7,229
2001	355	0	0	-	-	11,533	448	44,432	7,594
2002	328	0	0	-	-	12,427	1,058	53,048	8,269
2003	322	0	0	-	-	12,872	1,133	63,052	7,216
2004	302	0	1	-	-	11,951	1,644	58,429	5,623
2005	236	0	0	-	-	8,329	1,207	51,611	1,485
2006	238	0	0	-	-	7,289	1,353	67,574	1,310
2007	230	0	0	-	-	8,723	2,246	82,721	1,139
2008	221	0	0	-	-	7,436	2,744	86,451	630
2009	218	0	3	-	-	5,437	3,070	87,282	722
2010	254	0	0	-	-	3,413	1,356	79,699	625
2011	251	0	0	-	-	3,796	951	72,699	601
2012	325	0	0	-	-	2,816	873	74,419	392
2013	239	0	0	-	-	1,560	636	57,478	442

[出典] 1968、1969、1971、1972、1974、1975年度は『神奈川の図書館』、1973年度は『20年史』による。

5.6 生涯学習情報センター利用状況(1997～2013年度)

項目 年度	開館 日数	生涯学習情報センター利用者数				「PLANETかながわ」利用状況	
		情報閲覧等 来館者数	研修室等 利用者数	相談者数	合計	トップページ アクセス数	生涯学習情報 検索回数
1997	124	4,980	2,476	748	8,204	22,616	22,324
1998	293	8,209	5,302	1,646	15,157	51,413	48,037
1999	293	12,221	5,961	3,057	21,239	65,272	61,678
2000	293	11,659	7,418	4,205	23,282	107,238	76,537
2001	294	11,587	7,425	4,413	23,425	121,674	119,071
2002	296	10,642	6,569	3,109	20,320	142,611	149,389
2003	298	11,575	6,072	2,510	20,157	173,210	175,922
2004	296	8,162	7,641	2,309	18,112	167,212	201,319
2005	336	9,031	7,440	2,478	18,949	160,309	185,497
2006	356	10,871	6,696	3,051	20,618	157,476	173,008
2007	357	11,151	5,911	2,785	19,847	153,303	150,586
2008	356	13,270	5,070	3,039	21,379	159,507	137,702
2009	355	13,684	5,827	2,788	22,299	155,135	144,494
2010	352	16,612	6,248	2,577	25,437	147,950	131,149
2011	354	18,476	5,189	2,788	26,453	121,942	181,509
2012	353	20,712	4,356	2,643	27,711	102,241	141,168
2013	335	18,614	4,382	2,510	25,506	78,938	82,490

*出典：主に事業報告書。一部、業務用統計データで補完。

6 協力貸出・協力車等運行状況

6.1 協力貸出の推移(1977～2013年度)

年度	項目 受付冊数	処理冊数	(内訳)		
			県立所蔵 (購入含む)	県立川崎	他館借用
1977	-	358	-	-	-
1978	-	1,704	-	-	-
1979	-	2,588	-	-	-
1980	-	4,224	-	-	-
1981	-	4,314	-	-	-
1982	-	5,060	-	-	-
1983	6,969	5,736	4,753	504	479
1984	8,089	7,105	5,797	489	819
1985	12,063	9,885	8,077	337	1,471
1986	12,113	10,058	7,650	504	1,904
1987	14,362	11,580	8,359	670	2,551
1988	15,885	12,653	8,396	711	3,546
1989	15,282	13,212	8,134	672	4,406
1990	16,587	14,738	8,959	972	4,807
1991	30,707	20,299	11,275	1,588	7,436
1992	35,727	29,854	13,689	2,901	13,264
1993	44,236	35,763	15,766	3,623	16,374
1994	47,548	39,211	14,267	3,901	21,043
1995	55,951	43,905	13,251	4,088	26,566
1996	67,885	53,969	13,312	4,271	36,386
1997	73,572	57,544	12,822	3,031	41,691
1998	82,363	60,961	14,565	2,280	44,116
1999	77,549	58,702	12,426	2,046	44,223
2000	80,949	64,341	12,870	2,153	49,318
2001	85,492	68,107	13,521	2,561	52,025
2002	94,471	75,077	14,239	2,623	58,215
2003	110,031	89,614	15,051	2,543	72,020
2004	114,015	92,512	14,543	2,685	75,284
2005	108,966	93,583	14,113	2,359	77,111
2006	107,389	97,725	15,697	2,576	79,452
2007	110,014	101,059	16,939	2,473	81,647
2008	120,781	113,028	19,123	2,589	91,316
2009	127,308	119,207	19,002	3,154	97,051
2010	126,840	121,142	19,421	2,808	98,913
2011	128,176	122,310	19,435	3,082	99,793
2012	128,351	124,790	21,129	2,799	100,862
2013	131,718	128,010	20,436	3,072	104,502

【出典】 1977～1982年度は『40年の歩み』による。その他の年度は『事業要覧』による。

6.2 協力車、公用車運行状況(1977～2013年度)

項目 年度	巡回周期別館数						対象館 合計	巡回 コース数	車両保 有台数	備考
	週3回	週2回	週1回	隔週	月1回	デマンド				
1977			0	2	2	0	4	2	1	
1978			0	2	7	0	9	4	1	
1979			0	0	13	9	22	4	1	
1980			0	14	0	11	25	6	1	
1981			0	14	0	11	25	6	1	
1982			0	14	0	13	27	6	1	
1983			0	28	0	1	29	8	1	
1984			17	15	0	0	32	9	2	
1985			19	13	0	0	32	9	2	
1986			24	11	0	0	35	9	2	
1987			24	11	0	0	35	9	2	
1988			24	11	0	0	35	9	2	
1989			24	11	0	0	35	9	2	
1990			24	11	0	0	35	9	2	
1991			24	11	0	0	35	9	2	
1992			0	35	0	0	35	9	2	1台は予備車両
1993			0	35	0	0	35	9	2	1台は予備車両
1994			0	35	0	0	35	9	2	1台は予備車両
1995			0	35	0	0	35	9	1	
1996			0	35	0	0	35	9	1	
1997			0	35	0	0	35	9	1	
1998			0	35	0	0	35	9	1	
1999			0	35	0	0	35	9	1	
2000			0	35	0	0	35	9	1	
2001			0	35	0	0	35	9	1	
2002			0	35	0	0	35	9	1	
2003			0	35	0	0	35	9	1	
2004			0	35	0	0	35	9	1	
2005			0	35	0	0	35	9	1	
2006			0	35	0	0	35	9	1	
2007		3	0	31	0	2	36	8	2	大学巡回コース運行開始 週2回(県立川崎、横浜国立大学、生涯学習情報センター) デマンドによる巡回(鶴見大学、神奈川大学)
2008		3	0	31	0	2	36	8	2	
2009		3	0	31	0	3	37	8	2	デマンドによる巡回(県政情報センター)
2010		3	0	31	0	3	37	8	2	
2011		3	0	31	0	3	37	8	2	
2012	2	1	0	35	0	4	42	8	2	2012年度のみ週3回(県立川崎、生涯学習情報センター) デマンドによる巡回(総合研究大学院大学) 巡回コースに女性センター、保健福祉大学、東京工業大学、桐蔭横浜大学組入れ
2013		3	0	35	0	4	42	8	2	

[出典] 1977～2000年度は『神奈川県立図書館紀要 第5号』p89より。2001～2003年度は業務用統計資料による。

7 条例、規則等（2014年5月現在）

7.1 神奈川県立図書館条例

昭和33年10月6日

条例第32号

改正 昭和34年7月7日条例第32号 昭和36年7月5日条例第31号
昭和37年7月17日条例第35号 昭和47年3月31日条例第7号
昭和47年3月31日条例第41号 昭和47年10月21日条例第64号
昭和60年3月30日条例第6号 平成5年10月19日条例第34号
平成7年3月14日条例第3号 平成13年3月27日条例第14号

神奈川県立図書館条例をここに公布する。

神奈川県立図書館条例

(図書館の設置)

第1条 図書館法（昭和25年法律第118号。以下「法」という。）に基づき、次の県立図書館を設置する。

名称	位置	目的
神奈川県立図書館	横浜市西区紅葉ヶ丘9番地の2	図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資すること。
神奈川県立川崎図書館	川崎市川崎区富士見2丁目1番4号	自然科学及び工業に関する図書並びに一般図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資すること。

一部改正（昭和47年条例7号・41号・64号）

(教育委員会規則への委任)

第2条 別に条例で定めるものを除くほか、この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

一部改正（昭和34年条例32号・47年41号・平成7年3号・13年14号）

附 則

- この条例は、昭和33年11月1日から施行する。
- 神奈川県立図書館条例（昭和29年神奈川県条例第49号）は、廃止する。
附 則（昭和34年7月7日条例第32号）
この条例は、公布の日から施行し、昭和34年4月30日から適用する。
附 則（昭和36年7月5日条例第31号）
この条例は、公布の日から施行し、昭和36年4月1日から適用する。

- 改正前の神奈川県立図書館条例の規定に基づいて、昭和36年4月1日からこの条例の施行の日の前日までの間に支払われた報酬は、改正後の神奈川県立図書館条例の規定による報酬の内払とみなす。
附 則（昭和37年7月17日条例第35号）
この条例は、公布の日から施行し、昭和37年4月1日から適用する。
附 則（昭和47年3月31日条例第7号）
この条例は、昭和47年4月1日から施行する。
附 則（昭和47年3月31日条例第41号）
この条例は、公布の日から施行する。ただし、第2条の改正規定中神奈川県立文化資料館に関する部分は、公布の日から起算して6月をこえない範囲内で神奈川県教育委員会規則で定める日から施行する。

（昭和47年8月1日教育委員会規則第14号で、同47年8月1日から施行）

- 附 則（昭和47年10月21日条例第64号）
この条例は、公布の日から施行する。
附 則（昭和60年3月30日条例第6号抄）
この条例は、昭和60年4月1日から施行する。
附 則（平成5年10月19日条例第34号）
この条例は、平成5年11月1日から施行する。
附 則（平成7年3月14日条例第3号抄）

(施行期日)

- この条例は、平成7年4月1日から施行する。
附 則（平成13年3月27日条例第14号抄）
この条例は、平成13年4月1日から施行する。

7.2 神奈川県立の図書館の利用等に関する規則

昭和45年4月21日

教育委員会規則第3号

改正 昭和46年3月30日教育委員会規則第5号
昭和48年4月21日教育委員会規則第5号
昭和59年3月31日教育委員会規則第13号
平成3年2月1日教育委員会規則第1号
平成5年10月19日教育委員会規則第10号
平成10年3月31日教育委員会規則第6号
平成11年6月1日教育委員会規則第17号
平成13年3月30日教育委員会規則第6号
平成20年2月8日教育委員会規則第4号

神奈川県立の図書館の利用等に関する規則をここに公布する。

神奈川県立の図書館の利用等に関する規則

(趣旨)

第1条 この規則は、神奈川県立図書館及び神奈川県立川崎図書館の利用等に関し必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この規則において「図書資料」とは、図書、文書、記録、定期刊行物その他これらに類する物をいう。

2 この規則において「図書館資料」とは、図書資料及びフィルム、レコード、録音テープ、紙芝居その他の視覚聴覚教育のための資料をいう。

(休館日等)

第3条 神奈川県立図書館及び神奈川県立川崎図書館（以下「図書館」という。）の休館日は、次のとおりとする。

- 月曜日（国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日に当たるときを除く。）
 - 毎月第2木曜日
 - 4月1日から同月30日までの間のおおむね14日間
 - 12月28日から翌年の1月4日まで
 - その他神奈川県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が定める日
- 2 前項第2号の休館日の日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する国民の祝日に当たるときは、同号の休館日をその翌日に繰り下げるものとする。
- 3 第1項第3号の休館日の期日は、教育長が別に定める。
- 4 前3項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、臨時に図書館を開館することができる。

(利用時間)

第4条 利用時間は、午前9時から午後7時までとする。ただし、土曜日、日曜日及び国民の祝日に関する法律に規定する休日にあつては、午後5時までとする。

2 教育長は、時季により、又は館務の都合上必要があると認めるときは、前項の利用時間を変更することができる。

(利用の制限)

第5条 教育長は、図書館を利用しようとするもの又は利用しているものが次の各号のいずれかに該当する場合には、図書館の利用を認めず、又はその利用を中止させることができる。

- 図書館を利用する他のものに著しく迷惑をかけるおそれがあると認められるとき。
 - 図書館の施設若しくは設備又は図書館資料を損傷するおそれがあると認められるとき。
 - この規則の規定に違反したとき。
 - その他教育長がその利用を不相当と認めるとき。
- 2 教育長は、人権の保護等の理由により利用に供することが不相当と認められる図書館資料については、これをあらかじめ指定し、その利用を制限することができる。

(図書館資料の館外貸出し)

第6条 図書館資料の館外貸出しを受けようとするものは、図書館カード交付申込書を教育長に提出して図書館カードの交付を受け、館外貸出しを受ける際これを提示するものとする。

2 図書館カードの交付を受けることができるものは、次に掲げるもの（そのものが前条各号のいずれかに該当する場合を除く。）とする。

- (1) 県内に居所又は住所を有する者
- (2) 県内に事務所を有する官公署、会社等に勤務する者及び県内にある学校教育法（昭和22年法律第26号）第1条に規定する学校に勤務し、又は通学する者
- (3) 前号に規定する官公署、会社等及び学校
- (4) その他教育長が適当と認めるもの

3 教育長は、図書館資料のうち館外貸出しを行わないものをあらかじめ指定することができる。

（図書館カードに関する届出）

第7条 図書館カードの交付を受けたものは、図書館カード交付申込書の記載事項に変更があつたとき、又は当該図書館カードを紛失したときは、教育長にその旨を届け出るものとする。

（図書館カードの失効）

第8条 団体に交付した図書館カードは、その発行の日の属する会計年度の翌年度の末日をもって失効する。

2 教育長は、次の各号のいずれかに該当する場合には、図書館カードを失効させることができる。

- (1) 図書館カードの交付を受けたものが、第6条第2項各号のいずれにも該当しなくなつたとき。
- (2) 図書館カードを紛失した旨の届出があつたとき。
- (3) 図書館カードの交付を受けた個人が、継続して3年間館外貸出しを受けなかつたとき。

（図書館資料の館外貸出し教等）

第9条 同時に館外貸出しをする図書館資料の数及びその貸出し期間については、教育長が別に定める。

（他の図書館等への貸出し）

第10条 図書館法（昭和25年法律第118号）に規定する図書館その他の教育長が別に指定するものは、教育長の承認を受けて図書館資料の貸出しを受けることができる。

（複写）

第11条 図書館資料の複写を希望する者は、教育長が別に定める範囲内で複写を受けることができる。

2 教育長は、図書館資料のうち複写を行わないものをあらかじめ指定することができる。

（滅失等の届出）

第12条 図書館を利用しているものは、図書館の施設若しくは設備又は図書館資料を滅失し、紛失し、又は損傷したときは、直ちにその旨を教育長に届け出るものとする。

（図書館資料の弁償）

第13条 教育長は、図書館を利用しているものがその責めに帰すべき理由により図書館資料を滅失し、紛失し、又は損傷したときは、相当の現品又は金額をもって弁償させることができる。

（寄贈及び寄託）

第14条 教育長は、図書館資料の寄贈又は寄託を受けることができる。

2 寄託を受けた図書館資料の管理については、県の所有する図書館資料に準じて行う。ただし、寄託者の承諾がある場合のほかは、館外貸出しを行わない。

（教育長への委任）

第15条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

- 1 この規則は、公布の日から施行する。
- 2 神奈川県立図書館奉仕規則（昭和29年神奈川県教育委員会規則第13号。以下「旧規則」という。）は、廃止する。
- 3 この規則施行の際旧規則の規定に基づき貸し出されている図書館資料の取扱いについては、なお従前の例による。
- 4 神奈川県立図書館組織規則（昭和29年神奈川県教育委員会規則第8号）の一部を次のように改正する。
（次のよう略）

附 則（昭和46年3月30日教育委員会規則第5号）
この規則は、昭和46年4月1日から施行する。

附 則（昭和48年4月21日教育委員会規則第5号抄）

1 この規則は、公布の日から施行する。

附 則（昭和59年3月31日教育委員会規則第13号）

この規則は、昭和59年4月1日から施行する。

附 則（平成3年2月1日教育委員会規則第1号）

この規則は、平成3年4月1日から施行する。

附 則（平成5年10月19日教育委員会規則第10号）

この規則は、平成5年11月1日から施行する。

附 則（平成10年3月31日教育委員会規則第6号）

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則（平成11年6月1日教育委員会規則第17号）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（平成13年3月30日教育委員会規則第6号）

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則（平成20年2月8日教育委員会規則第4号）

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

7.3 神奈川県立図書館資料収集要綱

(目的)

第1条 この要綱は、図書館法(昭和25年法律第118号)及び神奈川県立図書館組織規則(昭和59年教育委員会規則第4号)に基づき、図書館事業を適切に遂行するため、資料の収集に関し、必要な事項について定めるものとする。

(資料収集の基本方針)

第2条 資料の収集は、次の各号に定める方針に基づき行うものとする。

- (1) 川崎図書館、県内市町村立図書館、県立公文書館等との役割分担を踏まえ、主として調査研究に資するものを収集する。
- (2) 社会科学及び人文科学分野の資料を重点的に収集する。
- (3) 郷土資料として神奈川資料の収集については特に留意する。
- (4) 県民のうち特に一般成人層のニーズを常に把握し、その生涯学習に必要な資料を収集する。
- (5) 宗教関係、政治関係、思想関係資料については、特定の立場に偏らないよう留意する。ただし、特別コレクションの対象となるものは除く。
- (6) 収集の方法は、購入のみならず、寄贈、寄託、管理換、編入、交換等の手段を十分活用し、迅速かつ的確に行うものとする。

(資料の種類)

第3条 県立図書館が収集する資料の種類は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 図書
- (2) 逐次刊行物
- (3) 視聴覚資料
- (4) その他の資料

(図書の種類)

第4条 前条第1号で規定する図書とは、次の各号に掲げるものをいう。

- (1) 新刊国内図書
 - ア 基本図書 最小限必備すべき図書であって、社会科学及び人文科学分野でいえば、法律学全集、日本思想大系等
 - イ 参考図書 辞書、事典、年表、書誌、書目、索引、図鑑、地図帳等であって、たとえば、広辞苑、現行法規総覧等
 - ウ 専門図書 特定主題を中心とした専門領域についての図書
 - エ 一般図書 教養、趣味、娯楽に関する図書で専門図書以外の図書
 - オ 文学者の個人全集又は著作集の決定版
 - カ 調査報告
 - キ 伝記
 - ク 各分野の書誌、書目
 - ケ 大活字本
 - コ 研究用児童図書
- (2) 新刊海外図書
 - ア 主要国及び近隣諸国の言語で書かれた基本図書及び参考図書
 - イ 各国の経済、財政事情、歴史、統計データ等
 - ウ 在県外国人に対する日本情報(オン・ジャパン)
- (3) 既刊図書
 - ア 各分野の古典的名著、叢書及び全集等の絶版本
 - イ 書目、古文書学及び書誌学関係図書
 - ウ 補充資料
- (4) 神奈川資料
 - ア 本県に関する各分野の資料
 - イ 本県の隣接地域に関する各分野の資料
 - ウ 本県関係者の著作及び県内で刊行された資料

(図書収集の個別方針)

第5条 図書は、次の各号に掲げる資料に並び、当該各号に定める方針に基づき収集する。

- (1) 新刊国内図書
 - 社会科学及び人文科学の分野につき、学術的、社会的に評価の高いものを収集する。
- (2) 新刊海外図書
 - ア 基本的な参考図書、各分野の基本図書及び多文化を理解する上で必要なものを収集する。
 - イ 前1号に準じて収集する。

(3) 既刊図書

蔵書を補完する上で必要なものを収集する。

(逐次刊行物)

第6条 第3条第2号で規定する主な逐次刊行物とは、次の各号に掲げるものをいう。

- (1) 新聞(新聞縮刷版を含む。)、雑誌、官報、公報、年鑑及び年報類
- (2) 社会科学及び人文科学分野の資料

(逐次刊行物収集の個別方針)

第7条 逐次刊行物は、次の各号に掲げる資料に並び、当該各号に定める方針に基づき収集する。

- (1) 新聞
 - 時事に関する資料として必要な国内発行新聞及び国外発行新聞。ただし、国外発行新聞は国際的な世論を代表する新聞とする。
- (2) 雑誌
 - 国内発行雑誌については、時事に関する雑誌、社会科学及び人文科学分野の代表的な雑誌、調査研究に資する学術的な雑誌。国外発行雑誌については、主要国及び近隣諸国の国情をよく紹介し、当該国の世論を代表するような時事総合誌とする。
- (3) 年鑑及び年報類
 - 図書収集の個別方針に準じるとともに、新聞、雑誌とのつながりを考慮する。

(視聴覚資料)

第8条 第3条第3号で規定する視聴覚資料とは、次の各号に掲げるものをいう。

- (1) 16ミリ映画
- (2) ビデオテープ
- (3) レーザーディスク(LD)
- (4) デジタルレーザーディスク(DVD)
- (5) コンパクトディスク(CD)
- (6) レコード
- (7) カセットテープ(視覚障害者用としての録音図書を含む。)
- (8) その他の視聴覚資料

(視聴覚資料収集の個別方針)

第9条 視聴覚資料は、その記録性及び芸術性に優れたものを収集することとし、次の各号に掲げる資料に並び、当該各号に定める方針に基づき収集する。

- (1) 前条第1号から第4号までの資料(映像関係資料)
 - 神奈川資料、記録的価値のある資料、古典芸能、図書資料を補完するものであること。
- (2) 前条第5号から第7号までの資料(音楽、音響関係資料)
 - 神奈川資料、記録的価値のある資料、クラシック音楽、古典芸能、図書資料を補完するものであること。
- (3) 前条第8号の資料
 - 前2号以外の資料で、新たに視聴覚資料とみなされる資料等

(その他の資料)

第10条 第3条第4号で規定する主なその他の資料とは、次の各号に掲げるものをいう。

- (1) マイクロ資料またはシーディーロム(CD-ROM)、フロッピーディスク(FD)、磁気テープ等の電子出版物
- (2) 写真、自筆原稿等印刷媒体によらない資料
- (3) 絵葉書、パンフレット、リーフレット、ポスター、地図等の資料
- (4) 楽譜

(その他の資料収集の個別方針)

第11条 既存資料を補完する上で必要なものを収集する。

(特別コレクション)

第12条 特別コレクションとして、次の各号に掲げる資料を収集する。

- (1) ベストセラーズ文庫(日本近代以降のベストセラー図書。近年のものは年間上位20位までを収集)
- (2) 報徳思想関係図書(二宮尊徳を中心とした関係図書)
- (3) 全国都道府県・市町村史資料(全国の都道府県・市町村が編集刊行した

もの)

(4) 図書館関係資料 (図書館、図書館学関係資料)

(資料収集にあたってのその他の留意事項)

第13条 資料収集は、次の各号に掲げる資料に応じ、当該各号に定める事項に留意して行われなければならない。

(1) 複本

収集資料は原則として1点とするが、次に掲げる場合は複数収集する。

ア 神奈川資料

イ 利用上2ヶ所以上に配置する図書

ウ 特別コレクションとして追加包含される図書

(2) 複製等による資料の作成

原資料保護のため、複製またはマイクロフィルム等を作成する。

(3) 特別コレクション及び寄贈図書

収集にあたっては、必要に応じて専門家の助言を参考にするとする。

(4) 寄贈資料

収集の基本方針及び個別方針との整合性を図る。

(資料の選定)

第14条 資料の選定基準は、別に定める。

(選定の手続)

第15条 資料の選定手続は、神奈川県立図書館資料収集会議要領に基づき行う。

(その他)

第16条 この要綱に定めるもののほか、資料の収集に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成12年11月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成18年1月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

7.4 資料選定基準

(目的)

1 この基準は神奈川県立図書館資料収集要綱(以下、「要綱」という。)第14条に基づき、神奈川県立図書館資料収集会議要領第4条に規定する図書資料選定会議及び第5条に規定する視聴覚資料選定会議に提出する選定案を作成する際、並びに選定を行う際に必要な基準を定める。

(選定会議の選定対象)

2 図書資料選定会議及び視聴覚資料選定会議では、要綱第3条に規定する資料の種類のうち、次の資料について選定を行う。なお、図書等に視聴覚資料が付属している場合は図書資料選定会議において、視聴覚資料に図書等が付属している場合は視聴覚資料選定会議において選定する。

(1) 図書資料選定会議

ア 要綱第4条に規定する図書

イ 要綱第6条に規定する逐次刊行物

ウ 要綱第10条に規定するその他の資料

(2) 視聴覚資料選定会議

ア 要綱第8条に規定する視聴覚資料

イ 要綱第10条に規定するその他の資料のうち、第4号に規定する楽譜

(選定の共通基準)

3 要綱第2条の資料収集の基本方針及び第5条、第7条、第9条及び第11条の個別方針に基づく選定の際には、次を各資料の選定の共通基準とする。

(1) 当館の調査相談機能を十分に發揮できる資料

(2) 県域図書館所蔵資料を補することができる資料

(3) 永く県民の知的財産となり得る資料価値の高い資料

(4) 神奈川県についての理解を深めることができる資料

(5) 当館の広報活動を援助する資料

(選定の個別基準)

4 要綱第4条、第6条、第8条及び第10条の各号に規定する資料の選定における個別基準は次のとおりとする。

(1) 新刊国内図書

次の各号に掲げる各分野の図書について選定する。なお、特定の叢書(岩波文庫、中公新書など)については原則として全点を選定する。

ア 社会科学分野

要綱第4条第1号ア～エ、カ及びクの種類に属する図書

(ア) 政治、行政、国防関係図書

(イ) 法律、法令・判例関係図書

(ウ) 経済、統計、産業関係図書

(エ) 教育関係図書

(オ) 社会、民俗関係図書

イ 人文科学分野

要綱第4条第1号ア～クの種類に属する図書

(ア) 学術全般に関する図書

(イ) 哲学、心理学、宗教関係図書

(ウ) 世界史、日本史、都道府県史及び関東甲信越地区を中心とした市町村史

(エ) 日本及び世界の地誌、地図、地理学関係図書

(オ) 言語学関係図書、各国語辞典及び日本各地の方言関係図書

(カ) 美術、音楽、演劇等の芸術関係図書

(キ) スポーツ、娯楽関係図書

(ク) 文学関係図書

ウ 自然科学、工学分野

(ア) 入門書、教養書及び標準的な辞書、事典類

(イ) 社会科学、人文科学と関連の深い専門図書

エ 大活字本

(ア) 一般図書

(イ) 辞書、辞典類

オ 研究用児童図書

受賞作、話題の図書等、児童文化の現状を反映した図書

(2) 新刊海外図書

ア 辞書、辞典を中心とした人文科学、社会科学分野の参考図書

イ 社会科学、人文科学分野の基本図書、一般図書、専門図書

- ウ 社会科学、人文科学分野の日本に関する図書
- (3) 既刊図書
 - 新刊図書に準じ、当館未所蔵で蔵書の補充となる図書
- (4) 神奈川資料
 - 要綱第4条第4号の資料のうち、次の各号に掲げる分野は特に積極的に選定する。
 - 神奈川県関係の逐次刊行物は原則として資料とし、できるだけ網羅的に収集し、選定する。なお、要綱第4条第4号イの本県の隣接地域は、別表のとおりとする。
 - ア 網羅的に収集分野
 - (ア) 自治体が公刊する市町村史誌及び関連刊行物
 - (イ) 県の行政刊行物
 - (ウ) 報徳思想関係図書（特別コレクション）（要綱第12条第2号）
 - イ 重点的に収集分野
 - (ア) 歴史・地誌・民俗・自然等の郷土関係図書
 - (イ) 市町村の行政刊行物
 - (ウ) 文化財及び遺跡発掘に関する調査報告書
 - (エ) 博物館・美術館等の展示図録
 - (オ) 会社史・団体史・学校史
 - (カ) 地域に関連の深い人物の伝記的図書
 - (キ) 地震・震災関係図書
 - (ク) 治水・利水関係図書
 - (ケ) 地形図・住宅地図・都市地図等
- (5) 逐次刊行物
 - ア 時事に関する雑誌、社会科学及び人文科学分野の代表的な雑誌、調査研究に資する学術雑誌、官公庁・企業・団体が発行される雑誌、年鑑年報及び一般紙、専門紙、機関紙の各新聞
 - イ 大学、研究所、学会等の刊行する紀要及び研究論文集
 - ウ 法律及び経済関係の逐次刊行物
 - エ 各省庁が編集する白書及び報告書類
 - オ 国、都道府県、政令指定都市の刊行する統計書及び要覧
 - カ 復刻版、マイクロ資料、電子出版物
- (6) 視覚資料
 - 視覚資料の選定にあたっては、要綱第8条第1号から第4号までに規定する映像関係資料及び要綱第8条第5号から第7号に規定する音楽、音響関係資料及び第8号に規定するその他の資料は、それぞれ資料価値の高いもの、神奈川県に関する資料で当館の収集方針に合ったものを選定する。
 - ア 映像関係資料
 - (ア) デジタルバーサタイルディスク（DVD）（要綱第8条第4号）
 - a 神奈川資料
 - b 記録的価値のある資料
 - c 古典芸能
 - d クラシック音楽
 - e 図書資料を補充するもの
 - (イ) 16ミリ映画、ビデオテープ及びレーザーディスク（LD）（要綱第8条第1号、第2号、第3号）
 既存のコレクションを補充するもの
 - イ 音楽、音響資料
 - (ア) コンパクト・ディスク（CD）（要綱第8条第5号）
 - a 神奈川資料
 - b 記録的価値のある資料
 - c 古典芸能
 - d クラシック音楽
 - e 図書資料を補充するもの
 - (イ) レコード及びカセットテープ（要綱第8条第6号、第7号）
 既存のコレクションを補充するもの
 - ウ その他の資料
 映像、音楽、音響資料以外の視覚資料
- (7) その他の資料
 - ア 電子出版物（要綱第10条第1号）
 冊子体及び類似電子出版物並びにネットワーク系電子情報との比較を踏まえ、検索ソフトの使い易さ、保存の必要性、利用者の要求等に留意して選定する。
 - (ア) 継続購入していた冊子体で刊行中止となり、電子出版物に切り替ったもの

- (イ) 経済及び産業関係、法令、判例等の情報を主とする電子出版物
- (ウ) 雑誌記事索引及び新聞（全文、索引）
- イ 写真、自筆原稿等印刷媒体によらない資料
 - 神奈川資料を中心とした、原則として年代、日時、場所が明確なもの
- ウ 絵葉書、パンフレット、リーフレット、ポスター、地図等の資料
 - 神奈川資料を中心とした、原則として年代、日時、場所が明確なもの
- エ 楽譜（要綱第10条第4号）
 - 視覚資料を中心とした単行の楽譜、楽譜集
- (8) 特別コレクション
 - 要綱第12条の特別コレクションについては、全て図書資料選定会議において選定する。

- (選定除外資料)
- 5 次に掲げる資料は、選定対象から除外するものとする。ただし、神奈川県に関する資料については、内容によっては選定の対象とする。
 - (1) 学習参考書及びこれに類する試験問題集、各種の受験参考書
 - (2) 現行の学校教科書及び教師用専門書
 - (3) コミック、成人向け資料で評価の定まっていないもの
 - (4) ゲーム類
- (選定のための資料)
- 6 選定にあたっては、次に掲げる資料を参考にする。
 - (1) 図書
 - ア JAPAN/MARC（国立国会図書館）
 - イ ウィークリー出版情報（日販図書館サービス）
 - ウ その他（古書目録、新聞の書評など）
 - (2) 逐次刊行物
 - ア 全国書誌提供サービス（国立国会図書館）
 - イ 雑誌記事索引（国立国会図書館）
 - ウ その他（新聞雑誌カタログなど）
 - (3) 視覚資料
 - ア 映像関係資料のカタログなど
 - イ 『レコード芸術』などの雑誌
 - ウ その他
- (その他)
- 7 この基準に定めるもののほか、必要な事項は、館長が別に定める。

附 則
この基準は、平成18年11月16日から施行する。
図書選定基準、地域資料選定基準、逐次刊行物選定基準、視覚資料選定基準、電子出版物選定基準（以上、平成12年11月1日施行）は廃止する。

附 則
この基準は、平成26年4月1日から施行する。

別表
本県の隣接地域

	地域名	自治体名
1	東京都三多摩地区	町田市、八王子市、多摩市等
2	東京都南部隣接地域	世田谷区、大田区
3	千葉県房総半島対岸地域	木更津市、富津市、館山市等
4	静岡県隣接地域	御殿場市、熱海市、伊東市等
5	山梨県隣接地域	上野原市、道志村、山中湖村等

8 主要刊行物発行状況(2003～2013年度)

名 称	刊行状況	内 容
事業要覧 (2003～2010年度は事業概要 2011～2012年度は事業年報 2013年度は事業要覧)	2003～2013年度 年刊	当館の業務実績等
こゑ	205号(2003年5月)～ 246号(2010年3月) 隔月刊 メルマガ版:1号(2010年5月)～12 号(2012年3月) Webサイト版:号数なし(2012年5月 ～)	県内公共図書館及び図書館業務に関する情報
神奈川県立図書館紀要	第6号(2004年3月)～ 第11号(2014年2月) 原則隔年刊	当館職員による実務上の課題と職員の自己 テーマによる研究論文
郷土神奈川	第42号(2004年3月)～ 第52号(2014年2月) 年刊	郷土に関する論文、地域資料紹介、情報提供
郷土資料の森	第1号(2000年7月)～ 第39号(2007年5月) 隔月刊	郷土に関する論文、神奈川資料紹介、その他 郷土関連情報の提供
かながわ資料室ニュースレター	第1号(2007年8月)～ 第40号(2014年2月) 隔月刊	かながわ資料室の新作図書を紹介、展示・県 民公開講座等催し物の案内等
ビジネス関係資料ガイド	No.1(2001年10月)～ No.78(2014年3月) 隔月刊	ビジネス関係の新刊図書及び雑誌記事の紹介
トピックスのとびら	No.1(2005年1月)～ No.104(2014年3月) 月刊	時事的な話題に関する情報を、図書、雑誌、 新聞等から横断的に紹介
PLANETかながわ	No.1(1997年7月)～No.56(2011年3 月) 季刊	講座・催し物情報など生涯学習情報の案内
神奈川県生涯学習情報センター事 業報告書	1999～2013年度 年刊	神奈川県生涯学習情報センターの業務実績等
神奈川の大学における生涯学習関 連事業実施状況調査結果(集計 表)	1997～2013年度 年刊	県内大学(短期大学、大学院を含む)におけ る生涯学習関連事業の実施状況を把握 1991～1996年度は生涯学習課で発行
箱根関係文献目録	2004年3月	地域資料目録・主題別シリーズ8
グレート・ワークスの世界	2004年3月	所蔵資料から近現代日本の思想家・学者の著 作集41点を選び、内容と人物を紹介し、参考 文献を案内
地方自治の現在/2004	2004年4月	所蔵する地方自治関係主要資料を新採用職員 等に紹介
社会教育施設展覧会関連資料目録	2004年7月～2005年1月(3回発行)	近代美術館、歴史博物館開催の展示関連主要 所蔵資料目録
神奈川県立図書館 50年の歩み	2004年11月	昭和29年に開館した県立図書館の50年の記録
入門グレート・ブックス 西洋文 芸編 神奈川県立図書館所蔵	2006年3月	世紀を超えて多くの人々に読まれ、時の試練 に耐えた古典・名著であるグレート・ブッ クスを選び出し、著者や内容を解説
入門グレート・ブックス 日本文 芸編 神奈川県立図書館所蔵	2007年3月	
かながわの歴史文献55 - 神奈川 県関係基本史料解説目録-	2008年3月	神奈川県域及び周辺の歴史に関する基本的文 献について、成立・作者・内容等を解説し、 史料本文や参考文献の目録を収録
飯田九一文庫目録 地域資料・主 題別解説目録	2010年3月	横浜に生まれ、俳人・俳画家として活躍した 飯田九一氏の収集資料の目録
社史と伝記にみる日本の実業家	2012年3月	日本の代表的な実業家を列伝風に紹介し、各 人物について文献目録を掲載

*出典:『事業要覧』(2003～2010年度は『事業概要』 2011～2012年度は『事業年報』 2013年度は『事業要覧』)

9 展示一覧(2003～2013年度)

年度	本館展示室・本館1階会議室	かながわ資料室	視聴覚センター（視聴覚資料室）
2003 (平成15)	<ul style="list-style-type: none"> ・跳・飛・翔：あこがれから現実へ ・「源氏絵」に見る宇治十帖：形を変えて語り継がれる物語 ・100年目に生まれた画家・没した画家 ・生誕350年近松門左衛門 ・実測日本地図を作った男・伊能忠敬 	<ul style="list-style-type: none"> ・沿線案内 ・かながわの景勝：明治～昭和の湘南・三浦の海岸 ・神奈川の建築 近代・現代編―横浜― ・景勝の美―八景― ・庚申―さまざまな型 ・憶い出の遊園地 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアニストの至芸をふりかえって ・黒船来航：ペリー来航150年にちなんで ・レコードでジャズはいかが：当館実施のジャズレコード鑑賞会に先立って ・初演から150年：歌劇「椿姫」コレクション ・佐藤コレクション：ワークナーを中心としたCDの寄贈資料
2004 (平成16)	<ul style="list-style-type: none"> ・明治期のベストセラー ・当館所蔵資料にみる戦前の鉄道路線地図の旅 ・「資料を未来に：ようやく50年、さらに50年、100年後の利用者の皆様へ ・50年前にタイムトラベル「ようこそ昭和30年へ」 ・県立図書館集書50年エキスポ展 ・県立図書館50年の足跡 	<ul style="list-style-type: none"> ・行楽の箱根へ：明治・大正・昭和初期 ・わが町の点描：昭和40年代の回想 ・湖・山まわく！丹沢へ ・神奈川くらしの歳時記 ・紅葉ヶ丘周辺をふりかえる ・行こう！春の行楽花の旅 	<ul style="list-style-type: none"> ・佐藤コレクション寄贈IPから希少なものを展示 ・「ホギーとベス」より「サマータイム」関連LP展示 ・クリスマスの音楽
2005 (平成17)	<ul style="list-style-type: none"> ・「児童文学の名作」展 ・焦土から60年「戦時下の出版物」展 ・本《文字と活字文化のうつわ》の形いろいろ ・唱歌集に見る明治・大正・昭和：神奈川県立図書館秘蔵コレクションから 	<ul style="list-style-type: none"> ・足柄山の金太郎 ・紅葉坂界限：戦後から今日まで ・沿線の風景 ・三多摩の史蹟 ・大山：歴史と文化 ・童謡（うた）のかながわ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャズコレクション ・ジャズサマコンサート：特集ライブの魅力 ・詩曲（ホエム）・秋の言の葉：特集・詩と音楽の魅力 ・懐かしいクリスマス・レコード ・モーツァルト MOZART
2006 (平成18)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の童謡と童画（神奈川近代文学館と共催） ・三溪園100年 ・雑誌繚乱 ・「坊っちゃん」100年 ・地図のいろいろ ・図書館の保存と修理 	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川の童謡 ・戦国時代の神奈川 ・かながわの雑誌と新聞 ・神奈川と漱石 ・古地図から見た名所 ・明治期神奈川の実業家 	<ul style="list-style-type: none"> ・童謡のレコードを展示 ・モーツァルト生誕250年記念展示 ・ショスタコーヴィチ生誕100年展示 ・シューマン没後150年展示 ・三味線音楽は江戸の華：粋で、艶っぽい、唄と語り ・生誕80年のマイルス・デヴィスを中心として
2007 (平成19)	<ul style="list-style-type: none"> ・創刊雑誌に見る戦中・戦後：『昭和の日』制定に寄せて ・御上洛錦絵を観る ・文庫と新書でたどる昭和のあゆみ ・生誕100年記念 井上靖 ・仮名垣魯文と明治期の出版物 ・本の病院、診察中：資料保存の考え方や技法 ・神奈川開港・開国150周年メモリアルイベント「幕末・開港・維新～神奈川の体験」 	<ul style="list-style-type: none"> ・かながわ昭和の情景（昭和の日） ・かながわの古道 ・かながわの出版文化 ・生誕100年 高見順 ・開化期横浜の文化と風俗 ・小栗忠順と横須賀製鉄所 	<ul style="list-style-type: none"> ・父と子、母と子/マイルス・デヴィス ・佐藤コレクションからホエムのレコード ・クリスマスのレコード ・邦楽のレコード ・ドラマの熱演／ふるさと日本の民謡
2008 (平成20)	<ul style="list-style-type: none"> ・浮世絵、銅版画、イラストにみる開港期の人物と風景：神奈川開港・開国150周年メモリアルイベント ・ベストセラー文庫にみる近代日本の戦争 ・新聞小説：報道と創作の交流 ・源氏物語千年紀 ・神奈川の図書館のあゆみ ・図書館の保存ABC 	<ul style="list-style-type: none"> ・浮世絵、銅版画、イラストにみる開港期の人物と風景：人物を中心に ・飯田九一文庫展 ・飯田九一文庫特別展示会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルベルト・フォン・カラヤン／ヒラー・ホリデーほか ・オットー・クランペラーほか／エラ・フィッツ・ジェラルドほか ・ジョージ・セル／ヘル・メリほか ・フレデリック・ショパン／リモーガンほか ・レオード・パースタイン／エリック・ドールフィーほか ・ダヴィート・フォード・ロウ・イチ・アイストラフほか／ホレス・シルヴァーほか
2009 (平成21)	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川開港・開国150周年メモリアルイベント「絵図・地図で見る神奈川のかたち・今昔」 ・子どもたちが見た昭和34年：50年前の日本 ・装丁を愉しむ ・グズ 明治出版事情 ・ショパン生誕200年：野村光一文庫とショパン ・新聞四コマ漫画の世界 	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川の俳人 1～4 正岡子規と高浜虚子ほか ・神奈川の俳人特別展示「坂の上の雲」の俳人たち ・神奈川開港・開国150周年関連展示 1～4 開港50周年・100周年行事、神奈川県庁ほか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ショパン生誕200年：野村光一文庫とショパン
2010 (平成22)	<ul style="list-style-type: none"> ・2010国民読書年 ・必見！とっておきのこだわり雑誌 ・平城京と万葉集 ・紅葉ヶ丘の散歩道 	<ul style="list-style-type: none"> ・かながわの古俳人 ・大山関連資料 	
2011 (平成23)	<ul style="list-style-type: none"> ・相模の霊山・大山：歴史を旅する ・就職活動の歴史：明治から平成へ ・神奈川の名建築：それぞれの歩みから ・須賀田磯太郎3つの物語：作曲家と楽譜と音楽と ・特別展示「東北3県の自治体史」 	<ul style="list-style-type: none"> ・かながわの古俳人 ・関東大震災：震災から復興へ 	
2012 (平成24)	<ul style="list-style-type: none"> ・かながわゆかりの実業家：社史と伝記で描く肖像 ・かながわの古俳人 ・神奈川の自慢したい風景：九都県市立図書館企画展 ・英国絵本の世界 ・岡倉天心 CHAKI（茶気）の男 ・記録に見る関東大震災・東日本大震災 県立図書館 県立公文書館合同展示 ・友好の大扉とマリア・ルス号事件 	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川の東海道と宿場：東海道の概要と川崎宿 ・神奈川の東海道と宿場：神奈川宿・保土ヶ谷宿・戸塚宿 ・神奈川の東海道と宿場：藤沢宿・鎌倉・江ノ島 ・神奈川の東海道と宿場：平塚宿・大磯宿・小田原宿・箱根宿 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の指揮者たち ヘルベルト・フォン・カラヤンほか ・ジャズ名門レバール フルノット、マキエリ、ヴァーグ ・左手のピアニスト 笹野泉 ・五嶋みどりデビュー30周年 セント・ジョンス・カレッジ聖歌隊 ・♪もっと楽しむ♪「マエストロ聖響の夏休みオケストラ！」
2013 (平成25)	<ul style="list-style-type: none"> ・婦人雑誌に見る近代日本 ・神奈川の東海道と宿場 ・かながわと映画～小津安二郎生誕110周年記念 ・県立図書館コレクション紹介シリーズ①「ベストセラーズ文庫」 ・特別展示「大江卓宛大扉と明治の人権問題「マリア・ルス号」事件」於：県庁本庁舎5月3日・5月5日 ・特別展示「婦人雑誌にみる近代日本」於：かながわ女性センター 10月2日、11月10日 	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川の七福神めぐり～箱根・小田原の七福神～ ・神奈川の七福神めぐり～県央・湘南の七福神～ ・神奈川の七福神めぐり～鎌倉・三浦の七福神～ ・神奈川の七福神めぐり～横浜・川崎の七福神～ 	<ul style="list-style-type: none"> ・不滅の巨匠：パブロ・カザルス、ディー・トリビ・フィッシャー＝ディースカウ、ブルーノ・ワルター、アルトゥーロ・トスカニーニ ・楽器で聴くジャズ：デューク・エリントン（ピアノ）、ビル・エヴァンス（ピアノ）、ジョン・コルトレーン（テナーサクソフーン）

*原則として、会期が2ヶ月以上のものを掲載

*出典：『事業要覧』（2003～2010年度は『事業概要』 2011～2012年度は『事業年報』 2013年度は『事業要覧』）

10-1 イベント一覧(2003～2013年度)

年度	資料紹介講座、図書館カレッジ等	図書館大公開、図書館活用講座	レコード鑑賞会、名作映画会、16ミリ映写機技術認定講習会
2003 (平成 15)	かながわオープンカレッジ「歌舞伎 400 年・ 伝統の重みと現代」 かながわ子どもワクワク体験プロジェクト 「紙芝居 創って演じてみよう!!」		16 ミリ映写機操作技術認定講習会 上映会「アクアの肖像」「演をたらしめた 神」「関東大震災」「阪神大震災」「地震！ あなたができること」「がんばれたえちゃ んー木曾馬と少女」「国宝信貴山縁起絵 巻」「あゝ野麦峠」 レコード鑑賞会「20 世紀の世界的大指揮者・ トスカーニ」「世界最初のジャズ小説サ ルトルの「嘔吐」と日本最初のジャズ」 「小説家石原慎太郎の「ファンキー・ジャ ンプ」を味わう」「ジャズレコードの鑑賞 会と評論家 平岡正明氏のトーク」
2004 (平成 16)	県立機関活用講座「スモールビジネス・コミュ ニティビジネス創業のすすめ」 ビジネスマンのための古典入門講座 かながわ子どもワクワク体験プロジェクト 「図書館へ行こう！ー音楽を聴きたい人の味 方ー」	図書館見学ツアー	16 ミリ映写機操作技術認定講習会 上映会「歌舞伎をみる」「歌舞伎の魅力・ 小道具」「黒い雨」「チャップリン名作短 編集」「野越え山越え」「県立図書館」「秩 父の夜祭り」「ペンポスター子ども共和国」 レコード鑑賞会「20 世紀の後半を彩った 名演奏家たち」
2005 (平成 17)	資料紹介講座「図書館蔵書物語」「もっと知り たい神奈川県」「楽しさいっぱい視聴覚資料」 「新聞もいろいろ」 かながわ子どもワクワク体験プロジェクト 「小学生のためのかながわ歴史発見」 県立機関活用講座「図書館で JAZZ ? ジャ ズ!! 図書館でジャズ入門」 「文字・活字文化の日」記念講演会「戦国武将 の手紙を読み解く」 「古典入門講座」 裁判員制度普及講座「裁判員制度を学ぶ」	見学会「図書館再発見」 「情報検索入門ー図書館まるごと活用術」	16 ミリ映写機操作技術認定講習会 映画会 5 回 レコード鑑賞会 1 回
2006 (平成 18)	資料紹介講座「「地方史」で人物を調べる」 「かながわ人物伝」「雑誌繚乱」「戦中出版物 色とりどり」「レコードの魅力ふたたび」「字 典・辞典・事典百態」「当世評判本めぐり」「新 聞百科」 県立機関活用講座「戦国・天下人の時代を読み 解く」 裁判員制度普及講座「裁判員制度を学ぶ」 「古典に親しむ グレート・ブックス・セミ ナー」 かながわ子どもワクワク体験プロジェクト 「みる・きく・たのしむ昔の子どもの遊び」 「文字・活字文化の日」講演会「漱石入門 坊ちゃんと赤シャツ」	図書館データベース検索講習会 12 回 図書館まるごと活用術「情報の収集と活用 法」「地図を楽しむ」「法令」を探検する」 「統計」を読む」「本を修理する」 図書館見学会 12 回	16 ミリ映写機操作技術認定講習会 映画会 5 回 レコードコンサート・鑑賞会 4 回
2007 (平成 19)	資料紹介講座 12 回 裁判員制度普及講座「裁判員制度を学ぶ」4 回 かながわ子どもワクワク体験プロジェクト 「ビジュアル日記を作る!! 小学生のための 製本講座」 古典に親しむ グレート・ブックス・セミナー 4 回 県立機関活用講座「時代小説の世界」 「文字・活字文化の日」講演会「生誕 100 年 井上靖 人と作品」	誰でもできる図書館蔵書検索講習会 12 回 開蔵・日経ニューステレコン 21 検 索 講習会 4 回 図書館探検 12 回 図書館まるごと活用術<図書館のノウハウ 全公開> 9 回	16 ミリ映写機操作技術認定講習会 映画会 5 回 レコードコンサート・鑑賞会 4 回
2008 (平成 20)	資料紹介講座 13 回 かながわ子どもワクワク体験プロジェクト 「小学生のためのやさしい製本講座」 裁判員制度普及講座「裁判員制度を学ぶ」2 回 大人のための読書会 3 回 「文字・活字文化の日」講演会「<中国伝奇小 説の魅力に触れる>魚への変身の物語」 県立機関活用講座 図書館カレッジ「空間から 読む源氏物語」	「誰でもできる図書館蔵書検索講習会」12 回 図書館まるごと活用術<図書館のノウハウ 全公開> 12 回 図書館探検ツアー 6 回 新聞記事検索講習会 4 回 出前講座 8 回（「新聞記事検索講習会」 （相模原市立橋本図書館）「ベストセラ ーズ文庫」に見る近代日本の戦争」（南足 柄市立図書館）「系図・家系・家紋の調 べ方入門」（南足柄市立図書館・海老名 市立中央図書館）「図書の調べ方入門」 （海老名市立中央図書館）「人物の調べ 方入門」（海老名市立中央図書館・大磯 町立図書館）「新聞・雑誌の調べ方」 （南足柄市立図書館）	16 ミリ映写機操作技術認定講習会 映画会 3 回 レコードコンサート・鑑賞会 2 回

<p>2009 (平成 21)</p>	<p>「入門かながわ学」5回 「クラシック&ジャズレコードの森へ」3回 かながわ子どもワクワク体験プロジェクト 「小学生のための製本講座」 「大人のための読書会」4回 「文字・活字文化の日」記念講演会「奇抜な素材の「美しい」本」 「ACC文庫紹介：横浜アメリカ文化センターの歴史と資料」 図書館カレッジ「雑誌から見た明治の青春」 タイアップ講座4回（「図書館で学ぶビジネス講座～『創業』入門～」「裁判員制度を学ぶ」 「成年後見制度を学ぶ」「知らないと危険?! インターネット時代の著作権」）</p>	<p>「図書館大公開」3回 「本が書架に並ぶまで」 「蔵書検索のツボ、教えます」4回 「図書の調べ方入門」2回 「新聞記事を探す」5回 「大切な資料を守るために」2回 「テーマで情報検索」4回 「雑誌論文を探す」2回 「図書館ネットワークの輪へ」2回 「ワンテーマ蔵書ナビ」</p>	<p>16ミリ映写機操作技術認定講習会4回 所蔵名作映画会4回 レコード鑑賞会2回</p>
<p>2010 (平成 22)</p>	<p>かながわ子どもワクワク体験「小学生が楽しむ自分だけのノートブック作り」 国民読書年記念講演「文学をどう読むか～漱石から春樹まで～」 文字・活字文化の日記念講演「源氏の筆跡論～明石の姫君のお妃支度」 どうする？親の財産管理～子どもの立場から知りたい成年後見制度～ 図書館カレッジ「万葉集の世界観を探る～平城京とその時代」</p>	<p>「蔵書検索ガイド」「図書の調べ方」 「美術資料の調べ方」「新聞記事検索実習」 データベース「日経テレコン21」入門 「朝日新聞社データベース「聞蔵」入門」 「新聞記事・雑誌論文の調べ方」「統計の調べ方」 図書館大公開「全館ツアー&コレクション紹介」「連携協力の仕事紹介」「受入整理の仕事紹介」「資料保存の仕事紹介」 資料紹介講座「江戸時代のかながわを調べる」 「大山とその信仰～所蔵資料から」 『言海』～近代国語辞書の誕生</p>	<p>16ミリ映写機操作技術認定講習会 所蔵名作映画会「夏休み子ども向け映画会」 「ドン松五郎の生活」「典子は、今」 DVD上映&監督トーク「九転十起の男-浅野総一郎の青春-」 レコード鑑賞会「マーラー生誕150周年を迎えて」「佐藤コレクションからワーグナーを聴く」 名作映画会「白い馬+チャップリン」</p>
<p>2011 (平成 23)</p>	<p>「電子書籍の時代は本当に来るのか」 「金融・経済をどう読むか」 文字・活字文化の日記念講演「活字文化の今後」 図書館カレッジ「聴く・見る・感じる 神奈川の名建築」 「明日からあなたも経営者！ 成功する起業の裏ワザ」 資料紹介講座「『地図』でよむ」「須賀田磯太郎を聴く会」</p>	<p>図書館大公開「ツアー&お宝紹介」「本が棚に並ぶまで」「本を保存するために」「連携事業の舞台裏」 図書館活用講座「蔵書検索ガイド」「法令の探し方入門」「新聞記事検索実習」 日経テレコン21「図書の探し方入門」「新聞記事検索実習 ヨミダス」「明治以降のかながわの調べ方」「論文・記事の探し方入門」「漢詩の探し方入門」</p>	<p>16ミリ映写機操作技術認定講習会 子ども向け名作映画会『ババロワさん こんにちは』『リトルツインズ 森の神様フォーラボー』 映画会「ジュノー」 所蔵名作映画会「マルセルのお城～プロヴァンス物語」「高瀬舟」「ぶんきょうゆかりの文人たち」 名解説者の語るレコード鑑賞会「リスト生誕200年の最後を飾って」</p>
<p>2012 (平成 24)</p>	<p>資料紹介講座「大学紀要って何!?!」「源氏・若紫の本いろいろ」「神奈川の東海道」 文字・活字文化の日記念講演「編纂1300年記念 知っているようで知らない『古事記』～『古事記』の歌の世界～」 子ども読書活動推進フォーラム 図書館カレッジ「神奈川の近代建築～その細部を読みとく～」</p>	<p>蔵書検索ガイド 図書館大公開「ツアー&お宝紹介」「本が棚に並ぶまで」「図書館ネットワークの舞台裏」「本を保存するために」 「日本法総合データベース LexisNexis JP 検索講習会」 豆知識「著作権よもやま話」 図書の探し方入門 新聞記事検索実習「ヨミダス歴史館」 新聞記事・雑誌論文の探し方 探し方入門2「視聴覚資料の探し方入門」</p>	<p>16ミリ映写機操作技術認定講習会 DVD上映会「上原まりと平家物語」「みずず」「鷗外の恋人」「螢川」「にこりえ」 レコード鑑賞会「ワーグナー 合唱の魅力」「ビートルズの世界」「ブラームスの午後」 映画会「かながわ子どもワクワク体験・子ども向け名作映画会」「神奈川ニュースをみる会」</p>
<p>2013 (平成 25)</p>	<p>資料紹介講座「横浜アメリカ文化センターの歴史と資料-ACC文庫紹介-」「貴重な音楽会プログラムあります-野村光一文庫紹介-」 「神奈川の新聞」 著作権豆知識「基礎編」「時事編」 「未来のワタシ、はじめます。やまとなでしこ起業塾」 文字・活字文化の日記念講演「辞書を読む一言の葉茂る大樹の下で」 図書館カレッジ「スペインの歴史と旅」 展示関連講座「ヨコシネ90年の歩み～フィルム編集からみた神奈川～」 子ども読書推進フォーラム 神奈川県立図書館・音楽堂60周年記念企画 「建築と音楽が出会うところ」</p>	<p>図書館活用講座「蔵書検索ガイド」「図書の探し方入門」「雑誌論文・記事の探し方入門」「新聞記事検索実習『ヨミダス歴史館』入門」「法律情報データベース検索実習 D1-Law.com 検索講習会～身近なトラブルの法律を調べよう」 図書館大公開「図書館ツアー&お宝紹介」 「本が棚に並ぶまで」「図書館ネットワークの舞台裏」「本を保存するために」</p>	<p>16ミリ映写機操作技術認定講習会 上映会「須賀敦子静かなる魂の旅」「日本のどうぶつに会いにいこう！～「子どもどうぶつ劇場」」「白石加代子「百物語シリーズ」-第24話・怪談牡丹燈籠-」 「司馬遼太郎と城を歩く」「箱根風雲録」 レコード鑑賞会「ヴェルディ生誕200年」 「村上春樹の音楽」 子どもフェスティバル協賛レコード鑑賞会 「レコード」で聴いてみよう。どこかで聴いたあの曲を」</p>

*出典：主に『事業要覧』（2003～2010年度は『事業概要』 2011～2012年度は『事業年報』 2013年度は『事業要覧』）一部業務用資料で補充

10-2 イベント一覧(2003~2013年度) (生涯学習情報センター)

年度	研修事業	イベント・講座開催
1997 (平成9)	生涯学習指導者研修「生涯学習基礎講座」「生涯学習課題講座」「生涯学習専門講座」「女性教育指導者研修会」「女性教育指導者交流派遣研修会」「女性教育指導者専門セミナー」	生涯学習情報センターオープニングセレモニー 生涯学習情報センターオープニングイベント「武蔵野太鼓ふれあい演奏」「オープニングのつどい」「市町村ふれあいリレー講座」「スクリーン・デリバリー(出前)・サービス」
1998 (平成10)	生涯学習支援者研修「社会教育主事セミナー」「公民館主事セミナー」「教職員のための生涯学習セミナー」「学校教育と社会教育との連携を考えるセミナー」「学習相談員セミナー」「生涯学習ボランティアセミナー」「男女共同参画アドバイザーセミナー」「家庭と地域のあり方を考えるセミナー」	オープン1周年記念イベント「スクリーン・デリバリー・サービス」「養老孟司氏の記念講演」「持ち込み企画ワークショップ&展示」「社会に開かれたかながわの大学フェア」
1999 (平成11)	生涯学習支援者研修「社会教育主事セミナー」「公民館主事セミナー」「教職員のための生涯学習セミナー」「学校と地域との連携を考えるセミナー」「学習相談員セミナー」「生涯学習ボランティアセミナー」「男女共同参画アドバイザーセミナー」「情報システム実務コース」	社会に開かれたかながわの大学フェア
2000 (平成12)	生涯学習支援者研修「社会教育主事セミナー」「公民館主事セミナー」「教職員のための生涯学習セミナー」「学校と地域との連携を考えるセミナー」「学習相談員セミナー」「生涯学習ボランティアセミナー」「男女共同参画アドバイザーセミナー」「情報システム実務コース」	社会人のための大学フェアinかながわ 生涯学習情報センターボランティア講座
2001 (平成13)	生涯学習支援者研修「社会教育主事セミナー」「公民館主事セミナー」「教職員のための生涯学習セミナー」「学校と地域との連携を考えるセミナー」「学習相談員セミナー」「生涯学習ボランティアセミナー」「男女共同参画アドバイザーセミナー」「情報システム実務コース」	社会人のための大学フェアinかながわ 生涯学習情報センターボランティア講座
2002 (平成14)	生涯学習支援者研修「社会教育主事セミナー」「公民館担当者セミナー」「教職員のための生涯学習セミナー」「学校と地域との連携を考えるセミナー」「学習相談員セミナー」「生涯学習ボランティアセミナー」「男女共同参画アドバイザーセミナー」「情報システム実務コース」	社会人のための大学フェアinかながわ 生涯学習情報センターボランティア入門講座
2003 (平成15)	生涯学習支援者研修「社会教育主事セミナー」「公民館担当者セミナー」「情報システム実務コース」「学習相談員セミナー」「生涯学習ボランティアセミナー」「男女共同参画アドバイザーセミナー」「体験活動ボランティア活動支援セミナー」	社会人のための大学フェアinかながわ 生涯学習情報センターボランティア入門講座
2004 (平成16)	生涯学習支援者研修「社会教育主事セミナー」「公民館担当者セミナー」「生涯学習実務コース」「情報システム実務コース」「学習相談員セミナー」「生涯学習ボランティアセミナー」「男女共同参画アドバイザーセミナー」「体験活動ボランティア活動支援セミナー」	第7回社会人のための大学フェアinかながわ 生涯学習プログラム講座 生涯学習情報センターボランティア入門講座
2005 (平成17)	生涯学習支援者研修「社会教育主事セミナー」「公民館担当者セミナー」「生涯学習担当者コース」「学習相談担当者コース」「情報システム担当者コース」「地域づくり推進セミナー」「男女共同参画アドバイザーセミナー」	第8回社会人のための大学フェアinかながわ 生涯学習プログラム講座 生涯学習情報センターボランティア入門講座 ボランティア活動総合相談会
2006 (平成18)	生涯学習支援者研修「社会教育主事セミナー」「公民館担当者セミナー」「生涯学習担当者コース」「学習相談担当者コース」「情報システム担当者コース」「地域づくり推進セミナー」「男女共同参画アドバイザーセミナー」	第9回社会人のための大学フェアinかながわ 生涯学習プログラム講座 生涯学習情報センターボランティア入門講座 ボランティア活動総合相談会
2007 (平成19)	生涯学習支援者研修「社会教育主事セミナー」「公民館担当者セミナー」「生涯学習担当者コース」「学習相談担当者コース」「情報システム担当者コース」「男女共同参画アドバイザーセミナー」	第10回社会人のための大学フェアinかながわ 生涯学習プログラム講座 生涯学習情報センターボランティア入門講座 ボランティア活動総合相談会
2008 (平成20)	生涯学習指導者研修「社会教育主事コース」「公民館担当者コース」「生涯学習担当者コース」「学習相談担当者コース」「情報システム担当者コース」「男女共同参画コース」	第11回社会人のための大学フェアinかながわ 生涯学習プログラム講座 生涯学習情報センターボランティア入門講座 よくわかるボランティア・ナビ
2009 (平成21)	生涯学習指導者研修「社会教育主事コース」「公民館担当者コース」「生涯学習担当者コース」「学習相談担当者コース」「男女共同参画コース」 「PLANETかながわ」入力担当者研修会	第12回社会人のための大学フェアinかながわ(第1弾、第2弾) 生涯学習情報センターボランティア入門講座 よくわかるボランティア・ナビ
2010 (平成22)	生涯学習指導者研修「生涯学習担当者実務コース」「社会教育主事コース」「読書活動実践コース」 「PLANETかながわ」入力担当者研修会	第13回社会人のための大学フェアinかながわ(第1弾、第2弾) 生涯学習情報センターボランティア入門講座 よくわかるボランティア・ナビ
2011 (平成23)	生涯学習指導者研修「社会教育担当者コース」「読書活動実践コース」 「PLANETかながわ」入力担当者研修会	第14回社会人のための大学フェアinかながわ(第1弾、第2弾) 生涯学習情報センターボランティア入門講座 よくわかるボランティア・ナビ はじめての方のためのパソコン講座
2012 (平成24)	生涯学習指導者研修「社会教育担当者コース」「公民館担当者コース」「読書活動実践コース」 「PLANETかながわ」入力担当者研修会	第15回社会人のための大学フェアinかながわ(第1弾、第2弾) 生涯学習情報センターボランティア入門講座 よくわかるボランティア・ナビ はじめての方のためのパソコン講座
2013 (平成25)	生涯学習指導者研修「社会教育担当者コース」「公民館担当者コース」「読書活動実践コース」 「PLANETかながわ」入力担当者研修会	第16回社会人のための大学フェアinかながわ(第1弾、第2弾) 生涯学習情報センターボランティア入門講座 はじめての方のためのパソコン講座

*出典：主に『事業報告書』。一部、『生涯学習要覧(生涯学習文化財要覧)』、業務用資料で補充。

11 組織の推移(1954～2014年度)

推移	1954. 10. 1～	1962. 4. 1～	1972. 8. 1～
組 織	館長	館長	館長
	副館長	副館長	副館長
	総務課長	総務課長	管理部長
	庶務係長	庶務係長	副主幹 (企画広報担当)
	経理係長		管理課長
	整理課長	経理係長	経理課長
	受入係長	資料課長	館内奉仕部長
	保管係長	受入係長	図書課長
	奉仕課長	1955. 5. 10発令 閲覧係長	閲覧課長
	館内奉仕係長	奉仕課長	館外奉仕部長
	館外奉仕係長	1955. 6. 1発令 図書係長	整理課長
	視聴覚課長	普及係長	普及課長
	整理係長	視聴覚課長	視聴覚部長
	奉仕係長	整理係長	受入課長
	文化課長	奉仕係長	業務課長
	企画係長	文化課長	文化資料部長
運営係長	企画係長	郷土資料課長	
		文化資料課長	
		文化部長	
		企画課長	
		運営課長	

大幅な分担事務変更のため推移を特定できない

1962. 5. 1
発令

1954. 10. 1 図書館組織規則及び同規則施行規程制定(5課10係制)

1962. 4. 1 図書館組織規則施行規程の一部改正(課名、係名の一部改正)

1972. 8. 1 図書館組織規則制定(6部12課制)

推移	1974. 8. 1～	1981. 6. 1～	
組 織	館長	館長	
	副館長	副館長	
	管理部長	管理部長	
	副主幹(企画広報担当)	管理課長	
	管理課長	副主幹(企画広報担当)	
	管理係長		
	経理課長	経理課長	
	施設保全課長	施設保全課長	
	館内奉仕部長	館内奉仕部長	
	図書課長	図書課長	
	受入係長		
	整理係長		
	閲覧課長	閲覧課長	
	閲覧係長	副主幹(計画・研修担当)	
	相談係長		
	館外奉仕部長	館外奉仕部長	
	整理課長	整理課長	
	整理係長		
	普及課長	普及課長	
	普及第一係長	副主幹(事業担当)	
	普及第二係長		
	視聴覚部長	視聴覚部長	
	受入課長	受入課長	
	業務課長	業務課長	
	文化資料部長	文化資料部長	
	郷土資料課長	郷土資料課長	
	行政資料課長	行政資料課長	
	文化部長	文化部長	
	企画課長	企画課長	
	企画第一係長		
企画第二係長			
運営課長	運営課長		

大幅な分担事務変更のため推移を特定できない

1974. 8. 1 図書館組織規則一部改正、同組織規程制定(6部13課10係制)

1981. 6. 1 図書館組織規程廃止(6部13課制、係制廃止)

推移	1984. 4. 1～	1993. 11. 1～	1995. 4. 1～
組 織	館長		館長
	副館長		副館長
	管理部長		管理部長
	管理課長		管理課長
	副主幹(企画広報担当)		
	経理課長		経理課長
	施設保全課長		施設保全課長
	調査部長		調査部長
	協力課長		協力課長
	副主幹(企画・協力担当)		
	調査閲覧課長		調査閲覧課長
			地域資料課長
	資料部長		資料部長
	図書課長		図書課長
	逐次刊行物課長		新聞雑誌課長
			新聞雑誌課と改称
	視聴覚部長		視聴覚部長
	視聴覚資料課長		視聴覚資料課長
	業務課長		業務課長
	文化資料館部長		文化資料館部廃止
	郷土資料課長		調査部へ編入 地域資料課と改称
	副主幹 (郷土資料担当)		
	行政資料課長		行政資料課は廃止
	主幹(県史担当)		
	副主幹(県史担当)		
	音楽堂部長		音楽堂、県民部へ移管
事業課長		同上	
技術課長		同上	
副技幹(技術担当)			

1984. 4. 1 図書館組織規則制定(6部13課制—音楽堂が図書館組織の一部)

1993. 11. 1 図書館組織規則の一部改正(5部12課制)文化資料館部廃止

1995. 4. 1 図書館条例の一部改正(音楽堂、県民部へ移管)図書館組織規則の一部改正(4部10課制)

推移	2006. 4. 1～	2010. 4. 1～	2012. 4. 1～
組 織		館長	館長
		副館長	副館長
		管理課長	管理課長
	経理施設課長		
		横浜駐在事務所	
		企画サービス部長	企画サービス部長
		企画協力課長	企画協力課長
		調査閲覧課長	調査閲覧課長
		地域情報課長	地域情報課長
			横浜駐在事務所
		資料部長	資料部長
		図書課長	図書課長
		情報整備課長	情報整備課長

2006. 4. 1 図書館組織規則の一部改正(4部9課制)

2010. 4. 1 図書館組織規則の一部改正(2部6課1駐在事務所制—横浜駐在事務所を教育局生涯学習課から移管)

2012. 4. 1 図書館組織規則の一部改正(2部6課1駐在事務所制)

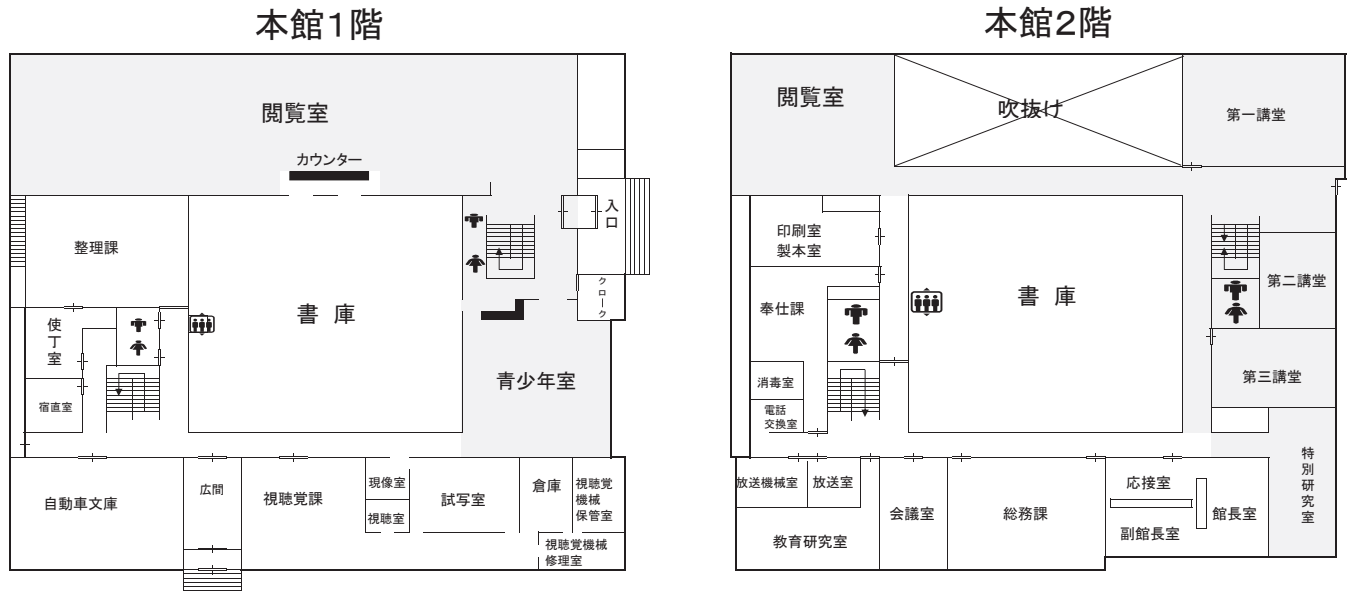
推移	2014. 4. 1～	2014. 6. 26～
組 織	館長	館長
	副館長	参事(図書館整備担当)
		副館長
	管理課長	管理課長
	生涯学習サポート課長	生涯学習サポート課長
	企画サービス部長	企画サービス部長
	企画協力課長	企画協力課長
	調査閲覧課長	調査閲覧課長
	地域情報課長	地域情報課長
	資料部長	資料部長
	図書課長	図書課長
情報整備課長	情報整備課長	

2014. 4. 1 図書館組織規則の一部改正(2部7課制)

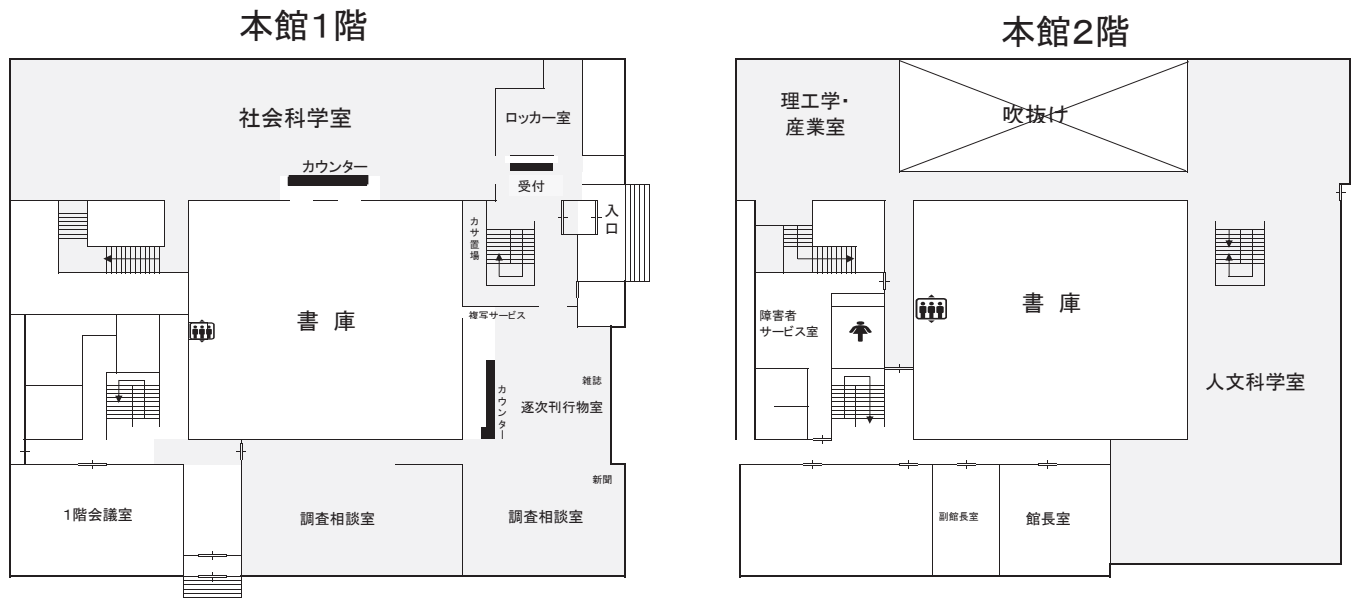
2014. 6. 26 図書館整備担当参事配置

12 館内レイアウトの変遷

- ① 1954年 創立当時のレイアウト図
 参照:『神奈川県立図書館平面断面見取図』

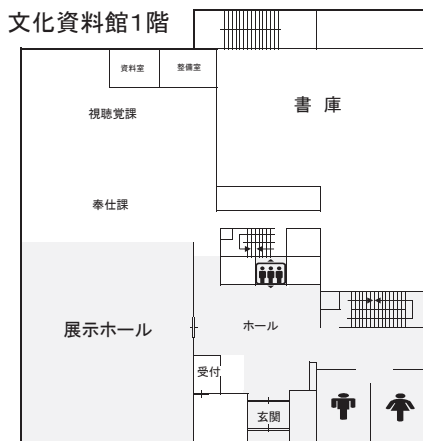
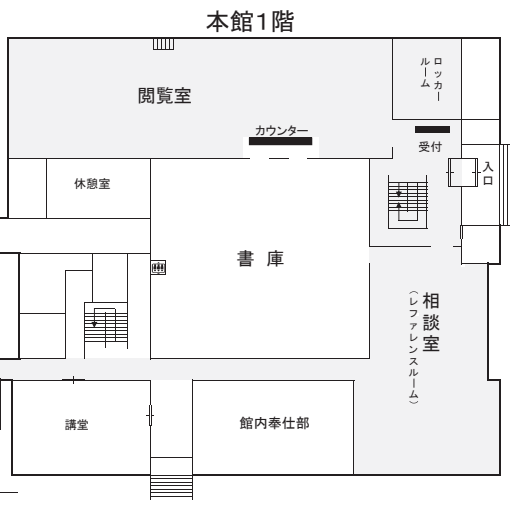
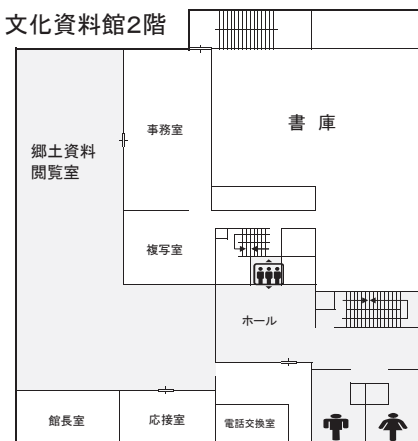
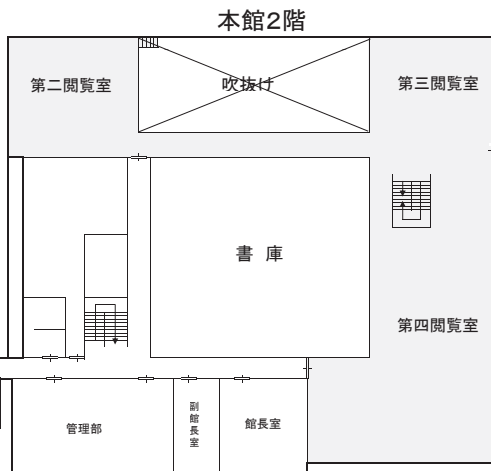
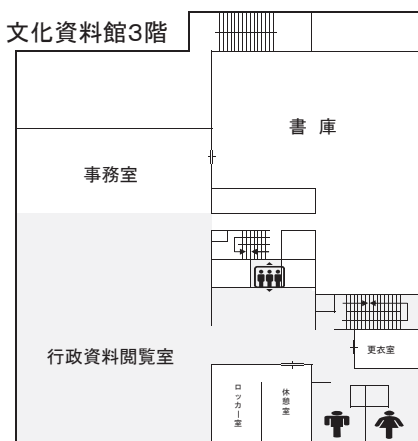
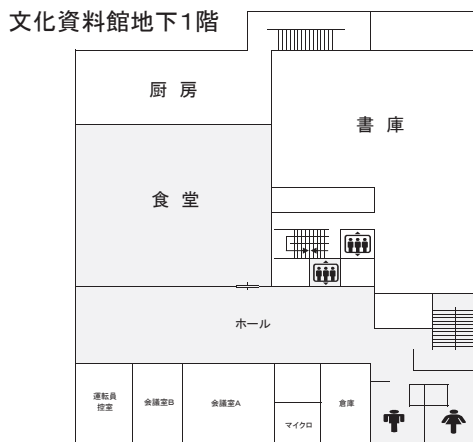
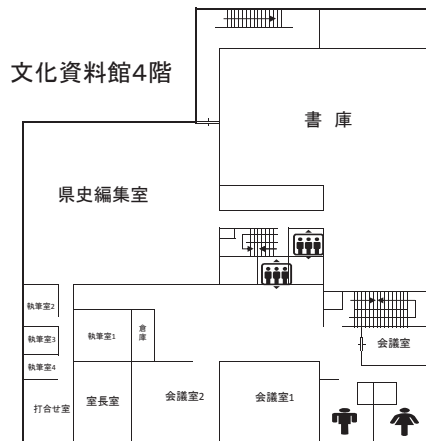


- ③ 1984年 1984年5月末～7月末までの改修工事後のレイアウト図
 視聴覚部及び学習室は文化資料館1階
 参照:『神奈川文化1984年7・8月号』



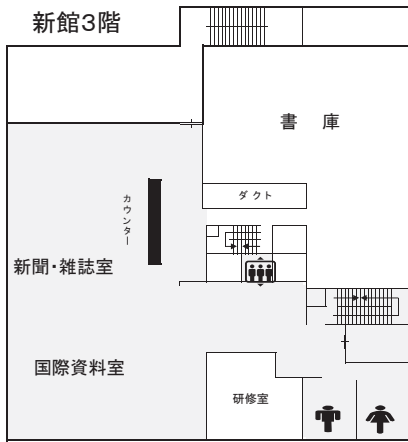
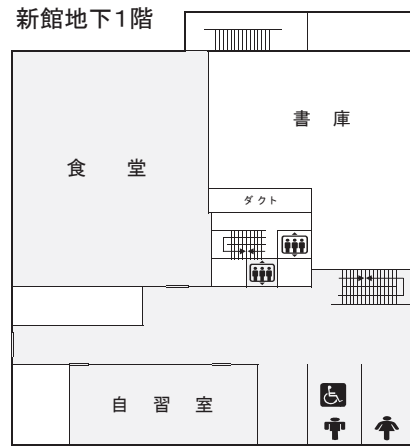
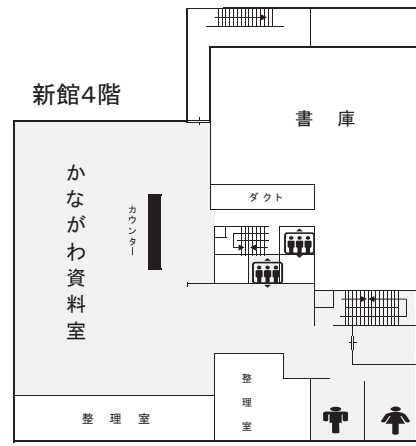
② 1972年

1972年8月の文化資料館設置後のレイアウト図
 参照:文化資料館パンフレット 県立図書館パンフレット

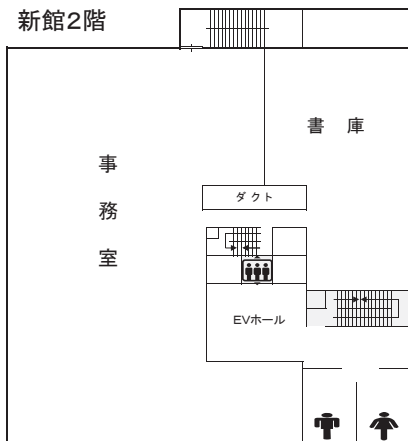
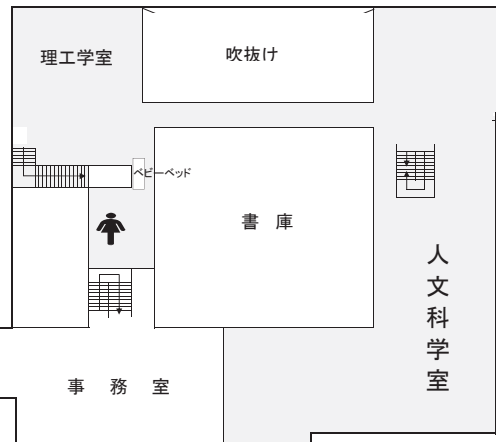


④ 2005年

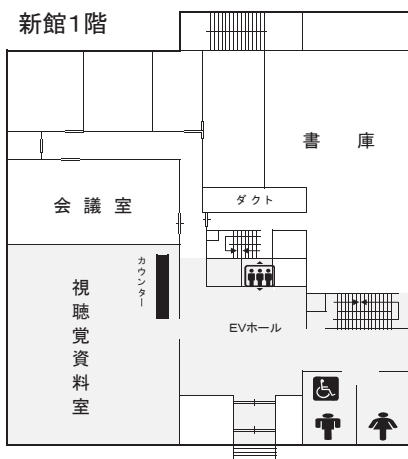
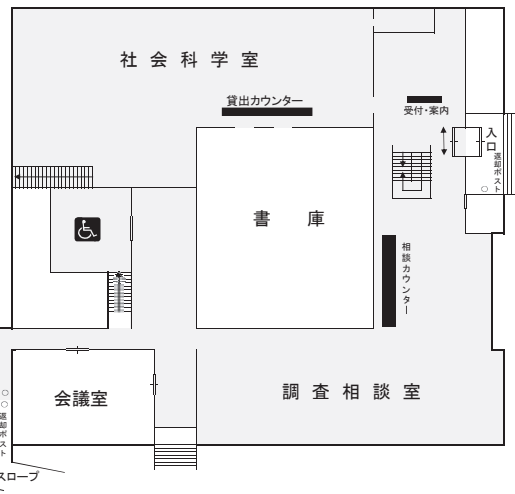
2005年4月現在
 参照:『神奈川県立図書館 利用のご案内』



本館2階

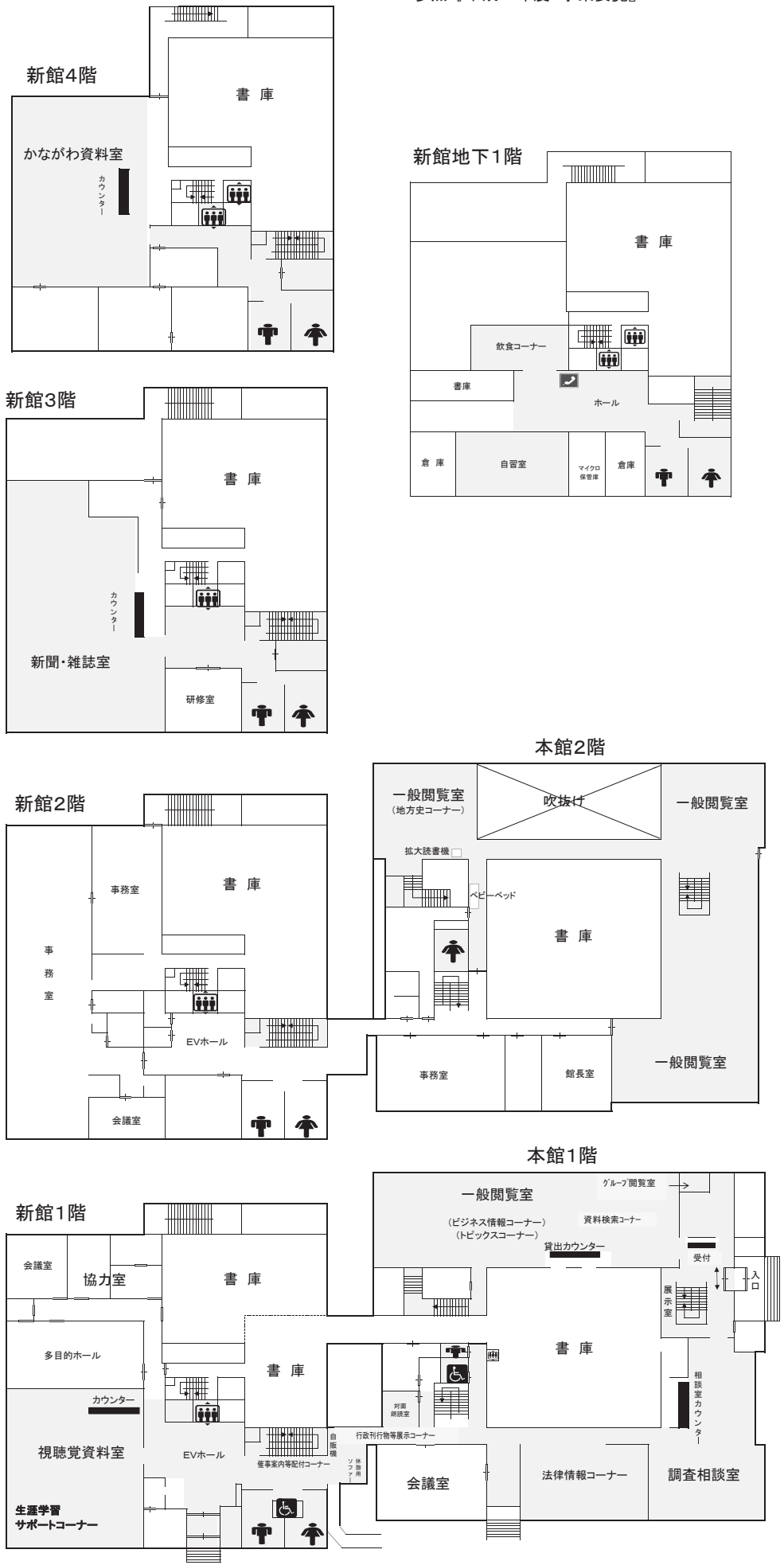


本館1階



⑤ 2014年

2014年7月1日現在
参照:『平成26年度 事業要覧』



13 建物・主要設備の状況(2014年7月現在)

ア. 建物

敷地 7,651.59 m²

建物延べ面積 15,195.55 m²

【図書館本館】 3,016.26 m²

地階 368 m² 資料保管庫 46 m²、機械室 46 m²、電気室 61 m²、その他 215 m²

1階 1,406 m² ロッカー室 32 m²、グループ閲覧室 8 m²、受付ホール 47 m²、調査相談室 277 m²、1階
閲覧室 352 m²、会議室 71 m²、対面朗読室 13 m²、調査閲覧課準備室 19 m²、書庫1・
2層 408 m²、その他 179 m²

2階 1,212 m² 2階閲覧室 367 m²、地方史コーナー145 m²、整理室 70 m²、館長室 51 m²、管理課・生涯
学習サポート課事務室 117 m²、放送室 13 m²、書庫3・4層 408 m²、その他 41 m²

塔舎 30.26 m² 機械室 20 m²、その他 10.26 m²

【図書館新館】 9,029 m²

地下3階 1,176 m² ELVホール 43 m²、中央監視室 25 m²、電気室 86 m²、発電機室 26 m²、ボイラー室
117 m²、機械室 279 m²、その他 600 m²

地下2階 1,472 m² ELVホール 48 m²、書庫 65 m²、倉庫 22 m²、車庫 344 m²、進入路 204 m²、書庫B 3層
246 m²、その他 543 m²

地下1階 1,454 m² ELVホール 114 m²、倉庫 44 m²、自習室 79 m²、会議室 23 m²、飲食コーナー194 m²、
機械室 7 m²、書庫B 1・B 2層 492 m²、その他 501 m²

1階 1,210 m² ELVホール 127 m²、正面玄関 21 m²、西玄関 16 m²、視聴覚資料室 226 m²、多目的
ホール 101 m²、協力室 61 m²、映写室 28 m²、会議室 40 m²、書庫1層 246 m²、
その他 344 m²

2階 1,210 m² ELVホール 87 m²、企画サービス部・資料部事務室 279 m²、整理室 116 m²、会議室
33 m²、電話機械室 20 m²、書庫2・3層 492 m²、その他 183 m²

3階 1,111 m² ELVホール 75 m²、新聞・雑誌室 418 m²、研修室 54 m²、書庫4層 246 m²、
その他 318 m²

4階 1,111 m² ELVホール 59 m²、コンピューター室 53 m²、オペレータ室 48 m²、端末機室 23 m²、
かながわ資料室 286 m²、整理室 54 m²、書庫5・6層 492 m²、その他 96 m²

塔屋1階 137 m² 機械室 53 m²、その他 84 m²

塔屋2階 148 m² 機械室 89 m²、その他 59 m²

【渡廊下】 85 m²

【収蔵庫】 3,065.29 m²

イ. 主要設備 (本館・新館)

変電設備 変圧器設備容量 1,500KVA

熱源設備 ターボ冷凍機 2基 (合計冷凍能力 350 冷凍トン)、蒸気ボイラー2基 (合計伝熱面積 85.8 m²)、
熱交換器 2基 (合計内容積 0.808 m³)

非常用発電機 3相、200V、200KVA (ディーゼル形)

昇降機設備 エレベーター (乗用 1基、入荷用 2基)、ダムウェーター1基

電話設備 電話交換機 (デジタル電子交換機)

神奈川県立図書館 60年の歩み

－最近10年間を中心に－

2014年10月31日発行

編集・発行 神奈川県立図書館

〒220-8585 横浜市西区紅葉ヶ丘9-2

TEL 045(263)5900(代表)

FAX 045(241)0985

アドレス <http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/>

印刷 野崎印刷紙器株式会社

〒230-0001 横浜市鶴見区矢向3-15-27

TEL 045(571)3508



古紙パルプ配合率100%再生紙を使用



神奈川県

神奈川県立図書館

横浜市西区紅葉ヶ丘 9-2 〒220-8585 電話(045)263-5900(代表)